

創立20周年記念 **桂坂**

桂坂学区創立 20 周年記念事業実行委員会

創立20周年記念 **桂坂**

桂坂学区創立20周年記念事業実行委員会

目次

6	ご挨拶 菊池潤治桂坂学区自治連合会会長
	祝辞
8	門川大作京都市長
9	古川幸隆西京区長
10	水口重忠洛西担当区長
12	20周年の慶び [写真構成] 桂坂学区創立20周年記念式典
13	桂坂ふれあい会
14	記念祝賀会
15	合同作品展
16	防災訓練と消防分団10周年記念フェスティバル
17	防災体験学習 環境フォーラム
18	桂坂学区民体育祭・前夜祭
20	桂坂小学校・大枝中学校の記念行事
	資料編
116	桂坂学区 [西京区] の年表
118	自治連合会役員名簿
119	自治会長・自治連合会委員名簿
120	桂坂学区各種団体・施設等役員名簿
121	桂坂学区内表彰者 [2000年～2008年]
122	国勢統計区別 [世帯数および人口]
123	桂坂学区創立20周年記念事業実行委員会
124	編集後記

21	桂坂の歴史と「自然」
22	歴史を刻む大枝・桂坂の地 桂坂の町名 「大枝（大江）」の古墳群
23	歌に詠まれた「大江山」 国境に在る「大江山」
24	「沓掛」という名 「山陰道」と「唐櫃越」 法華山寺「峯ヶ堂」
25	桂坂の「自然」とまちづくり かつての大枝の山村風景 桂坂を流れる「川」
26	起伏に満ちた桂坂
27	桂坂の開発と造成 造成後の「自然復元」
28	人工による桂坂の「自然」
29	「桂坂」を心の中の「歌枕」に
30	桂坂の散策
	散策コースA ①ふれあい広場 ②ふれあいの里 ③あかし あ公園 ④しらかば公園 ⑤山の辺の公園 ⑥モミジ坂緑道 ⑦香りの花公園 ⑧石畳の 道 ⑨天蓋の花公園
32	散策コースB ①春のプラザ・秋のプラザ ②かりん公園 ③プラザパーク ④桂坂野鳥遊園 ⑤日文研 「赤おに」
34	散策コースC ①古墳の森 ②桂坂公園 ③さわらびの緑道 ④サクラ坂緑道 ⑤きさらぎ公園 ⑥花の舞 公園 ⑦山の里公園 ⑧峰ヶ堂公園 ⑨細谷 公園 ⑩御陵公園 ⑪京都大学内の施設
36	桂坂は「石」の庭 空から見た桂坂 [1986年・2009年]
	コミュニティとしての桂坂
38	桂坂も20歳になりました 「まち」の成立ち 守り育てた財産
39	ふれあいクリーンデー 成立ち クリーンデーの年間回数 参加人数
40	運営について クリーンデーの成果

40	地域による独自の取組み 西総合支援学校の呼応清掃活動 クリーンデーの今後	55	桂坂の美化を支える住民 ふれあいクリーンデー 桂坂ロータリー周辺 緑水会の誕生
41	桂坂統一夏祭り 夏祭りの道のり 夏祭りの成功を願って プログラムの構成	56	西総合支援学校の「環境宣言」 環境へのこころ
42	運営方法 こんな工夫をされています 3年にかけての運営委員 勇壮な和太鼓演奏 西総合支援学校、授産園とのお付き合い	57	安心・安全のまち桂坂
43	夏祭りに宿題できます これからの「夏祭り」によせられたご意見 桂坂の広報活動 大切な広報物の配布 自治連合会広報『桂坂』	58	災害に備えて 桂坂学区自主防災会
44	自治会広報 回 覧 人手による配布でコミュニティづくり コミュニティの充実に向けて	59	防災訓練 リーダーの養成 防災器具の設置 救出・救援・調査活動 地域住民としての意識
45	住みよいまち「桂坂」	60	桂坂消防分団 訓練活動 予防活動 その他の活動
46	恵まれた自然環境 世界に誇れる街づくり	61	子どもを守る 桂坂安全・安心ネットワーク形成事業 見守り隊
47	鳥と遊ぶ道 私のミニ探鳥地 — 桂坂から唐櫃越の尾根筋を ホテル鑑賞会	62	安心・安全桂坂小学校PTAの活動 下校時安全パトロール 学区共通の腕章作成 「安全マップ」(地域危険箇所マップ)の作成
48	住環境の向上 こんなに便利になりました ケーブルテレビ「JIB」	63	「こども110番のいえ」の拡大への取り組み 青少年の健全育成のために 西京少年補導委員会桂坂支部 主な活動状況 子どもの健全育成活動
49	街の要 — センターゾーン	64	交通安全・防犯 桂坂交通安全推進会 桂坂交通安全推進会 小学生対象の「自転車教室」 高齢者ドライバーの研修会 その他の活動
50	先進的な取組み 資源ゴミ回収 使用済みてんぷら油の回収 イズミヤの「マイバック持参」運動 「環境フォーラム」の開催	65	桂坂の防犯 桂坂防犯推進協議会 活動状況 防犯推進活動上の問題点と今後の課題 「青パト」発進 おりばステーション「星の坂」
51	高い環境意識 — 景観・環境に関心をもち、 学習してきました 建築協定 [建築協定制度とは・京都市内の建 築協定・桂坂の建築協定・有効期限と更新 一人協定から合意協定へ・建築協定と地区 計画・桂坂地区建築協定協議会発足]	66	西京警察署大枝交番 大枝交番の移動開設 大枝交番の活動 最近の犯罪の特徴
52	桂坂あかしあ自治会の建築協定更新		
54	マンション問題 京都市による行政指導		

	空巢対策 大枝交番管内の街頭犯罪、侵入犯罪の認知状況 〔図表〕		
67	新たな「ふるさと」桂坂 —— 地域と子ども	79	明日に翔たく大枝中学校 —— 地域にささえられて
68	学びの拠点 桂坂小学校 樹木の名を持つ四つの門 クローバーランドに輝く生命	80	生き方探究・チャレンジ体験 地域の施設での体験学習 授業に参加する地域の人たち 本の世界と向き合う クリーンデーへの参加 開かれた学校をめざすPTA活動 地域と連携を深める3校のPTA
69	子どもの時間 くつろぎの学び舎 「ハートルーム」の役割	81	働く父母と共に命を育む みんなあつまれ！かざらっこ 京都市桂坂保育所 京都市桂坂児童館
70	より充実した図書室を目指して 本の世界へのいざない コンピュータは各教室1台の時代 20年間の推移 —— 児童数・学級数 〔図表〕	82	東桂坂保育園 子育て支援・桂坂子育て応援サロン
71	開かれた学校を目指して 地域の方を招いて「感謝の集い」 海外・国内の文化を学ぶ	83	心身ともに健やかに
72	輝け・子どもたち —— 小学校の1年間	84	スポーツの振興 体育振興会 学区民体育祭
74	みなさんに支えられて —— 地域と結ぶ様々な授業 子どもの記憶に残る20周年 山の手倶楽部の優しい先生たち 地域に出かけて「調べ学習」 歌や踊りを地域の方に披露	85	多彩な競技種目 体育祭は貴重なコミュニケーションの場 区民体育祭順位 〔一覧表〕
75	睦みあう上級生・下級生 校区内オリエンテーリング 心のバリアフリーを学ぶ	86	20周年記念体育祭の前夜祭 桂坂のスポーツ行事
76	優しさに包まれて —— PTAから広がる人々の輪 地域が子どもを育む PTAフェスティバル 桂坂・音楽の集い カザラッカコンサート 子育て・教育フォーラム	87	対外試合成績 〔一覧表〕 「体振」のクラブ・同好会活動
77	ふれあい遊びとおぜんざいの会 もっともっと顔見知りをつくろう —— 子どもをつつむ諸団体 心のつながりは気持ちのいい挨拶から —— 朝の声かけ運動	88	元気な山の手倶楽部の人たち 全体活動 同好会活動の楽しみ
78	年代を超えた母達の集い 絵手紙講習会 パソコンの先生は子どもたち!? 子どもボランティア体験隊 子どものための様々な催し	89	地域の様々なサークルやクラブ 地域女性会 社会福祉協議会 桂坂小学校PTAのスポーツクラブ
		90	公衆衛生の普及と向上を目指して 保健協議会の活動 集団検診と献血会
		91	出合い、ふれあい、助け合い —— 福祉
		92	人の輝く福祉のまちづくり 社会福祉協議会 目的と理念 桂坂社会福祉協議会 主な事業
		93	賛助会員と共同募金 福祉に関する相談

	温もりのある地域づくり 桂坂地域女性会 主な活動		その他の文化活動グループ シルフィード合唱団 本とお話の会「パンフルート」 桂坂手づくり絵本の会
94	心の繋がりを求めて 桂坂ほっとラインの会 目的と利用者の対象	104	文化活動の拠点 カザラッカコンサート
	洛西ふれあいの里 — 福祉ゾーン	105	時代祭の行列に参加
95	授産園 施設の目的 作業 施設の体制 地域とのかかわり	106	国際日本文化研究センター — 日文研 「日文研」はどんな所？ 「日文研」らしさ その1 「日文研」と桑原流「共同研究」
	更生園 施設	107	「日文研」らしさ その2 「出前授業」
96	普通の暮らしを求めて 地域での生活 ボランティアとして	108	「日文研」ホール このホールで演奏しました 「桂坂文化フォーラム」開催
	療護園 施設 リハビリ [機能訓練] 園での生活	109	わたしたちも参加できます 学術講演会と公開講演会 大江健三郎氏も講演しました 日文研フォーラム 日文研の一般公開 わたしたちも利用できます データベース 図書館 レストラン「赤おに」
97	デイサービスセンター 総合老人福祉施設 沓掛寮 寮の施設 デイサービスセンター [通所介護] 新しい制度 居宅介護支援事業所 沓掛寮 京都市沓掛地域包括支援センター	110	京都大学桂キャンパス [附 散策マップ] 自然環境との調和・地域との融合 クラスターとは？
98	ふれあい会館 研修施設 健康増進 教養講座 宿泊・保養施設	112	建物の特徴 誰でも利用できます エコキャンパス
99	桂坂野鳥遊園 西総合支援学校 校名の変更 教育方針	113	Neo 西山文化 桂坂京大キャンパス問題連絡協議会
100	地域とのコミュニティ 地域でのふれあい — 福祉施設の諸行事	114	桂イノベーションパーク JST イノベーションプラザ京都 京大桂ベンチャープラザ 北館・南館 研究開発型企業エリア
101			
102	文化・学術・芸術 地域の文化活動 各種団体の同好会・サークル 山の手倶楽部と地域女性会 桂坂小学校PTA文化部		
103	木もれ日・ひなたぼっこ		





桂坂自治連合会会長
菊池 潤治

10周年記念事業からあつという間に20周年を迎えました。

その間、桂坂の皆様のご支援、ご協力のお蔭で、安心・安全のまちづくりが進み、この度20周年の記念事業もすべて終えることができました。主催者として深く感謝申し上げます。

桂坂の人口も毎年少しずつ増えて、本年5月現在、11,687名、3,736世帯となり、西京区内では檜原、松尾学区に次ぐ3番目のまちとなりました。自治会も昨年春に「もくれん自治会」が誕生し、桂坂自治連合会は15自治会の連合体となり、各自治会、各種団体の皆様のご協力を得て運営しております。

要因は様々ですが、市内で自治会離れが進む中、当学区では92%の方に会員としてまちづくりにご協力いただいております。

桂坂自治連合会の掲げる「基本理念」は、次の3点です。

- I. 自由な雰囲気か漂うまち・桂坂
- II. 便利で住みよいまち・桂坂
- III. 安全、安心のまち・桂坂

緑の空間、澄んだ空気、それに歩道・緑道が整備されているなど環境保全の行き届く桂坂では、個々の家庭を尊重し、何事においても強制的なことは控えなければなりませんし、また、古くから居住している方々と新たに入居された方々との融和にも配慮しなければなりません。

「便利で住みよい」という点では、カナート・イズミヤは、誘致・開店に至るまでに8年の年月を要しましたが、桂坂の皆様の求めに応じた営業を心がけ、また、この店開きによって街路に人の流れも生まれて今やすっかり桂坂の「核」的存在となっております。交通アクセスの面では、市バス、京阪京都交通バス、ヤサカバスが阪急桂、洛西口駅、JR桂川駅に向かうバスを運行し、生活も随分便利になりました。ただ、地下鉄の桂坂乗り入れの件につきましては、京都市の財政上から不可能のようです。しかし、平成11年に提出



した請願書が市会で採決されたこともあり、京大、日文研、市立芸大の存在する、この西京区の発展のためにも今後とも粘り強く、諦めずに進めていくべき問題だと思っています。

「安全、安心のまちづくり」では、この20年間、凶悪な犯罪の発生はほとんどなく大きな災害に見舞われることもありませんでした。これは防犯、防災意識の高い皆様の平素からのご努力あってのことと考えております。加えて毎年実施される自主防災会、各自主防災部の訓練、消防分団の日頃の予防・警戒活動なども学区内の安心・安全に大きく寄与していることと思えます。子どもさんの安全につきましては、常に学校の先生方、PTAや、少年補導委員会、山の手倶楽部、地域女性会など学区内の各種団体の連携を深めていく必要があります。

未来の夢ある桂坂を構築するためには、教育、福祉、環境、景観問題などしっかり足元を見据えて、一步一步前進していかねばなりません。

情報化時代といわれていますが、自治連合会の広報『桂坂』は今や至れり尽くせりの大きな存在です。情報を住民の皆さんに提供する、これが自治活動の基本であると思っています。緊急・災害時には特に、迅速かつ確かな情報が欠かせません。広報紙、回覧板など情報活動の重要性を認識しつつ、安心・安全なまちづくりを進めていきたいと思えます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



祝 辞



京都市長
門川 大作

人々の楽しげな話し声、子どもたちの歓声、その子どもたちを見守るやさしいまなざし、人と人が集うところにあふれる笑顔、そして地域の温もり。

まちができるというのは、ただ家が建ち並び、道路ができることではなく、人々のふれあい、笑顔、温もりがその土地に宿り、育まれていくことなんですね。桂坂学区の輝かしい創立20周年に際して、改めて深く実感しています。

菊池潤治自治連合会会長をはじめ地域の皆様が、この桂坂学区ならではの絆と温もりを、大切に育んでこられた20年の尊い歩みに、心から敬意を表します。

「かつらの並木、鳥のうた、夢はふくらむ」、「みどりの風を糧として、かよう心」。桂坂小学校の校歌の1番・2番の一節です。貴学区の皆様は、そんな桂坂の美しい自然の繊細さ、奥深さを、心に映しながら暮らしておられるのでしょうか。だからこそ桂坂学区では、人と人のこまやかな心の交流が生まれ、地域の絆が深いのだと思います。

また、桂坂小学校校歌の3番には、「この理想、世界を翔けよう桂坂」とあります。地域の皆様が高い理想を掲げ、自治の気風に満ちた安心安全な暮らしを実現されている桂坂学区。そして教育の志と福祉の心が息づき、世界有数の知が集積する貴学区は、“京都の桂坂学区”であると同時に、まさに“日本の、更には世界の桂坂学区”であります。

私は、「子どもに笑顔、若者に夢、お年寄りに安心と生きがい」を第一に、市民の皆様と共に汗する「共汗」と、行政の縦割りを排した政策の「融合」により、京都の未来のまちづくりに、全力で取り組んでおります。桂坂学区の皆様！引き続き夢や誇り、行動を共有しつつ、京都のまちづくりの力強いけん引役として、お力添えいただきますようお願い申し上げます。

結びに、桂坂学区が更に50年、100年とますます御発展されますこと、並びに学区民の皆様のお健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。



祝 辞

桂坂学区の皆様、創立 20 周年という記念すべき、輝かしい節目を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

また、日頃から西京区政の推進に多大な御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

西山連峰に囲まれ、自然環境に恵まれた桂坂学区は、京都大学桂キャンパス、国際日本文化研究センター、桂坂野鳥遊園等の学術・文化施設、洛西ふれあいの里等の福祉施設が充実するとともに、今も人口が増加しており、若年層の割合が高く、若いエネルギーに満ち溢れている学区であります。

更に、自治会加入率が非常に高く、卓越した「地域力」「人間力」により、自治連合会や各種団体が積極的かつ多彩な活動を展開しておられます。

桂坂学区の 20 年間の歴史は、地域に根ざし、自然と調和した理想の「まちづくり」を確立されたものであり、まさに本市が目指すべき地域コミュニティ活性化のモデルと言うべきものであります。

これもひとえに、菊池潤治自治連合会長をはじめ、歴代役員の方々や学区民の皆様方の御熱意とたゆまぬ御努力の賜であり、深甚なる敬意を表する次第であります。

西京区役所におきましては、豊かな自然と悠久の歴史に彩られた個性と魅力を生かした「未来に羽ばたくまちづくり」を推進するため、今後とも、地域活動を積極的に支援し、地域の更なる活性化を図って参りたいと考えておりますので、皆様方のより一層の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、栄えある 20 周年を契機として、桂坂学区が未来に向けて更に飛躍されますことを御期待申し上げますとともに、学区民の皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



西京区長
古川 幸隆



祝 辞



洛西担当区長
水口 重忠

桂坂学区の皆様、学区創立20周年、誠におめでとうございます。この記念すべき節目の年を、皆様と共に迎えられましたことを心から嬉しく思っております。

西京区内で最も新しい学区であります桂坂学区が、20年の年輪を刻まれる中で、4,000人もの方々が参加される「ふれあい統一クリーンデー」の清掃活動や、自治会ごとに知恵と力を寄せ合い繰り広げられる「統一夏祭り」をはじめとする、住民の親睦と交流を根幹においたまちづくり活動をしっかりと根付かせて来られました。

「合同作品展」などの多彩な文化創作活動や大いに盛り上がる「学区民体育祭」などは、今もお発展を続けるまちの活力を示すものであり、また、「洛西ふれあいの里」、「西総合支援学校」、「国際日本文化研究センター」、「京都大学桂キャンパス」など、桂坂の有する施設との交流により、人にやさしい共生のまち、文化学術に親しむまちとして、住民の皆様の活動がさらに幅広く奥深さを増していると感じます。

加えて、防犯・防災、環境など、安心・安全を守る活動においても、創意工夫を持って地域ぐるみで積極的に取り組まれています。

このように多様な地域活動が活発に展開されていることは、人と人との絆を大切にしながら、「自分たちのまちは自分たちで住みよく築いていこう」という、創立以来の自主自立の熱い思いが、今日に至るまで引き継がれている証であります。常に先頭に立ってまちづくりを推進されている菊池潤治自治連合会長をはじめ地域の皆様方に、心からの感謝と深い敬意を表する次第であります。

さて、西京区では、区民の皆様とともに、「心豊かで安心安全に暮らせる西京区」を目指し、新たな区基本計画の策定に向けて取組を開始いたしました。計画の策定はもとより、実行にあたりましては、皆様の「地域力」を一層高めて発揮していただくとともに、洛西支所職員一同、皆様と共に汗して全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、桂坂学区が、30年、50年と時を重ね、いつまでも「住んでよかった」と言えるまちであり続けますよう、また、住民の皆様方の御健勝と御多幸を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。





日文研 春爛漫 山の手倶楽部 藤井京一氏

20周年の慶び

慶祝 桂坂学区創立20周年

2008（平成20）年

創立20周年記念 祝賀会



菊池潤治自治連合会会長

桂坂学区創立20周年の記念式典が平成20年11月16日（日）京都エミナース・ダイヤモンドホールにおいて多数の来賓をお迎えし盛大に挙行されました。

菊池自治連合会長の挨拶のあと、門川市長、水口洛西担当区長のお二方よりお祝いのお言葉をいただき、引き続き学区内の自治活動、日常活動など桂坂の発展と活性化に貢献された方（詳細⇒121頁「桂坂学区表彰者」）の表彰が行われました。

「桂坂ふれあい会」では、ホールに満ちる芸術の芳しさに一同、すっかり酔い痴れました。



当日の来賓席



門川大作京都市長



水口重忠洛西担当区長



市長より表彰される湯浅忍自治連合会初代会長



自治連合会会長より表彰される麴田博氏

文化高揚の中での交歓



大枝中学校の吹奏楽



山の手倶楽部のコーラス



シルフィード 室内楽とコーラス



地域女性会のフラダンス

創立20周年記念 祝賀会

11月16日(日) 17:30～
エミナース ダイヤモンドホール



当日のロビー風景



当日のロビー風景



鏡割り



榎本頼兼前京都市長



古川幸隆西京区長



祝い舞い



祝賀会会場

合同作品展

桂坂山の手倶楽部・桂坂地域女性会・
桂坂社会福祉協議会
11月2日(日)・3日(月)
ふれあい会館



桂坂学区総合自主防災訓練
消防分団10周年記念「消防フェスタ」

11月2日(日)





神戸市 人と防災未来センター見学

6月8日(日)



環境フォーラム

8月31日(日)・10月26日(日)





桂坂学区民体育祭・前夜祭

10月11日(土)・10月12日(日)
桂坂小学校校庭





桂坂小学校創立20周年記念



出会い運んだ風船飛ばし



桂坂小学校記念式典



タイムカプセル 10年前の私たち



カザラッカコンサート

大枝中学校創立20周年記念

大枝中学校記念トーク



桂坂の歴史と「自然」



南本通り 並木の初夏 山の手倶楽部 野田照代氏

桂坂の歴史と「自然」



歴史を刻む大枝・桂坂の地

桂坂の北に控える山なみの描く稜線を、^{からとこえ}唐櫃越の間道が走っています。この唐櫃越の道は、京の都からは桂川を渡り、川島、檜原、塚原、沓掛を経て老ノ坂越えに丹波に抜ける山陰街道の、いわばバイパス路で、とりわけ都を戦乱に巻き込んだ南北朝の内乱期、この間道は、京に侵攻し、あるいは敗退する武士団の足跡を記す、いわれのある道です。現在は松尾の山田地域から松尾山の北面をのぼり、尾根づたいに沓掛山、天蓋峠を通過して亀岡市の篠町王子に至るハイキングコースになっています。

桂坂の町名

この松尾山を背にして南の方を望むと、左に向日丘陵、右に西山連峰、その間に洛西ニュータウン、向日市、長岡京市の街なみが続いています。この桂坂は、山林を切り拓いてつくられた、海拔150m前後の街です。南に位置する大枝学区や洛西ニュータウンを含むこの地域は古い歴史にその名を留めていますから、桂坂の町名や公園の一部にも当然、この地が歴史を刻んでいることを窺わせる名がつけられています。

桂坂には、大字に当たるものに、「大枝」と「御陵」の二つがあります。

「大枝」を冠する町名には、桂坂では北沓掛町1丁目から7丁目までの各町。大枝学区には沓掛町、塚原町、中山町、洛西ニュータウンには、東長町、西長町、東新林町、西新林町、南福西町、北福西町があります。「北沓掛町」は「沓掛町」の北に位置

することから命名されたものです。

また「御陵」のつく町名には、桂坂学区では大枝山町1丁目から6丁目までと峰ヶ堂1丁目から3丁目までがあり、御陵細谷町一帯は「京都大学桂」に町名変更されました。国道9号線沿いにも「御陵」の付く北山町、谷町、荒木町などがあります。

「大枝（大江）」の古墳群

「大枝」は古から史書などに記された地名です。ロータリーの北側に在る、すり鉢状の大きな森、これは「古墳公園」の通り名で親しまれているところです。桂坂のまちが出来る時、マスタープランに則ってこの地を「古墳公園」として整備して残すことになり、数多の円墳のうちの一基が東南の隅に移設されました。



写真は、桂坂が大規模団地として造成されつつあり、まだ「古墳の森」も公園として姿を現す前、1980年頃の貴重なもので、150m程の高みから北西方向に向けたカメラは、後方の松尾山、手前の古墳群を擁する森と一つの円墳、そして左手の下狩川しもかりがわの

姿などをとらえています。

また、図面は「古墳公園」として整備された姿です。赤松の中に点在する○印は13基の古墳で、東南隅の、○で囲むものは移設された古墳。園内には写真のとおり下狩川が流れています。しかし今は「古墳の森」の「森」にふさわしくというべきか、自然の復原力のしたたかさにすっかり委ねられたままで再び整備の手を待つ状態です。



ところで、この「森」に在る群集墳は「大枝山古墳群」と呼ばれ、古墳時代後期（6～7世紀前半）に築造されたものです。大枝小学校の東側を流れ小畑川に注ぐ下狩川沿いに谷を北に遡ると、「古墳の森」に行き着くのですが、ここに在った20基以上の円墳には横穴式石室があり、須恵器や土師器、朝鮮製の金環などが数多く出土したことから、新羅からの渡来人・秦氏一族の墓であるといわれています。近くにある「塚原」の地名が示すように、大枝の地は秦一族の勢力圏に在って、「塚」のあるところ、すなわち一族の墓所でした。

歌に詠まれた「大江山」

「大江山」は、歌枕の一つとして、近くの「小塩山」とともに古来、歌よみによって好んで詠みこまれる地名でした。

『金葉集』巻9に和泉式部の女・小式部内侍の有名な歌が収められています。

大江山生野の道の遠ければ
ふみもまだみず天の橋立

これは、歌の才能を妬み、母式部の代作だろうと戯れている人に対して「大江山を越えて行く、丹波・生野（福知山市）への道は遠いので、母式部のいる丹後の天の橋立には足を踏み入れたこともなく、母からの文もまだ見ておりません」とやり返した歌で、山城の国と丹波との境「大江山」の遙か先に在る、母のいる「天の橋立」を想い遣った歌です。

「大江山」は古くは『万葉集』にも詠まれている名のある地名で、『新古今集』にはまた僧・慈円が「月前聞雁」の題で詠んだ、次のような歌も撰ばれています。

大江山かたぶく月の影さえて
鳥羽田の面に落つる雁がね

この歌は、慈円が「大江山」と「鳥羽」という二つの歌枕の力を借りて大江山の西に沈む、冴えわたる月の光と鳥羽の田に舞い降りる雁の、二つの景物を美しく、絵画風に描写したものです。

国境に在る「大江山」

このように歌枕として有名な「大江山」は丹波国との国境に在り、「〈従是東山城国〉（是より東 山城国）」と書かれた国境を表す石柱が首塚の手前に今も残っている、そのような都から遠くはなれ、丹波国という外の世界の入口であった老ノ坂は、当時都の人々から不気味な場所と思われていた。老ノ坂峠と山陰道が通る大枝山は、私たちに多くの歴史を語ってくれている——桂坂小学校の「本とお話クラブ」が高学年用に作成した教材『歴史探訪——わがまち大枝』の記すところですが、「大江山・老ノ坂」の向うは「異界」と考えられていました。

「境（堺）」は、この峠に限らず、他を隔てて異界からの邪鬼悪霊の侵入を防ぐ重要な場所と見なされます。山城の国の「四堺」の一つであった、この老ノ坂では770年に災厄の京への侵入を防ぐために「四堺祭」が執り行われています。

「大江山」に棲み「邪鬼悪霊」と見なされた盗賊が夜な夜な出没しては京の平安を脅かすということで、朝廷の命を受けた源頼光が渡辺綱、坂田金時らの四天王を率いて大江山に向かい、酒呑童子を退治したという話はよく知られていることです。

「大枝（大江）」という地名に関して僅かの例を挙げたに過ぎませんが、桂坂を含むこの地は「私たちに多くの歴史を語ってくれています。

かなり広く用いられている「御陵」という地名もまた由緒があり、これは、9号線沿いに整備されている「天皇の杜古墳」に拠るもののようです。

「沓掛」という名

「沓掛」の由来についても、前掲の『歴史探訪』の中で次のように説明されています。

東と西を向日丘陵と西山連峰にはさまれた大枝の地は、北に松尾の家並みをひかえ、南にひらけ、陽当りもよく、緑に恵まれ、古くから格好の棲息地とされていたようだ。それで、山陰道がつくられてからは、宿場として栄えた。山陰地方から都へ上がる場合、ここでひと休みして旅のほこりを落とし、身支度をととのえ都へ入ったそうだ。山陰道を下るにもこの宿で一息入れ、わらじのひもをしめ直して旅だったとのこと。

大枝には、沓掛の名が残っている。これは、その名のとおり〈沓・くつ〉=はきものを〈掛ける〉場所の意で、旅籠や茶店が軒を連ねていたといわれている。そのにぎわいも明治の中頃まで続いたが、鉄道山陰線の開通とともに次第にさびれていった。

（「宿場町 沓掛」の項）

「山陰道」と「唐櫃越」

歴史教材中に見える「山陰道」は、古く天武天皇の時代には設けられており、「大江の関」も『日本書紀』の一本に、白鳳8（679）年11月「初めて関を龍田山、大江山に置く」とあります。「沓掛」は、『歴史探訪』が記すように、京のまちから「大江の関」、老ノ坂を経て丹波に抜ける山陰道の交通の要衝でした。

註：「大江の関」は、大枝沓掛町の、「光仁天皇皇后陵参道」と記す石柱の立つところから少し西に行った右手の高みに小さな祠があり、その付近といわれています。

この「皇后」とは桓武天皇の母・高野新笠のことです。

しかし、「大江の関」を避ける、あるいは密かに京のまちに向かう必要も時にはあります。その道が

間道の「唐櫃越」です。天蓋峠（426m）と「峯ヶ堂」辺りとの高低差は約200m、しかも隘路ですからとても交易の往来には向きません。では、「唐櫃越」はどのような道として利用されたのか、ここでも桂坂小学校の『歴史探訪』などをもとに記してみます。

旧山陰街道の北に、民家と見ましがう造りの地福寺がある。旧山陰街道の北に、民家と見ましがう造りの地福寺がある。天林山と号し、本尊は身の丈80cmの阿弥陀如来像。一木彫りで、藤原期のものと言われ、もとは桂坂の東北、唐櫃越えの山中法華山寺（俗に峯ヶ堂）にあったものがここに移されたと伝えられている。

元弘3（1333）年、後醍醐天皇方の千種忠顕が軍勢を集め丹波の篠村から老ノ坂を越えて西山の法華山寺に着陣し（唐櫃越えという説もある）京都の六波羅探題を攻めたが、あえなく敗れ、西山の陣を撤退、六波羅探題方は翌日に法華山寺（峯ヶ堂）をはじめ松尾にかけての仏寺神殿を破壊、僧坊や民家を没収、財宝類すべてを運び去ってから、あたりの民家に火を放ち、このあたりが一瞬にして焼けおち、仏像・神体・経典がたちまちのうちに消えてしまった。残ったわずかな仏像を地域の人々が桂、川岡、大枝等に運び出したといわれており、地福寺の阿弥陀如来像も、そのうちのひとつだと伝えられている。



もし今日までこれらのお寺が残っていれば、桂坂の東北から松尾にかけての西山は、高野山や比叡山と同じくらいの霊場となり、名勝地になっていたことであろうといわれている。（「地福寺と峯ヶ堂炎上」）

註：「六波羅探題」は東山区五条上る、鴨川左岸の六波羅密寺の南に在った。

法華山寺「峯ヶ堂」

千種忠顕が「西山ノ峯堂」に布陣し六波羅を攻めた、上の史実は『太平記』に見えるものです。少し後の『明德記』は「明德の乱」の顛末を伝えるもので、『平家物語』や『太平記』とともに戦記文学の1つに数えられますが、史実は琵琶法師ではなく、物語僧によって語られました。

三代将軍・足利義満の頃のことです。山陰地方で勢力を誇示していた山名一族の山名陸奥守氏清と播磨守満幸は明德2（1391）年12月に反乱を起こし、わずか一日にして潰えさるのですが、ここでそのうちの、「峯ヶ堂」に関わるくだりを記してみます。

さる程に（山名）播磨守（満幸）廿六日暮れ程に丹波の篠村に着きて合戦の評定有りけるに大葦治郎左衛門宗信 進んで申しけるは、「この勢当国に着きたる事は定めて京都へも聞こえぬらん。しからは敵 桂川を越して老の峠に馳せあがって相支へ候はば、ゆゆしき大事にて山も越し候ふべし。然らば国境の勝負に成って都へ入らん事は不定なり。只今夜山を越して峯の堂に陣をめぐされて、京勢のはたらきを目の下に見下ろして、八幡の御勢と撤し合せて御合戦有るべきか」と申したりければ、「この儀余儀なし」とて、廿六日の宵より老（の）山を打ち越して、満幸の兵千七百余騎 峯の堂に陣をとり三つ引両の旗三旒 桂川の河風、松尾山の嵐に吹きなびかせて控へつつ雲龍天に横たはれり。内野（註：官衛の荒廢に伴い無人の野と化したところ）の御陣と峯の堂と三里に足らぬ間なれば、互に敵を目にかけて両陣ともにゆらへたり。

（「山名満幸方の軍評定」）

満幸の軍勢は12月29日、「峯ヶ堂」を下りて「内野」を攻めますが、陰暦29日は晦日で月はなく、全くの闇夜。予めの評議に遅れた満幸は、「其の故は夜半ばかりに陣を發って、木の葉を分くる山路の幽なる跡を尋ねつつ馬に任せてうつ程に、東の谷へおると思ひたれば、南へ向けて打ち行く。川島辺を打ち過ぎて、丹波口へ出でたれば、夜はほのぼのと明けにけり」と言い訳をします。実はこの時、夜陰に乗じた敵方の「緋緘の鎧着て葦毛なる馬に乗りたる武者」に謀られ、行く方向を大きく逸れてしまつて味方との合流が叶わず、一日にして戦に敗れることになりました。

陰暦の月末であれば、真つ暗闇。たまたまこの時は地の利を活かした作戦を進めることができませんでしたが、唐櫃越沿いの山間に位置し、京を眼下に見下ろせる「峯ヶ堂」は陣を布くにはもってこいの場所だったがために、しばしば戦乱に捲き込まれております。法華山寺・峯ヶ堂焼失も応仁の乱の間の出来事でした。

「峯ヶ堂」（傍には「峯ヶ城」も）は、桂坂から松尾へ下りる東海自然歩道と、その北西を通る唐櫃越の道に挟まれた山の斜面に在り、現在の峰が



堂1丁目・2丁目の山際の辺りが一部その領域に含まれていたようです（現在は京都大学の用地）

桂坂の「自然」とまちづくり

かつての大枝の山村風景

夏は水のあるところ、夜はおびただしい螢が灯りを点して飛んでいた。子ども連は、ある時は団扇を持ち、ある時は菜種の穂殻を竹の先にゆわえて、宇婆多（小畑）川畔で、狩子（下狩）川の石橋のたもとの宵闇に、螢を取ることに夢中であつた。夕方、釣針に蚯蚓をさした10本20本の流し釣を、宇婆多川や谷川や、狩子川や蟹川の深い處に流しておき、暁方、弟の徳松と二人で揚げに行った。ごりもつ（大きなゴリ）や、うぐいや、ままには細い鰻がかかっていようものなら、声を上げて喜んだものだ。

…

1973.10.16 記

これは、大枝村中山出身の桂定治郎氏が、大枝小学校百周年記念誌『大枝の郷』に「少年の頃の大枝村」と題して寄せられた文章の一節です。小畑川では今も群れをつくって泳ぐ魚の姿が見られます。また、桂坂では、野鳥遊園内の人工池に注ぐせせらぎで、今や夏の風物詩ともなった、乱舞する螢を観賞することができます。

桂坂を流れる「川」

桂氏に「谷川のその源を求めゆけば菌朶の生ひたる岩間なりけり」という歌があります。

桂坂を貫流する「谷川」に、西から順に沓掛川、古世谷川、下狩川、西尾（二升）川があり、いずれも小畑川に注ぎます。松尾山南面の山裾に「谷川のその源を求め」ていくと、小さな砂防ダムに出くわし、さらにその堰を越えようと、ようやく、文字どおり「觴を濫べられる」ほどの細い水も風の架けた紅葉の「しがらみ」にしばし流れを止められ、ところどころ伏流となりながらも音



もなく流れています。

沓掛川は療護園の東に、古世谷川は山の辺の公園から西に30m程のところに、下狩川は野鳥遊園の西側の谷と池に注ぐ谷筋にそれぞれ「濫觴」があり、東の西尾川は、いま峰ヶ堂地域が宅地化されて山容すっかり変じていますが、源はその辺りにあったはずです。

かつては、こうした「細い流れ」がそこここに湧き出る谷水を集めて次第に流れを大きくし、小畑川に注いで行ったのですが、今は、源を発してすぐのところ桂坂という大きな構造物によって一旦、遮断され、その間は本来の流れを失います。

桂坂の「谷川」はいづれも、街なかを巡る際には側壁も川底もコンクリート造の「人工河川」に姿を変えてることになります。川底には水の滞留するところも、魚の棲みつける「洞ろ」もなく、雨の時以外はほとんど水も流れませんから、「ごりもつ」など水棲動物の棲息する環境とはとてもいえませんし、また私たちにしても、耳を澄まして静けさに浸れるせせらぎの音も、ちょっと足を留めて水面を眺め心癒せるような水辺もありません。ただ、春と秋のプラザを流れる小川と、野鳥遊園の前からロータリーにかけての川の造りだけは、川底、側壁ともに自然石の切石でできていてそれなりの趣もあり、流れも適当な間隔で設けられた段差によって調節され、急勾配を流れ下るよう配慮されているようですが、やはりここにも、魚の姿も水の浄化に役立つ水草も見られません。桂坂に「せせらぎ」らしき水辺を求めるとすれば、野鳥遊園の池から流れ出る、遊園の門を潜って右側に在る「流れ」ぐらいでしょうか。



近代都市に相応の街路空間の美、安全性や機能性を求めるせいですが、雨水は側溝を経て「谷川」にそのまま流れ込む仕組みになっていますから、普段はほとんど流れる水を見ることはできず、水に親しむ水辺も設えてはありません。谷川の「復元」とは程遠いようです。(序でにいえば、この桂坂を巡る「谷川」の呼び名は、川に架かる橋の欄干に、川の名ならば、例えば「古世谷川」のように、また、橋の番号ならば下流から順に「こせたに5ごうばし」のように名を記すプレート(黒地に白抜き文字)がとりつけられており確認できます)



起伏に満ちた桂坂

4つの「谷川」が桂坂地域から流れ出る下の方にはいづれも団地開発時に造られた「沈砂池」がありそこから下流の川底は本来の姿に戻ります。とはいえ、かつて桂氏ら子ども連の心をとらえ、川遊びに夢中にさせた下狩川ではなく、今は水量も乏しく、魚の棲める深みもなく、昔日の面影はありません。

こうしてみると桂坂は、上流に設けられた「砂防ダム」と、下の「沈砂池」との間に造成された人工の台地、大きな「構造物」の上に乗った「まち」といえそうです。



4つの谷を1つの台地として平坦化するには谷を削り、谷を埋める必要が生じます。

現在の桂坂は、等高線から推定すると、ロータリーの地点は海拔約130m。ここをすり鉢の底と見た場合、野鳥遊園辺りの三角点が176.7m、西念寺近くの交差点が170m、峰ヶ堂1丁目のバス停辺りで推定約160mですから、桂坂「台地」の高低差はかなりあることとなります。因みに、元コミュニティセンターの辺りは110m。



では、このような地形の山間の地をきり拓き、大規模な造成工事を経て「まち」に変容させる、つまり「やり直しのきかない構造物」として仕立てるには一体、いかなる理念のもとで、また、「目に見えない、地下の部分」の造成に際しては、いかに「細心の注意が払われ、綿密な工事が施され」たのか、私たちには気になるところです。

この点については西洋環境開発の発行した『るりびたき』（1999.8.25）の中で次のように説明されています。（関連⇒「住みよい街〈桂坂〉」46頁）

桂坂の開発と造成

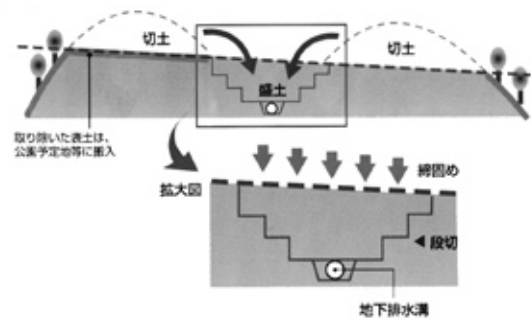
「人と自然との共生」、これが桂坂開発の基本にある考え方です。これを敷衍する桂坂のマスタープランは、生活空間として安全性、快適性、機能性を十分に備え、かつ、周囲の自然や環境とも調和させるべく、幅広い角度から作成されました。

「自然との共生」とはいつても、「開発と自然破壊は表裏一体の関係」にあることから、この造成した人工台地にいかにして「自然を復元」させるかという、難題を抱えることとなります。

そこで、「まちづくり委員会」の設置はもちろんのこと、「自然形成委員会」「バードサンクチュアリ形成委員会」「古墳公園計画委員会」の、併せて4つの分科会が設置され、構成メンバーとして都市計

画、土木、建築、生態学など多くの分野の専門家が参画、検討が進められただけでなく、「将来の住民の立場」からも検討が加えられました。緩い傾斜の山間の地を造成して出来あがる桂坂は「やり直しのきかない構造物」ですから、「目に見えない地下の部分」に対しても「細心の注意」が払われ、「綿密な工事」が施されていきます。

その後、下狩川や古世谷川など上流地域は、南下がりの地形を考慮に入れながら、丘の部分の削り取り、その土で谷を埋めるという工法で造成されていくのですが、この切土・盛土工事は、湧水の処理とともに宅地造成の根幹となるものです。桂坂では、地盤沈下を防ぐために「段切工」が施されたうえ、最深部には集水管を埋めた「透水施設」が設けられました（図面）。これは、湧水が地下に滞留することなく宅地外部に排水される仕組みです。造成工事には、また、どうしても土砂や濁水の流出を伴います。沈砂池や調整池を設けることによって下流域に被害の及ぶことを防ぐ配慮もなされました。



この「段切工」によって「盛土が馴染みやすくなり、すべりも防止」できるそうですが、切土・盛土工事の際にはさらに「設計上の土性質（単位体積重量、粘着力など）が確保されるよう、十分な締め固め」が行われます。これは「空気の隙間が少なく、密な構造になっている土ほど透水性は低下し、水の浸入による強度低下を招きにくく」するためです。

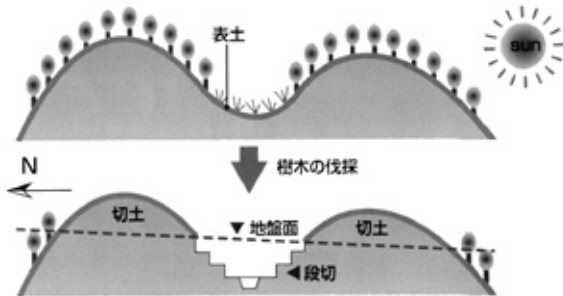
造成後の「自然復元」

では、こうした大規模な造成工事による「自然破壊」から、いかにして自然環境を復元し、保全していくか——この大きな課題を解決するためには一体どのような手がうたれたのでしょうか。

開発区域内の植物も「一部は伐らずに保存し、本来の緑の環境の維持」が図られ、「豊かな栄養分が含まれている表土（地表にある腐葉土）は、宅盤の整備後に公園予定地などに運び入れ、植栽の成育に

活用」されました（図面）。

桂坂では、「表土」の活用とともに「植樹する木の大きさや樹種に適した土質の改良にも力を入れ」た、細部にわたる配慮と工事が功を奏して、今や緑豊かな住環境が形成されました。



写真Aは1980年代後半、Bは2000年の、Cは2009年の、いずれも天蓋の花公園を、同じところから撮影した写真です。樹木の生い茂る有様は遅く見事という外ありません。

Aでは、植樹されたのは若い木のように、根づきを良くし風雪にも耐えられるように添木で固定されており。Cは20年を経た後の写真で、生い茂る樹木で公園の様相もすっかり様変わりし、「表土」移植と土質改良の効果が現れたものといえます。



Dは、同じ天蓋の花公園の西の入口から北を望んだ写真です。藤棚の先に見える山は松尾山、しかし手前から山裾まではまだ住宅は見え、建設以前の姿です。ところが2009年の写真Eを見ると、生長した藤棚が視界を遮り、一人前に緑蔭をつくっています。「緑豊かな桂坂」というべきでしょうか。



人工による桂坂の「自然」

こうして、マスタープラン作成から造成工事に至るまでをたどってみると、「桂坂の開発には、多くの人びとの意見と知恵、最新の技術が盛り込まれ」住環境として整備されているわけです。しかし、桂坂が「人工」の造成地である以上、住民としては、例えば地震などの災害に備える上で「造成工事のあらまし」は知っておかねばなりませんし、また、植村善博氏の次のようなことばも肝に銘じておく必要があります。

小畑川の上流域には丘陵や台地が広く発達する。右岸の大原野台地、左岸の塚原丘陵がその典型で、これを開析する谷は比高10m～50m程度の谷を刻み込み、平地で低温な谷底低地が展開していた。

洛西ニュータウンの開発で千丈川や野田川、北川の谷地形を周囲の大阪層群を削平した土砂で埋立て平坦化した。このため、旧谷部分では5～15mに達する軟弱な埋立地盤が見られ、振動の増幅とともに液状化による被害が心配される。

一方、桂坂団地では主に大阪層群からなる丘陵を削り、谷部には厚さ10m～40mにも達する厚い盛土工事が実施されている。大規模な地形改変のため原形地形はほとんど消滅し、平坦地となっている。

谷埋め盛土部は、年月が経過すれば住宅の耐震性が劣化し、地震災害の危険性が增大してくると懸念される。

植村善博『京都の地震環境』（ナカニシヤ出版 1999.3.30刊）

「桂坂」を心の中の「歌枕」に

ところで私たちの住む「桂坂」は、「桂」の坂。桂坂口から大枝交番までの、中央本通り両側の街路樹は「桂」の木です（国道9号線・沓掛口から桂坂への進入路にも当初「桂」が植栽されました。しかし一部が枯れて、今はイチョウの木が補植された混植の並木道です）

「桂」の木は、中国の伝説の中では「月の中に生えている」といわれているもの。『古今集』巻4・秋の部に、壬生忠岑の次の歌が見えます。

久方の月の桂も秋はなほ
もみぢすればや照りまさるらむ

「月に生うる桂の木も秋にはやはり紅葉するので月も一層、明るく照るのであろう」の意で、理智の勝った歌。冴えわたる秋の月影を見るにつけ、どうしてこうも清かな光を放つのだらう、おそらくそれは…、と思いつつ、月に生うる桂の木の、折しもの紅葉を詠む、まことに美しい、しかもスケール大きく、天空に想いを寄せての歌です。

そこで、この「桂」の美しいイメージをとまなう「桂坂」を、私たちの中に生きる「歌枕」として定着させて行くことはできないでしょうか。いい換えれば、「桂坂」という地名が、ここに住む私たちの心の中で「歌枕」的に作用し、緑豊かな、美しい心

象風景をくっきりと描き出す、そして、まちづくりの方向なり日常の活動なりに裨益してくれることになれば、ということです。

そのためには、この「桂坂」ということばに、開発時に「多くの人びとの意見と知恵、最新の技術が盛り込まれ」と同じように、私たちもまた人智を集め、それぞれが額に汗して樹木に培いながら、自然環境の維持と心とむコミュニティの形成のために地道な努力を重ねて行き、そしてまた、次世代に残すべき生活空間としての豊かな内容、常に心の回帰する拠り所「原風景」ともなりうるような内容を色々な角度・立場から付与していく必要があります。

様々な社会的要因が複雑に絡み合い、かつて家族や地域社会に見られた協和・共同よりもむしろ個々の在り様を重視する方向へと社会が変貌し、そのため各処で齟齬を来している状況下にあるだけに、この「桂坂」という地名に、私たちの手でしっかりした内容を与えて「歌枕」のごとく機能させることの必要性を痛感いたします。

（関連⇒「コミュニティとしての桂坂」38頁、
「新たな〈ふるさと〉桂坂」68頁）

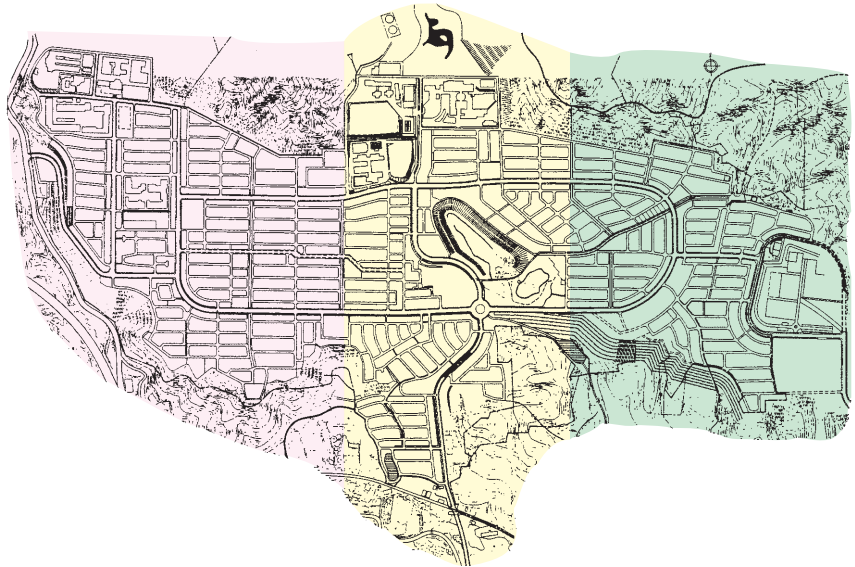
次頁よりの数頁は、桂坂の地図と写真などで「誌上散策」を楽しみ、心の中で「桂坂の歌」を口ずさみながら桂坂の「来し方・行く末」を考えていただくとの趣向のもとに作成した資料です。



- ①西尾川
- ②淳和天皇御母陵
- ③下狩川
- ④大枝小
- ⑤小畑川
- ⑥国道9号線
- ⑦洛西ニュータウン
- ⑧国道沓掛口
- ⑨桂坂口
- ⑩大江の関跡
- ⑪光仁天皇皇后（高野新笠）陵
- ⑫天蓋の花公園
- ⑬かりん公園
- ⑭ふれあいの里
- ⑮山の辺の公園
- ⑯桂坂小
- ⑰大枝中
- ⑱野鳥遊園
- ⑲日文研
- ⑳古墳の森
- ㉑桂坂公園
- ㉒ロータリー
- ㉓沈砂池
- ㉔唐櫃越
- ㉕松尾山
- ㉖峯ヶ堂跡
- ㉗御陵公園
- ㉘京大桂キャンパス

桂坂の散策

桂坂を便宜上、西・中央・東の三つに分けて、公園や緑道の紹介と散策コースの一例を記しました。四季折々、表情豊かな桂坂の自然を楽しまれてはいかがでしょうか。



散策コースA

- ①ふれあい広場 —— ⑤山の辺の公園 —— ⑥モミジ坂緑道 ——
⑦香りの花公園 —— ⑧石畳の道 —— ⑨天蓋の花公園



①ふれあい広場

この広場は「ふれあいの里」のバス停の北側にあります。春は、バス通りに面した桜の並木が美しく、その上の「ふれあい広場」にはグラウンドゴルフなどのできるグラウンドや円形劇場風の野外ステージがあります。その近くに数個のベルからなる、時を知らせる鐘「カリオン」があります。その上には、桂坂の土地に棲息し南の空に向かって羽いっばいに風を受け今にも飛び立ちそうなキジの造形物が載っています。心安らかなひと時を演出してくれる風や鐘の音によって、殺伐とした現在の暮らしの中で、人間性豊かな生活を取り戻そうという願いのもとに制作されたものようです。他にもいくつかのオブジェがあります。ふれあい祭りの会場となるこの広場内は、車椅子で回ることができます。♿

②ふれあいの里

福祉関係の施設。「ふれあい広場」に立ち、向かって東から療護園、更生園、授産園の各施設。3階の建物はふれあい会館（宿泊可能）、中にレストラン『ベルデ』や健康増進室の施設などがあります。会館の裏、南西方向に特別養護老人ホーム「杏掛寮」、西に西総合支援学校があります。

③あかしあ公園

鉄棒、ブランコ、滑り台、砂場があり、公園北側には高いフェンスに囲まれた球技の可能なグラウンドがあります。



④しらかば公園

近隣のコミュニティの場です。 


⑤山の辺の公園

モミジ坂緑道の北の山裾にあります。園内には東屋や「まちづくり委員」で桂坂在住の彫刻家・小清水漸氏作のイタリア産の大理石を使用した舟形の造形物やモダンな灯籠があります。



⑦香りの花園

円形劇場風の公園を取り巻くように藤棚の回廊があり、夏は程好い緑蔭をつくってくれます。ただここには、屋根のある休憩所がなく、雨を避けることはできません。

公園の北側を東西に横切る「石畳の道」は道幅も広く、東に行けばプラザパーク、桂坂センター街へと続きます。そのところどころにも休憩用のベンチとして大きな切り石が置いてあります。 



⑧石畳の道

別に「ファッションストリート」の名があり、落ち着いた感じのする道。「まちづくり」当初の計画では、この両側には店舗付き住宅が立ち並ぶはずでした。道幅は広く車も通行でき、並木にエゴノキが植栽されています。石畳に敷かれているのは中国産の御影石で、「香りの花園」の辺りには、かつてパリのルーブル美術館前の広場を埋め、フランス革命の遠い歴史を知る石もはるばる海を渡ってこの桂坂に到来、舗装に用いられているそうです。



⑨天蓋の花公園

「天蓋の花公園」は、「サンクンガーデン」風に全体を1間ばかり掘り下げてあります。石は、島根県産の来待石（きまちいし）で、年を経るとともに色合いを深めるといわれています。また、この公園は住宅街のはずれにあるために、大人の間では死角がいくつかあって、人目につかず危ないのではないかとと思われるかもしれませんが、子どもたちにとっては元気に遊びまわることのできる、面白い遊び場のようなようです。



⑥モミジ坂緑道

「山の辺の公園」から南端の「天蓋の花公園」までの緑道をいいます。舗道には自然石などが敷き詰められ、木蔭にはところどころ大きな切り石製のベンチも置かれています。



散策コースB

- ①春のプラザ・秋のプラザ —— ②かりん公園 —— ③プラザパーク ——
④桂坂野鳥遊園 —— ⑤日文研「赤おに」

①春のプラザ・秋のプラザ

「桂坂口」のバス停から北に進み、交番から一区画先で西に曲がり少し行くと、「東海自然歩道」(京都市緑地管理課)の案内板があります。

「かえで」地区は桂坂で最初に販売された地域だけに、開発業者が最も力を入れて「まちづくり」を行った地域です。その頃の宣伝用の案内ピラにはこの辺りの風景が用いられ、大いに耳目を惹くことになりました。もともと北の山裾から流れていた小川が、桂坂の開発に際して贅沢な造りの川に模様替えし、起伏を生かした川のほとりに、落葉、常緑織り混ぜた樹木、桜やモミジの木が植栽され、人工造成のものが今ではもう「桂坂の自然」を代表する風景の一つに数えられるようになりました。

1間幅ぐらいの小川に名付けられた「春のプラザ」には桜、「秋のプラザ」にはモミジがそれぞれ主木として植えられていて、桜の頃、若葉、紅葉の頃は特に趣があり、撮影の場所としても面白いところです。「秋のプラザ」の景観は第4回京都市美観風致賞を受賞しています。ただ、「東海自然歩道」の一部ながら雑草蕪雑のこの水辺の様は、果たして「豊かな自然」のあらわれとみなすべきなのかどうでしょうか。

この川は、同じ人工のものでもバス通りに見られるコンクリート造りの川とは異なり「贅沢な造り」で、護岸、川床ともにアカミカゲ石の石組(桂坂中央通りのロータリーから野鳥遊園に至る川も似たような石組)です。しかし残念ながら水量乏しく、水棲生物、魚などの姿はありません。



②かりん公園

造られた当初の仮の名は「冒険公園」で、桂坂で最初にできた児童公園です。周りにはカリンの木が多く植えられており、秋深くなると鮮やかな黄色い実がたわわになります。このようなことから「カリン公園」の名が付いたのでしょうか。傾斜地にあり、子どもたちが遊びに夢中になるところです。ナラやクヌギの木も植えられており、クリスマスリースの材料に使える木の実集めには格好の場所です。

公園の西側に少し長い石段があり、「東海自然歩道」を上りつめたところで右折、この「木洩れ日の緑道」を進むと、「中信」桂坂支店の前に出ることができます。♿♿



③プラザパーク

御影石が段状に敷かれており、金属の変わった円形のモニュメントが目を惹きます。公園の東南の隅には、遊具のある、子どもの遊ぶコーナーも作られています。



公園について、桂坂保育所の方が次のような一文を広報『桂坂』に寄稿されています。

お散歩公園だいすき 桂坂保育所

子どもたちはお散歩や公園で遊ぶのが大好きです。四季の表情豊かな遊歩道を通り、目的の公園を目指して歩きます。車を気にせず歩けることは大変恵まれた環境です。そのせいか、道すがら目ざとくいろいろな発見をしているものですから、それはそれは賑やかです。いざ、目的地に到着すると、心と体を更に弾ませて思いきり楽しそうに遊びます。

かくれんぼや鬼ごっこができる公園、想像力をめぐらして「つもり遊び」ができる公園、保育所にはない遊具がある公園、自然観察ができる野鳥遊園、自然と向き合い遊べる山歩き——年齢や目的に合わせて行き先は変わりますが、豊かな心の成長と体力づくりには欠かせない、大切な保育の環境です。

また、道で出会う地域の方とのささやかなふれあいも子どもたちの社会性をのばすためにはありがたい経験となります。子どもたちに大好きなお散歩先を聞いてみました。かりん、天蓋の花、山の辺、桂坂、きさらぎ…と全部の公園が挙げられました。のんびり憩える公園や活動的に遊べる公園といった理由では、乳児や幼児でそれぞれ意見が分かれますが、子どもたちは平面的で遊びが限定されてしまうところはあまり好みません。

人工的に整備されていても、自然が活かされていたり、その空間や造りの中でイメージーションを働かせて遊ぶことが大好きなのです。自由に遊びながら、ルールやマナーを覚え、身の安全をはかる術を獲得していきます。そのような意味でもそれぞれに特徴を備えた公園がある桂坂は本当に素晴らしいと思います。


天気の良い日には、「ってきます！」の小さい行列がつづき、帰り道の「ただいま！」の声は些かお疲れ気味？ けれども、小さな手には木の実や雑草のお土産を握りしめ、瞳は輝いています。地域の中で見守られ育つ子どもは幸せだと感じる瞬間です。

これからも、地域の皆様に感謝しつつ、お散歩道や公園を汚さないで大切に遊ばせていただきたいと思います。公園で出会ったら、一緒に遊びましょう！

(広報「桂坂」124号より)

④桂坂野鳥遊園

社会福祉協議会の施設。「観鳥楼」には双眼鏡が設置されており覗いてみると、山の木々や池の辺りに鴨や鴛、カワセミなどの姿が見られます。時には、サルの一団の散歩姿にも出会います。

園内の外周は散策路になっており、また、西側には毎年「ホテル鑑賞会」の行われる、せせらぎのある広場もあります。(P.47参照) 



⑤日文研「赤おに」

「桂坂野鳥遊園」正門の少し南に、「国際日本文化研究センター」のレストラン「赤おに」につながる入り口があります。一般の人でも利用できます。



散策コースC

- I ②桂坂公園 —— ④サクラ坂緑道 —— ⑤きさらぎ公園 —— ⑦山の里公園 ——
⑨細谷公園 —— ⑩御陵公園 —— ⑪京都大学桂キャンパスの施設
- II ⑥花の舞公園 —— ③さわらびの緑道 —— ⑤きさらぎ公園 ——
⑧峰ヶ堂第2児童公園 —— ⑩御陵公園 —— ⑪京都大学桂キャンパスの施設

①古墳の森

桂坂は切土、盛土で造成されていますが、この「古墳の森」はそのまま凹地として残され公園として整備されました。かつては植栽され、中には遊歩道もありました。

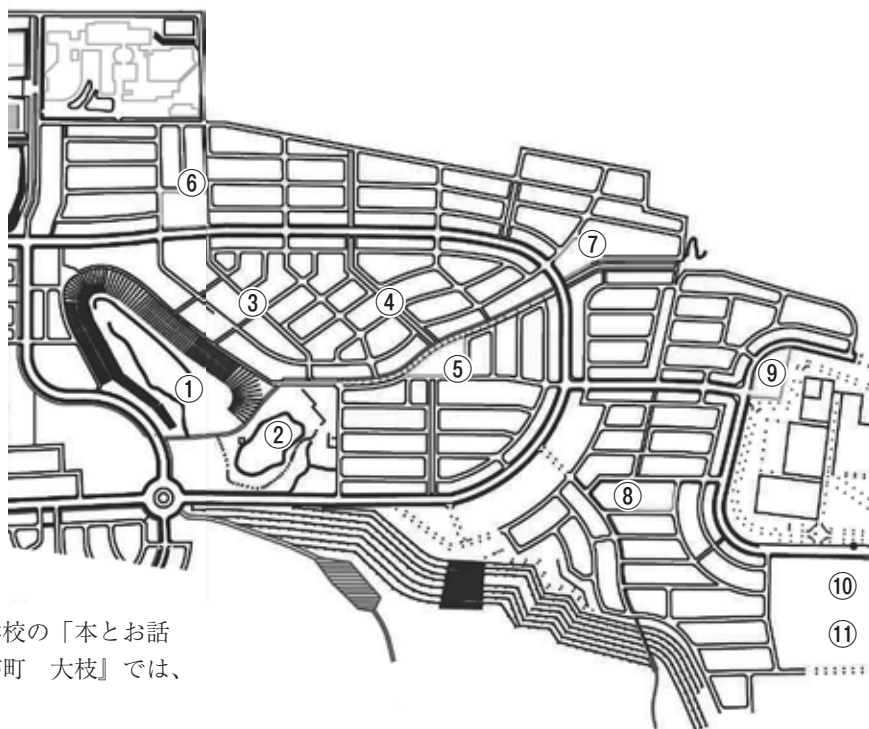
1988年9月にはこの公園で「宗次郎コンサート in 桂坂」も開催されましたが、残念ながら今は危険一杯の場所とみなされ、「まむしに注意」の看板も立ち、立入禁止となっています。

北側の遊歩道には約100本の桜並木があり、桜の頃は散策にもってこいの場所です。展望台も設けられています。

大枝山古墳群について、桂坂小学校の「本とお話のクラブ」作成の『歴史探訪 我が町 大枝』では、

「大枝塚原町の北1.5kmの谷間に大枝山古墳群があり、23基の古墳がまとまって分布している。このうち13基は古墳公園として保存されている。その中でも22号墳は、直径20mの円墳で大枝山古墳群の代表としてあげられる。古墳時代には、この地域では、大型の首長の墓から古墳墓に至るまで数多く古墳がつくられた。それはこの時代には、洛西・大枝地区の丘陵や山間部がお墓として利用されたことを示している。『塚原』の名前もそれに由来している」

と説明されています。



②桂坂公園

約6,000坪の原っぱをイメージして造られた「都市公園」です。芝生の広場があって存分に走り回れるので、時々子どもさんを遊ばせるお母さんの姿も見受けられます。保育所の子どもたちにとっては楽しい遊園地です。東側には池もあって真鯉の泳ぐ姿を見ることができます。しかし、池の周囲はすっかり「整備」されすぎて、水の浄化作用に役立つ水辺の植物は寂しそうです。西側に洋風の亭（チン）があり南西方面を望むことができます。水道施設があり、スケッチやピクニックを楽しむことができます。



③さわらびの緑道

桂坂公園から花の舞公園の横を通り、北の山裾まで続いています。『源氏物語』の登場人物を連想する桐、柏など、他に30種を超える草木が植えられています。

④サクラ坂緑道

峰ヶ堂町3丁目のバス停あたりから、きさらぎ公園を通り、北の山裾のところまで続いています。緑道は白と黒の幾何学模様で舗装され、春には連翹、馬酔木、木蓮、桜などの花が咲き誇ります。



⑤きさらぎ公園

北側を「東海自然歩道」が通っています。起伏のある雛段式の公園に背丈の低い紅梅・白梅が梅林を作り、馥郁たる香りを放ちます。春には梅のほかに桜、その他の花が一斉に咲きます。



⑥花の舞公園

回廊があり、四季折々の花が楽しめます。階段が多くあり、小さい子どもたちにとっては興味深いことでしょう。



⑦山の里公園

約1,600m²の広さの中には、高低差約5m、全長8mの滑り台があり、子どもさんにはスリル満点の遊具です。

⑧峰ヶ堂第2児童公園

遊具がたくさんあり、近隣の子どもの遊び場です。

⑨細谷公園

桂坂の一番東に位置し、ここからは京都市街地が一望できます。子どもたちが走り回ることのできるスペースと遊具があります。

すぐ隣に位置する京都大学のCクラスター沿いにあるヒルトッププロムナード（遊歩道）を進んでいくと、時計台のあるBクラスターへと続きます。(P.110参照)

⑩御陵公園

この公園は京都大学Bクラスターの時計台のすぐそばにあります。ゆったりとした園内には東屋が二つあります。中央の広場は芝生に覆われ、その一角には色鮮やかな遊具があります。丘や小道があり、ピクニックには最適でしょう。♿



⑪京都大学内の施設

京都大学桂キャンパスの敷地内には、カフェ「アルテ」、カフェテリア食堂「セレネ」、ベーカリーショップ「リユージュ」、カフェ「ハーフムーンガーデン」、フレンチレストラン「ラ・コリーヌ」など、一般の人が利用できる施設があります。

桂坂は「石」の庭

桂坂で見かける「石」に注目してみましょう。住宅の石垣はそれぞれ趣の違った石積みが施されています。また、公園には、さりげなく「石」の造形物が配置され、緑道にも自然石が敷き詰められ、石のベンチのあるところもあります。

住宅の「石垣」



穴太石積



乱れ積



小端積



崩れ石積



野面石積

緑道の「敷石」



サクラ坂緑道



モミジ坂緑道

「石」の造形物



山の辺の公園



日文研前の緑道



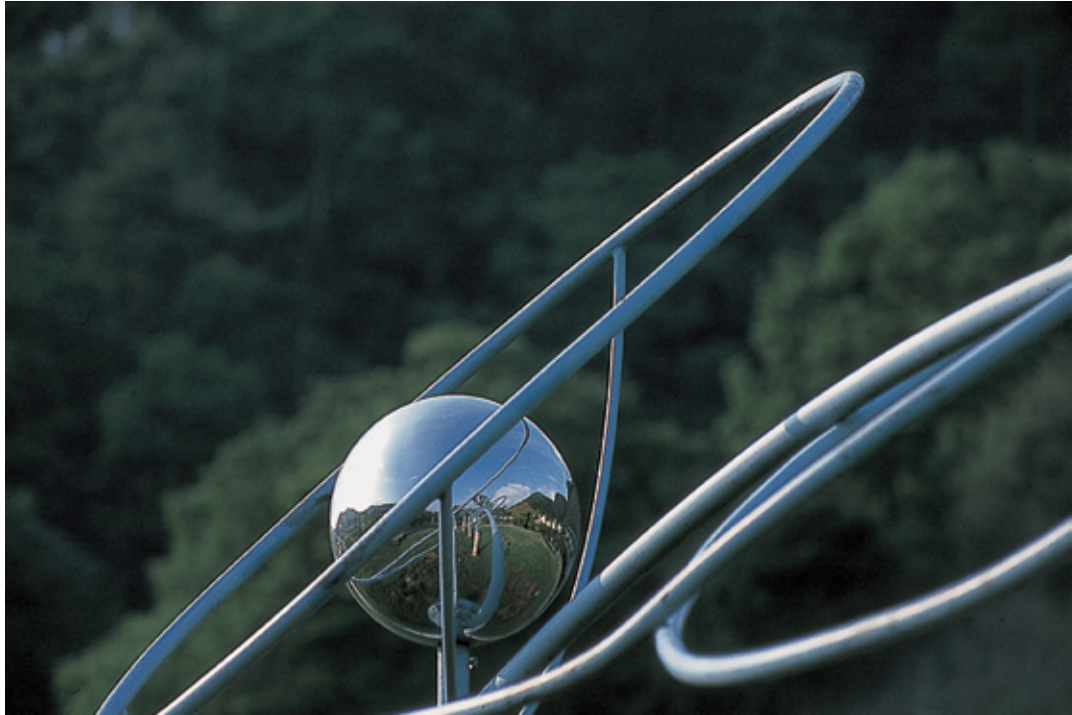
東海自然歩道のつくばい



ふれあい広場

「石」のベンチ





ふれあいの里公園 山の手倶楽部 藤本 武氏

コミュニティとしての桂坂

コミュニティとしての桂坂



桂坂も20歳になりました

桂坂は京都全体から見ればまだ若い街です。世にいう新興住宅地は相次ぐ多くの入居者を伴って発展拡大していきませんが、私たちの桂坂もロータリーより東地域の開発が進むとともに新たな自治会も生まれ、2008（平成20）年末で3500戸に達するという、大きな街に成長しました。

「まち」の成立

「家並み」が「まち」としての営みをするようになるには、そこに住む人びと同士の間で温かいコミュニケーションの継続が第一です。桂坂には住民同士の交流を深める機会となる行事や自治会における習慣があります。

行事として代表的なものが「ふれあいクリーンデー」、「夏祭り」そして「体育祭」です。また自治会組織を活用して種々の回覧板や文書配布が行なわれ、住民が我がまちの状況を把握しています。

守り育てた財産

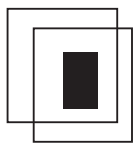
これら「まちの仕組み」は、桂坂の発足当初から当時の自治会組織と熱い意志をもった先人によって立ち上げられ、受け継がれ育てられた財産です。

クリーンデーは「自分たちの街を自分たちの手できれいに」との目的から始まったものですが、それ以上に地域の住民が定期的に共同作業をすることによって、顔見知りになり、気軽に声をかけ、挨拶をする間柄になる効果を生んでいます。

夏祭りは京都の伝統的な夏の行事として続いてきた「地藏盆」の桂坂版とも言えるもので、これらは私たち桂坂の住民同士のふれあいの場を創出しています。

自治会ルートで、日常展開される文書配布も単に伝達の機能だけでなく、情報を共有することにより連帯感を高め、コミュニティを保つ大切な仕組みです。

しかしながら20年を経た昨今、これらの行事や仕組みに関して一部にはマンネリ化の声も聞かれ、当初の志しを確実に受け継ぎ、本来の機能を果たしているのか、検証してみる必要もあるかと考えられます。



ふれあいクリーンデー

成立ち

桂坂は建築協定のもとに出来た緑豊かな美しい街です。幹線道路の街路樹、石畳の道や緑道は各家の庭の木や花とともに季節ごとに美しく変化し、それを見ながら散歩するのは楽しいものです。

1998（昭和63）年、かえで自治会が「クリーン大作戦」と銘うって、せめて自分たちの周りだけでもきれいにし、又、隣近所が仲良くできたらと、始められたのが、「ふれあいクリーンデー」の出発点です。

各自治会のクリーンデーは桂坂全体に普及し、お互いの自治会同士の「ふれあいの場」となり、桂坂全体の美しい街作りに役立てばとの願いから1990（平成2）年に「桂坂ふれあいクリーンデー」として発足しました。

当時は小・中・養護学校、ふれあいの里、西洋環境開発も参加しました。

第2回の1991（平成3）年からは現在の「統一ふれあいクリーンデー」となり、春と秋の年2回、各自治会一斉に取り組んでいます。



しかし、昨今は住民の高齢化や入れ替わりなどによって、共同作業意識が以前より薄れ、年々参加人数が少なくなっている傾向も見られます。

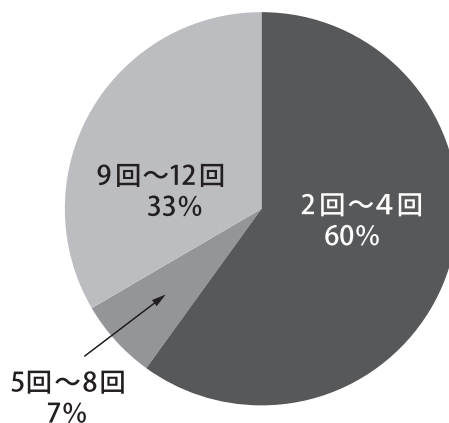
そこで、「クリーンデーの現状と今後のあり方」について考えるために各自治会にアンケートのご協力をお願いしました。



クリーンデーの年間回数

クリーンデーの実施は各自治会とも定着しています。実施回数としては年2～4回が60%を占め、次いで9～12回が33%となっており、冬場の1月2月を除いた年間で実施されています。

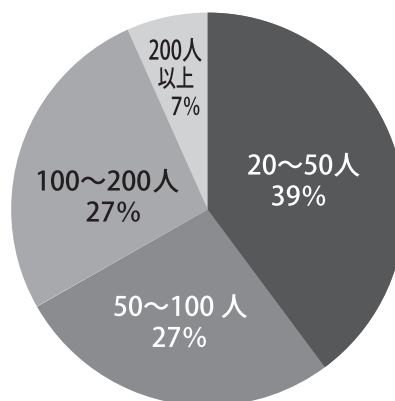
住居番号の偶数、奇数に分けて隔月に実施している自治会もあります。



参加人数

参加人数は20～50名が39%、次いで50～100名が27%、100～200名が同率27%となりました。なかには全戸参加の自治会もありました。

実施回数の多い自治会は1回あたりの参加人数としては少数ですが、年間にわたり分散されています。実施回数が少ない自治会では、1回の参加人数が多い傾向となっています。



運営について

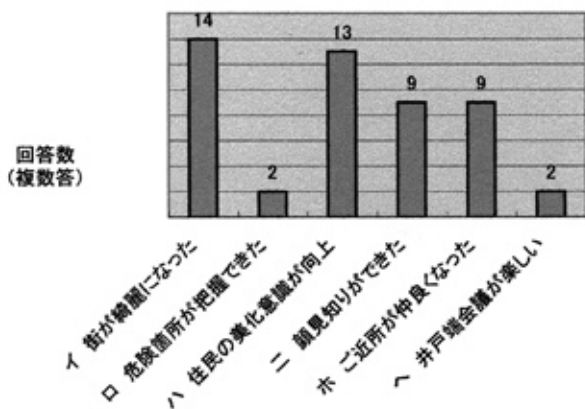
実施回数について各自治会では、概ね現状どおりの回数を考えておられます。清掃箇所の分担については作業の効率性、公平性、清掃域の集中を防ぐために分担されている自治会が80%を占め、大半が今後も現状の分担制を考えておられます。

また清掃域の広い自治会などは、あえて分担制とせず、参加人数や状況に合わせて作業されています。

クリーンデーの成果

「街がきれいになり、美化意識が向上」しただけでなく、「顔見知りができた」「ご近所同士が仲良くなった」など、住民間の親睦や連帯感を生む貴重な機会となっていることがうかがえます。

〈クリーンデーの成果〉



地域による、独自の取組み

「桂坂統一」や各自治会の定例的なクリーンデーだけでなく、独自の企画をされている自治会や機関もあり、一部を紹介します。



西総合支援学校の呼応清掃活動

花と緑の豊かな自然に囲まれた「桂坂地域」にある学校として「地域の一員として桂坂地域の環境保全に役立ちたい」というお考えから、2009（平成21年）5月10日（日）に行われたクリーンデーに先駆け、5月8日（金）に「桂坂統一ふれあいクリーンデー呼応清掃活動」を実施されました。

学習時間帯には生徒さん方と先生方が、また生徒さんの下校後には先生方が総出で、学校周辺の道路の清掃に取り組みされました。（広報『桂坂』141号より）



桂坂の美しい自然は、住民のみならず、桂坂に通ってこられる方々にも支えられていることが実感できます。

クリーンデーの今後

桂坂において、クリーンデーが確実に定着していることは、アンケートからも強くうかがえます。しかし反面、いつも同じ人しか参加していない、参加者が増えないなどマンネリ傾向もあり、今後一層の盛り上がるために、家族ぐるみの参加によって、コミュニケーションの活性化を望む声も聞かれました。

桂坂の美しい自然や街並みを後世に残していくためにも桂坂住民と近隣施設との協力で、受け継いでいってほしいと思います。



桂坂統一夏祭り

夏祭りの道のり

京都の夏は絢爛豪華な祇園祭にはじまり、山々を神々しく照らす五山の送り火を見送って、洛中は夏の峠を迎えます。大枝の丘陵地・桂坂ではまだ熱気の残る盛りに「桂坂統一夏祭り」は開催されます。

街を拓いた当初は、西洋環境開発と、かえで自治会の合同で開催され、活気と期待に満ちあふれた伝説の「夏祭り」となり、統一夏祭りの礎となりました。統一の開催となって15年が経ち、それぞれの自治会の試行や工夫や思いによって支えられてきた「夏祭り」は成熟期を迎えつつあるのではないのでしょうか。



夏祭りの成功を願って

ふだんは閑静な住宅街である「桂坂」。夏の暑さを忘れさせる夏の一大イベントとして、夏祭りを成功させようと、早くから担当役員の皆さんが準備を始めています。祭りの一番楽しみである「模擬店」は食べ物を扱う性質上、安全を第一にし、衛生面や注文数、段取りに気を配り、安全かつ円滑な運営に心血が注がれています。しかしながら月日が流れ、住民の高齢化や入れ替わりなどが進み、しだいに連帯感の薄れなどの問題が、少なからず見られるようになってきた現実も否めないのでしょうか。そこで桂坂入居開始20年目の節目の年に際して「統一夏祭り」をどのように感じておられるか、アンケートを各自治会の会長さんにお願しました。

プログラムの構成

各自治会とも、プログラムの考え方は「大人から子どもまで幅広く楽しめるイベント」を企画されており、参加人数も安定して、毎年イベントとしての積み重ねが定着の要因となっているようです。

プログラムの例では外部から演者を招いての観賞や、ゲーム、福引きなどがあります。

模擬店ではフランクフルト、かき氷、おでん、カレーなどのお馴染みメニューは定番となっています。



運営方法

イベントの運営方法については、手作りのみとするものと、手作りと外部委託の両方を使い分ける方法が大半をしめています。その一方で前例にならったの運営も多数を占めていますが、マンネリであると感じておられる自治会もあります。やはり手作りや新しい企画を生み出していくのはなかなか難しいようです。思い切って外部委託のみに絞り、役員の苦労の軽減化を図る自治会が出てきているのも、一つの新しい傾向なのかもしれません。

こんな工夫をされています

プロの津軽三味線奏者を招いての生演奏は忙しい裏方でもある運営役員方々も手を休めることなく楽しめるので大変好評です。



(かえて自治会)

3年にかけての運営委員

しらかば自治会の夏祭りの運営は、今年度、前年度、来年度役員予定の方で構成し、前年度役員の方が指導係となって、安全でスムーズな運営ができています。なにより3年間夏祭りの世話をすることにより、「親睦の場」ができることがメリットです。

このような運営方法はあかしあ自治会でも行っています。また、しらかば自治会では自主防災部でも同じような運営方法をとっています。

勇壮な和太鼓演奏

つばき自治会では和太鼓同好会を招いてフィナーレを打ち上げます。



(つばき自治会)

西総合支援学校、授産園とのお付き合い

あかしあ自治会ができた1989（平成元）年の頃は、まだ集会所ができておらず、西総合支援学校（当時は西養護学校）に会議の場を、また夏祭りにはテントやライン引などをお借りしていました。

洛西ふれあいの里の授産園、更生園、療護園からは長机、パイプ椅子、釣下げ提灯、キャンピングテーブルなどいろいろな備品をお借りし、そのおかげで盛大な夏祭りを開催することができた経緯があります。

これらの協力のお礼に「夏祭り」のプログラムを送り、ご招待をはじめたのが交流の始まりです。

ご近所の縁で洛西ふれあいの里授産園にはテント1張りの出店を依頼し、陶芸作品やクッキー、アイスコーヒーなどの販売をしていただいております。



(あかしあ自治会)

夏祭りに宿題できます

さくら自治会では子どもたちと腕に自信ありの諸先輩の方と「木工作」「紙工作」を一緒に行っています。教える楽しさと一緒に作る楽しみ。それを機会に、夏祭りの「おじいちゃんと孫」は増えています。派手な企画ではなくとも、夏休みならではの思い出の1日として残っていくのではないのでしょうか。



(さくら自治会)

これからの「夏祭り」によせられたご意見

多くの自治会は従来どおりの夏祭りに満足されていますが、「今後の姿」を模索中でもある「統一夏祭り」です。開催単位も「数ブロックの分割」や「全自治会合同での1カ所開催」、「隣接自治会での共催」などを行い、お互いの不得手とするところを補いあえるような形での夏祭りも一つの方法と考えておられる自治会もあります。

将来「より楽しい、集いやすい夏祭り」にするためには、高齢化を視野に入れつつ、「桂坂版の地蔵盆」として、「昔ながらのしみじみとした『夏祭り』へ変わっていくのではないか」との意見もありました。

桂坂に生まれ育った子どもたちの「ふるさと」としての「夏祭り」は記憶に残り、桂坂に住まう人と人をつなぐ架け橋となっていきたいものです。



桂坂の広報活動

大切な広報物の配布

私たち住民がコミュニティを形成し、安心して且つ充実して日常生活を過していくための大切な仕組みとして、広報活動が挙げられます。

自治連合会や行政から定期的に行き渡る発行される広報紙、自治会関連や行政から適時発行される回覧文書、桂坂各種団体からの広報や回覧物など、桂坂には非常に多くの広報関連の文書が各戸に配布、回覧されています。日常ごく当り前のように流れている情報であるがため、私たちは、ともすればその機能の大切さを見失いがちになりますが、忘れてはならないのは、これは私たちが作った仕組みです。

広報手段の中で主なものを取りあげてみます。

自治連合会広報『桂坂』

自治連合会発行の広報紙『桂坂』の前身『桂坂自治連合会だより』は1990（平成2）年12月10日に創刊されています。当時は現在のような大きさでなく、A4版1ページのみで、手作りの素朴さそのものでした。以来2008（平成20）年12月で138号に至り、桂坂学区全般にわたる様々な情報を掲載し、私たちの日常生活のベースとなる広報紙として定着しています。ちなみに、創刊号の巻頭記事は「第1回ふれあいクリーンデー成功裡に終る」でした。

広報『桂坂』の創刊以来の各号は合綴され、各自治会館、京都中央信用金庫桂坂支店、ふれあい会館などで見ることができます。機会を見つけて一度ご覧になっては如何でしょうか。最近桂坂に来られた方は、我がまちの成長過程を知ることができ、桂坂にお住まいになって20年近くになる方は、当時の思いが懐かしくよみがえってくるのではないのでしょうか。



自治会広報

各自治会においても独自に広報紙が発行されています。

かえで自治会、さつき自治会、しらかば自治会、あかしあ自治会、にれのき自治会、もみのき自治会など、各自治会の発足を機に広報紙を発行され、より身近な情報を伝えています。

何れも自治連合会広報紙が発刊されるよりも早く、かえで自治会の『かえでニュース』は1988（昭和63）年6月に、さつき自治会の『桂坂・さつきニュース』は1989（平成元）年5月にそれぞれ創刊され、かえで自治会の発足当時のビデオや、さつき自治会広報紙の創刊号を見せていただくと、自分たちの自治会が立ち上がった喜びに溢れた映像や記事が掲載され、貴重な記録として遺されています。他の自治会においても、定期的または適時の何れかには広報文書が発行され、より身近な情報を伝え、その折々に発生した課題について、住民間の情報共有を図る活動をされています。

できれば簡略な形でも各自治会で定期的な広報紙を発行し継続されることが、コミュニティ醸成への大きな効果となるのではないのでしょうか。



回 覧

もっと日常的な情報伝達としては、回覧文書があります。身近な自治会内のお知らせ、桂坂各種団体からの「お知らせや行事参加の案内」、「防災、安全防犯」等に関する情報や注意喚起等々、毎日のように回覧文書が各戸を渡っています。

回覧によって伝えられる情報は、定期発行の広報とは性格が異なり、私たちが期限内に対応しなければならぬ事柄や緊急性のある情報が多く、定期発行の広報以上に注視する必要があります。

回覧は「迅速に」「正確簡潔に」に伝えることが、その使命です。

人手による配布でコミュニティづくり

このような桂坂地域で発行される広報、情報の全ては、自治会役員、各種団体の世話役の方々など、住民の手によって各戸に配布され、お隣りへと回覧されています。多くの配布物や回覧物が重なり「本当に面倒」との不満や配布方法の改善を求める声を聞くときもあります。

しかし私たちが各戸にお届けする機会こそが、コミュニケーションを気軽に持てる貴重な機会ではないでしょうか。

世はインターネット情報の全盛です。わがまちでもいずれホームページを持ち、情報の発信や交換をインターネット上で行なう時代も近いと考えられます。

しかしそのような時代になっても、お互いが対面して情報を伝え、話し合うことが、コミュニティ形成の原点であることには変わりありません。

コミュニティの充実に向けて

桂坂のコミュニティ形成を、クリーンデーと夏祭り、広報活動に代表させてその現状を振り返ってみましたが、いずれもマンネリ化や運営上の問題の声は聞かれるものの、住民の生活に密着したコミュニティづくりの仕組みとして定着し、今後の継続に向けてより充実させたいとの、努力、工夫を伺うことができました。桂坂で生活する上での「楽しみ」に成長し定着しつつあるといえます。

また、桂坂地域の広報や回覧文書、行政機関からの広報配布も日常生活の安全、安心に欠かすことができないコミュニティづくりの重要な仕組みです。

「美しく住みよいまちづくり」「住民で計画実施する楽しい行事」、これらは全て、わが桂坂の「地域コミュニティ」の礎になっていることを20年の機に考えてみてはいかがでしょうか。

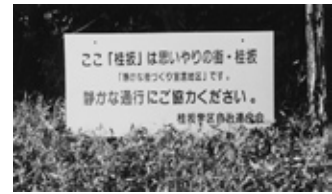




南本通りの秋 山の手倶楽部 増田節夫氏

住みよいまち「桂坂」

住みよい街「桂坂」



桂坂口にさしかかると、ロータリーに向かって右側の、カツラの木とおかめ笹の植込みの中に立つ白い看板が目にとまります。この看板、ここには私たち住民の「桂坂」の街づくりに寄せる基本姿勢と住環境維持の願いが端的に表現されています。

私たちは、この「桂坂」を生涯の住みよい街として、今の環境を守り、愛し、この環境を後世に伝えていきたいと願い、ここに「住みよいまち『桂坂』の静かな街づくり宣言」をするものです。

この「街づくり宣言」が起草されたのは、桂坂学区自治連合会が設立されて間もない頃のことです。

1990（平成2）年10月から翌3月にかけて、自治連合会、西京保健所、京都市衛生局環境保全室の3者による「騒音対策モデル事業」の一環として種々の調査が行われました。都市生活の複雑多様化にともない増加傾向にある「生活騒音」問題を解決するには、「地域社会のコミュニケーションの育成や、日常生活におけるモラル・マナーに関する自主的なルール作りなどによる良好な近隣関係を築くこと、騒音防止意識を高めること、そして騒音防止に対する知識を広めることにより騒音の発生しにくい地域社会を作っていくことが必要である」との考えに拠るものでした。

「思いやりのある街」「静かな街」を求める住民の願いが簡潔に集約されている「宣言」の精神は、その後も桂坂の自然環境、生活環境を維持する諸活動に息づいています。

恵まれた自然環境

世界に誇れる街づくり

「桂坂一帯は、ゆるやかな南向き斜面で、背後は唐櫃越えの尾根道に向かってせり上がっており、住宅地としては理想的な地形」だったそうです。ディベロッパーである(株)西洋環境開発（当時）—— 造成時は「(株)西部都市開発」といいました—— が、開発計画から分譲開始まで20年の歳月をかけ、多くの人の意見と智恵を集め、最新の技術を駆使して作った街、それが「桂坂」です。

すぐに開発にとりかかるのではなく、まず地域の歴史を学ぶことから始め、さらに女性の視点が大切だからと考え「女の目でみるまち研究会」を発足させました。この「研究会」は、新聞紙上での呼びかけに応じた、京都在住の有志100人によって結成されました。

彼女たちのフィールド・ワークや12回に及ぶ研究会の成果は、桂坂のまちづくりや住宅設計にも反映されているようで、1987（昭和62）年には『女のま

ちづくり宣言・京都発』（桂坂の会・女の目で見えるまち研究会編）という本になり、学芸出版社から出版されています。

また同時にマスタープランづくりに当っては、建築、交通、照明、地域計画など、各方面で活躍中の専門家による「まちづくり委員会」や「自然形成委員会」なども組織され、あらゆる角度から検討をされたのでした。

現地視察に訪れた西洋環境開発（当時）のトップの一言は「孫・子に評価される住宅地でないとね」。

こうしてマスタープランが作られ、「世界に誇れるまちづくり」をめざして、造成工事が始まったのでした。保安林をどうするのかという検討から生まれた「野鳥園」や「バードサンクチュアリ」ですが、ほかの住宅地にはない独特の施設で、「野鳥園ゾーン」は、1994（平成6）年には「第3回京都市都市景観賞」を受賞しました。「野鳥園」は現在、京都市社会福祉協議会の手に移り、「野鳥遊園」と名を変えています。

現在は、「(株)西洋ハウジング」が西洋環境開発の残りの事業を受け継いでいます。

鳥と遊ぶ道

「桂坂野鳥遊園」の裏山には、自然林の中を細くのびる3本の「鳥と遊ぶ道」が設けられており、リョウブ坂、ソヨゴ坂、ハイノキ坂と名づけられています。全行程は約2.8kmで、およそ1時間30分ほどですが、どのコースからでも歩くことができ、眺望のよい小広場もあって、ミニ・バードウォッチングが楽しめます。

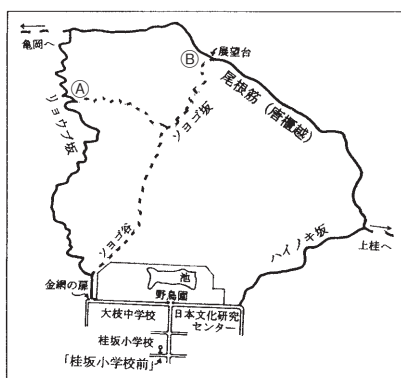
日本野鳥の会京都支部会員で、桂坂（つばき自治会）にお住まいの藤田進さんに、お気に入りの探鳥コースをご紹介します。

私のミニ探鳥地

— 桂坂から唐櫃越の尾根筋を —

桂坂小学校前のバス停を北へ200m行くと、野鳥遊園の入り口に着きます。ここから西へ100mに常時開いている金網の扉があり、入るとリョウブ坂の登り口です。この付近では、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、セグロセキレイ、冬はジョウビタキなどが見られ、初夏、ホトトギスの声も聞こえます。石段を上り、右にソヨゴ谷を見て左のジグザグ道、リョウブ坂を登ります。リョウブ、ソヨゴ、コナラ、アラカシ、ツツジ等の雑木林に、ウグイス、ヒヨドリ、カケスの声が聞かれます。

急坂を登ること約600mで、唐櫃越の尾根に着きます。東に向かった所にある展望台からは、足下に野鳥遊園の池、国際日本文化研究セン



標識 (A地点)



展望台からの眺め (B地点)

ター、西に大暑山や天王山、東南には伏見、淀の街並みが見渡せて、よい眺めです。初夏の頃は、ホトトギスや、稀にツツドリも聞かれます。

尾根筋をさらに東に進むと道は少し下りになり、約400mで上桂（左）への分岐点に出合います。右のハイノキ坂の下り道は緩やかで、10分程で「日文研」の東端に到着します。水曜日から日曜日は野鳥遊園が開いていますので、観鳥楼で水鳥を見に寄られてはいかがでしょうか。

(許可を得て「日本野鳥の会京都支部報『そんぐほすと』」

より転載、一部変更)

野鳥遊園の園長さんによると、翡翠色のカワセミや鶴のようなアオサギは「常連」で、夏には瑠璃色をしたオオルリや、美しく囀るキビタキなども観られるそうです。ベストショットを求めて超望遠レンズのカメラを構え、観鳥楼に一日中いる人もあるとか。

観鳥楼の中で腰を掛けて眺めているだけでも楽しく、カルガモをはじめ、池に棲む鯉、亀、アメンボなどが観察でき、「常連」のカワセミがサッと横切り、ときには鹿や狸が顔をみせてくれるかもしれません。



観鳥楼 (観鳥楼)

ホタル鑑賞会

桂坂では、1991（平成3）年頃から数年、西養護学校（現西総合支援学校）でホタルの鑑賞会が催されたことがあり、多くのかたが楽しめました。

その後、1998（平成10）年頃に再度、ある学年の生徒さんがホタル復活に取り組まれたそうですが、「水」の問題で頓挫することになりました。

そこで、桂坂野鳥遊園では、比較的きれいな流れを好む源氏ボタルを棲みつかせるために、井戸を掘って清流を確保し、ホタルとそのエサとなる巻貝カワニナの生育環境をつくりました。

そして2002（平成14）年3月6日、野鳥遊園のせせらぎに500匹のホタルの幼虫を放し、三ヶ月後の6月、成長したホタルが水辺の木立の中を飛び交い、私たちの目を楽しませてくれたのでした。

以後、毎年6月上旬に「ホタル鑑賞会」が催され、夏の風物詩となっています。

住環境の向上

こんなに便利になりました

現在桂坂には、市バス、京阪京都交通、ヤサカバスの3社が乗り入れています。

運行経路は、各社それぞれの系統をもっており、京都駅、阪急桂駅、JR向日町駅行きとなっています。ほとんどのバスが桂坂中央を起点として、桂坂の顔というべきロータリーを通り、1日の本数は、3社（往路・復路）合わせて、510便近いという驚くべき数字になっており、ロータリーを通行しないコースを含めると、1日の運行量は540便近くになります。実に3分に1本の割合で、桂坂の中でバスが走っていることになるわけです。

朝と夕方の通勤・通学の時間帯には、特にバスの本数が多く、また利用者も多いようです。

昨年2008（平成20）年10月にJR桂川駅の開業にともないバスが増便されたことと、東桂坂方面から桂駅西口へ行くバスが、西桂坂も通るコースに変更され増便になったため、昨年に比べて100本以上増えました。



JR 桂川駅とヤサカバス



おりばステーション

また、桂駅発夜9時以降は「降り場ステーション」（深夜降車専用停留所）の「星の坂」（①～⑤番）が設けられており、帰宅の遅い方々からは「自宅近くで降りられるので便利」と好評のようです。

しかし、その反面、洛西ニュータウンのバスターミナルまで乗り入れをするバスが、日・祝日に1日2便のみであり、高齢の方が不便をかこっておられるのも事実です。

バスに乗ると自然に目が窓の外に向き、移り変わる景色が楽しめます。

「桂坂南本通り」は、ロータリーをはさんで、西から東へと続いています。

春になると、桂坂公園の花々がいっせいに咲き誇り、公園全体が華やかに彩られます。ロータリーに差し掛かると、その様子が目に飛び込んできて、思わず「綺麗」と、つぶやいてしまうほどです。

また、ロータリーを過ぎ、峰ヶ堂町へ向かう右手は、眼下に、山々に囲まれた洛西の街並みが見渡せ、桂坂が丘の街であることを実感できます。

このように、バスならではの発見が、まだまだあると思います。

つつい車を使って外出してしまうことが多い昨今、バスは私たち市民の足であり、安価な料金で目的地まで安全に送り届けてくれる公共の乗り物です。

バスを利用して環境汚染防止に協力しながら、しかもお財布にはやさしい——バス移動は私たちが簡単にできるエコ活動ではないでしょうか。



桂坂中央バスターミナル

ケーブルテレビ「JIB」

桂坂は難視聴地域であり、アンテナ設置に関する建築協定等の理由により、ケーブルテレビ・システム（有線テレビ放送システム）が導入されています。

この事業を担っているのは「パルコスペースシステムズ」（当初の社名は「㈱西電工」、2000（平成12）年9月社名変更）で、「JIB」（Jack in the Boxの略で、〈びっくり箱〉の意）と略称され、「セキュリティ・サービス」業務と放送送信のサービスを行っています。

桂坂開発当時としては、国内では非常に珍しい完全双方向のCATVだったそうです。その仕組みは、放送電波の受信状態が良い場所に設置されたアンテナから、「JIB」基地局の放送送出機器を経由し、各家庭へ「下り信号」を利用してテレビ放送やFM放送、一般告知放送、緊急放送を送信し、「上り信号」を利用して各家庭からの「セキュリティ（防災）信号」を受信するようになっており、基地局では24時間体制の監視を



JIB

しています。

放送送信の面では、地上波放送だけでなく、有料の専用コンバータを利用する衛星放送・CS放送送信などのサービスや、空きチャンネルの9を利用した映像による商品案内も行われています。しかし現在のところ、「JIB」の「自主放送」は行われておらず、商品案内も学区内の商業施設に関するショッピング情報ではありません。

桂坂自治連合会、各自治会、各種団体などの実施する催物のお知らせ、「緊急告知」の放送も、「音声」のみですが、「有線」を通じ、当事者の手で各家庭に送られています。ただ、桂坂東部の一部は「洛西ケーブルビジョン」(「RCV」)受信地域のため、また「ほぷら」「はなみずき」両自治会は「長谷工」分譲のため、「緊急・告知」放送は流れません。

同じ学区内でありながら、同じ情報が、同時に伝達されない現状はやはり改善されるべきで、「RCV」など、他の有線放送局とのネットワーク化が望まれるところです。

街の要 — センターゾーン

1994(平成6)年に桂坂センターに桂坂郵便局、中央信用金庫桂坂支店が営業を開始しました。2003(平成15)年2月、商業施設「イズミヤ」から出店の意向が伝えられ、7月には最初の出店説明会が行われました。その後、建築物の高さ、車の駐車場・出入口の問題などについて住民との間で何回かにわたって話し合いが重ねられ、翌年3月、桂坂待望のショッピングセンターが緑に囲まれた環境の中オープンしました。この出店は、店のコンセプトとして「生活便利館」を謳うだけに毎日の食材の調達に不便を感じることもなくなり、また、人の流れも生まれて街らしい街となったこともあって、店内で知人と出会って話が弾むといった、格好のふれあいの場としても歓迎されました。



センターゾーン

現在、桂坂のセンターには桂坂郵便局、「中信」桂坂支店、内科医院、書店、飲食店などがあり、近辺には、セキュリティやケーブルテレビを取り扱っているパルコ・スペース・システムズ、動物病院、学習塾の入ったビルや、市バス、京阪京都交通バス、ヤサカバスの発着するバスターミナルもあります。



京都中央信用金庫 桂坂支店

このショッピングゾーンの中核的な存在となっているといってもいい「イズミヤ」には買ったものを自宅まで配達してくれるシステムがあり、西地区、東地区の方やお年寄り、たくさん物を買った方は大助かり。さらに夜の10時近くまで店が開いているのは勤め帰りの方に好都合です。また「桂坂センター」バス停に屋根と椅子が設置されたのも、買い物客がバスを待つのに嬉しい配慮です。



デリーリーカーナートイズミヤ桂坂店

バスターミナルからは、京大桂キャンパス、洛西ニュータウン、旧国道塚原などを經由してJR桂川駅、JR京都駅、阪急桂駅、洛西口駅に至るバスが運行され、通勤・通学に、また他地域へのショッピングに便利となった上に、どのバスも行き帰りともに「桂坂センター」のバス停を通りますから、「桂坂の中央」に向かって東から西からの人の動きも生まれてきました。

しかし起伏の多い桂坂の街にも他地域と同様、高齢化の波は押し寄せています。欲をいえば、東西それぞれに、車に乗らずにショッピングカートを引いて買い物のできる店も望みたいところです。

しかし「桂坂の中央」という恵まれた立地条件や住民人数からすると、まだまだ店舗の増設・充実が望むところで、ゆっくり食事をし、お茶を飲んで歓談できる店がもう少しあったらと思います。

また、「生涯学習」を念頭におき自ら学んでいこうとする人の増えている昨今のことです。このセンター街に、自由に資料や図書の閲覧ができ、自学自習を支えてくれるコミュニティセンターがあれば、今以上に住民同士の繋がりも生まれ、いろんなサークル同士の交流が盛んになるばかりでなく、桂坂のいわゆる「文化力」なるものも一層、高まり豊かになっていくのではないのでしょうか。

先進的な取り組み

資源ゴミ回収

京都市では、2007（平成19）年10月から全世帯で資源ゴミ（プラスチック製容器包装）の分別収集が始まりました。それに先だって、2002（平成14）年10月には、桂坂学区の6自治会（かえで、さつき、しらかば、はなみずき、あかしあ、ほぶら）がモデル地区に指定され、さらに2004（平成16）年10月からは、桂坂全域がモデル地区となり、「プラスチック製容器包装」の分別収集に取り組んでいます。

使用済みてんぷら油の回収

「二酸化炭素削減に貢献し環境にやさしい」ため、京都市は「使用済みてんぷら油の回収」を推進しています。桂坂では、ほかの地域に先がけて桂坂地域女性会が中心となり、1999（平成11）年から取り組んでいましたが、2007（平成19）年からは、各自治会が中心になって回収作業を行っています。

回収された使用済みのてんぷら油は、「みやこ・めぐるオイル」（バイオディーゼル燃料）に生まれ変わり、市バスやごみ収集車などの燃料として有効に活用されています。



イズミヤの「マイバッグ持参」運動

2004（平成16）年3月1日にオープンしたデリーカーナートイズミヤ桂坂店は、他の支店に先がけて、レジ袋を有料にしました。地球の温暖化・居住環境の悪化を少しでも阻止できるのでは、と考えてのことです。

一枚5円で販売したレジ袋による収益金は、イズミヤからの「環境寄付金」（レジ袋による収益金の半額）が加算されて、「地域の環境・社会貢献活動」に還元されています。具体的には、「京都市指定資源ごみ用袋」に姿を変え、桂坂自治連合会を通して全世帯に配られています。

「環境フォーラム」の開催

桂坂学区自治連合会創設20周年記念事業のひとつとして、「環境フォーラム」が開かれました。

2008（平成20）年8月31日と10月26日の2回、ふれあい会館において「環境にやさしい暮らしの推進」と題して行われました。

白瀬哲夫日本住環境医学研究会会長ほかを招き、第一部では「生活を快適にする窓のあり方」「健康：住まいのシックハウス対策」などのお話があり、第二部では「防犯対策」のお話、第三部では「地球温暖化防止と省エネ」のお話がありました。



高い環境意識

— 景観・環境に関心を持ち、学習してきました

建築協定

桂坂の美しいまちなみ。これは私たち皆の力で作り上げた財産です。その美しさに挑戦するかのような、人目を引く家があちこちで建ち始めています。

ヨーロッパの街並みを見て、調和のとれた美しいたたずまいに感動した人は多いでしょう。そのたたずまいの背景には、明確に規定された法律と、人々の景観への高い意識がありそうです。

たとえば、フランスの「建築に関する法律」第一条は、次のように定められているそうです。

「建築は文化の表現である。建築の創造、建設の質、これらを環境に調和させること、自然景観や都市景観あるいは文化遺産の尊重、これらは公益である」

(「フランスの景観を読む 保存と規制の現代都市計画」

和田幸信、鹿島出版会、2007.9.30)

つまり、「周囲の環境と調和しない建物は、公益の点から規制できる」(同上、p.3) ことを意味しています。

ここで何より大事なことは、このような厳しい法律を作り、景観を守っていくことができるほどに、「環境や景観に対する人々の意識が高い」ということです。

いっぽう、日本の建築に関する法律では、公益についての規定はなく、建物は私権に属し、個人の好きなように建てられることになっています。

とはいえ、2004(平成16)年、国土交通省は「景観法」を公布しました。基本理念は「良好な景観は国民共通の資産」。

京都市も2007(平成19)年「新景観政策」を施行。三つの基本コンセプトの内の一つには「建物等は『私有財産』であっても、景観は『公共の財産』であること」とあります。

市は、桂坂にも都市計画のルールを定めていますが、私たち住民の手で運営できるというルール「建築協定」について、「桂坂地区建築協定協議会」会長の村上實さんにお話をうかがいました。

建築協定制度とは

Q：家を新築するときだけでなく、増改築や外構工事をするときにも、自治会の建築協定運営委員さんに申し出るように、といわれています。「建築協定」とは、どのようなものなのでしょう？

A：家などの建築について、いろんな制限を定めた法律を「建築基準法」といいます。その様々な基準以上の、その地域にあった、きめ細かいルールを上乗せすることができるのです。その細かいルールは住民の皆さんが自ら取り決め、京都市長の認可を得れば成立します。これが「建築協定制度」で、それぞれの地域の特性に応じた、住みよい環境づくりや魅力ある個性豊かなまちづくり実現のための制度です。

取り決めの方法には2種類あって、「一人協定」と「合意協定」とがあります。「一人協定」というのは、分譲された時の良好な住環境を保つために、宅地開発業者などが分譲前に取り結んだ「住民の合意をふまえない協定」です。「合意協定」というのは、地区住民が自主的に締結した「全員合意による協定」をいいます。

Q：細かいルールというのは、たとえばどんなことですか？

A：たとえば、

- ・乱開発を禁止するため、敷地の最低面積を決めたり、敷地の分割を禁止するルール
- ・通風・採光やプライバシー保護のため、敷地境界線等から壁面を後退させること
- ・閑静な住環境の確保のため、建築物の用途を制限
- ・圧迫感を小さくするため、高さの制限をしたり、建蔽率や容積率などを低く制限
- ・統一感に配慮した街並みをつくれるように、建築物の色や屋根の形状を制限したり、緑化を求めたりすること

このようなルールを決めることができます。



京都市内の建築協定

Q：京都市内で他に、建築協定を設けている地域はどのくらいあるのですか？

A：現在は70地区、5868区画（約129ha）あります。1972（昭和47）年に京都市建築協定条例が制定されて、第一号は、1973（昭和48）年12月に市長の認可を受けた「左京区下鴨第一住宅地」です。

市内の各建築協定区域がお互いに連絡・協調し合えるように、「京都市建築協定連絡協議会」が1990（平成2）年にできました。総会、役員会のほかに、勉強会や各地区の建築協定運営委員会との意見交換会を開いたり、他の都市の建築協定地区の見学・研修会などを行っています。

桂坂の建築協定

Q：桂坂では、ほとんどの地域で建築協定が結ばれているようですが？

A：そうですね、戸建て住宅地のほとんどの地域で結ばれています。

開発から約20年が経ち、41地区（3153区画）となりました。1985（昭和60）年6月に西洋環境開発（当時）が開発した、大枝北沓掛町六丁目（124区画）が「一人協定」として認可され、桂坂の建築協定制度がスタートしました。

有効期限と更新 一人協定から合意協定へ

Q：最近、「協定の更新手続きをした」という話をよく聞きます。

A：桂坂の建築協定は、全て有効期限が20年（10年目は自動更新）です。期限が来た地区では、それ

までの「一人協定」から、その地区住民の合意によって成立する「合意協定」に移行する更新手続きが必要です。

すでに更新の認可を済ませた地区があります。桂坂第1、第2地区（かえで）、桂坂第3、第4地区（さつき）、西桂坂第1地区（しらかば）、桂坂第5、第6、第7地区（ひいらぎ）、西桂坂第2地区（あかしあ）の各地区です。



今年、桂坂第8、第9地区（つばき）が更新時期を迎えます。来年は、桂坂第10、第11、第12地区（けやき）が更新時期を迎えますので、それぞれの地区の運営委員会で準備が進められています。

この更新によって、桂坂第1地区と第2地区、第5地区と第6地区が合併されて、桂坂の地区数は39地区（3021区画）になりました。それでも桂坂は、京都市内建築協定の50%以上を占める大きな建築協定地区になっています。

あかしあ地区では、運営委員会と自治会の努力によって、99.3%という驚異的な合意率で更新されました。（下欄記事をご覧ください。）

桂坂あかしあ自治会の建築協定更新

西京区桂坂の北西部に位置するあかしあ自治会（138世帯）では、敷地面積や屋根・外壁の形式・材料・色等を定めた建築協定を、99%の方が同意し更新されました。

そこで、建築協定運営委員の皆さんに、地域環境を守るための工夫と秘訣についてお聞きしました。

◆高い同意の背景には顔の見える人間関係

街開きから20年、その頃からお住まいなのが100世帯以上。その間に焼肉パーティー、もちつき、リンゴ狩り等の行事で顔なじみになり、ご近所の結びつきの強さが高い同意につながっているようです。転出された方



建築協定運営委員の皆さん

の連絡先をご存じの方が自治会内におられ、アンケートを送ると「良い地域であり続けて欲しい気持ちは皆さんと一緒にです」との返事が。もちろん、転入者にも親しみやすい環境で、現会長は周りの方のサポートのもと、転入後2年で役を引き受けられたとのこと。

◆住めば気に入る地域環境

この地区にお住まいを決めた理由をお聞きすると「子供を育てるのに良い環境だから。通過交通がないうえ、ご近所の目もあり、『広い路地のような感じ』なので、子どもも安心して遊べる」からだそうです。また、鹿や狐の他、蜜柑を庭先に出すとメジロがやってくる自然に恵まれたところも気に入っているそうです。

みんなが建替えや壁の塗替え時には周りに配慮することで、調和した街並みになっているとの自負もあり、「帰っ

建築協定と地区計画

Q：「建築協定」のほかに、環境や景観を守る制度はありますか？

A：桂坂には、建築協定のほかに、都市計画法による「西京桂坂地区計画」（桂坂というまちづくりの全体像）が定められていて、そのほとんどの地域に「地区整備計画」（桂坂をいくつかの地区に分けた、まちづくり計画）も定められています。

Q：その制度は、どう違うのですか？

A：「建築協定」は、「建築基準法」、京都市条例に基づいて、住民同士で決める、一種の私的契約です。そのため、協定書に定めた内容に違反した場合は、公的な指導や罰則の対象にはなりません。裁判所に提訴するなど、地域の住民で対応することになります。

「地区計画」は、「都市計画法」、京都市条例に基づいて、市が定めるルールです。そのため、違反があった場合は、市が対応することになります。

これからの課題として、「地区整備計画」の内容に、「建築協定」等で定めている項目を加えて、内容を充実させることも検討すべきかな、と考えています。

桂坂地区建築協定協議会発足

Q：「協議会」は、いつできたのですか？

A：発足したのは2007（平成19）年ですが、それ以前から準備に動いていました。

「建築協定」では、一地区に一運営委員会を設けることになっていますが、桂坂では、ほぼ自治

会ごとに運営委員会が結成され、現在15の委員会が活動しています。

2007年7月、その運営委員会の代表が集まって、「桂坂地区建築協定協議会」（当初は懇談会）を結成しました。

Q：協議会としては、どんな活動をなさっているのですか？

A：年に数回全体会議を開いて各地区の情報交換をしたり、「建築協定」についての勉強のほかに、「地区計画」や、2007（平成19）年9月に制定された「京都市新景観政策」などの研修会・勉強会をしています。

また、協定の地区名を変える作業にも取りかかりました。桂坂は自治会活動が活発で、みなさん、自治会名に馴染みがありますので、「地区整備計画」の地区名（「桂坂第1地区」など）と「建築協定」の地区名を、それぞれの自治会名に準じた名称に変える作業を、自治連合会や各自治会のご協力をいただいで、現在進めています。



てきて、我が町並みを見るとホッとするととの声もありました。

◆更新の取組み

まず、アンケートを実施し、自分達が地域の環境を気に入って住んでいることを再確認。そのまちなみを守るルールの継続を確認されました。



運営委員会を月1回開催するほか、アンケートで要望のあった、協定内容を紹介するルールブックや11号を数えるニュースを作成されました。勉強会の参加された方がルールブックを持ってこられたのを見たときには「作って良かった」と実感されたそうです。

また、アンケートを未回収のお宅には、女性陣が率先して「私が行ってくるわ」。説明が必要な時は委員長がフォロー、と連携して取り組まれています。更には委員長の娘さんの存在です。小4ながら委員会に参加し、大人達の議論をホワイトボードにまとめることもあり、風邪で欠席の時は、委員から「今日は来てないね」との声が聞かれるそうです。

◆取組みの振り返りと今後

「99%もの承諾をもらえたことは嬉しかった。色の判断等は地元での調整が難しいので、地区計画を通じての対応を行政にお願いしたい。今後は地区計画の手続きを進めたい」とおっしゃっていました。

（この記事は、2008（平成20）年度取材時のものです。『ニュースレター 京まち工房』（叻京都市景観・まちづくりセンター編、No.46、2009.3.より許可を得て転載）

Q：これからの課題、抱負をおきかせください。

A：まち開きから20年余が経ち、良好な住環境や景観をいかに発展させ守っていくかが、これからの課題だと思っています。誰もが「住んでみたいまち桂坂」「住み続けたいまち桂坂」「住んでよかったまち桂坂」と思えるよう、自治連合会や各種団体の皆さんとともに、さらに議論を深め、協調・連携しながら、桂坂住民の思いを実現させていくことが、これからの目指すべき方向ではないかと考えています。

Q：ありがとうございました。

行政は、後押しはしてくれても、住民の代わりに中心となって動くことはできません。あくまでも住まい手が担い手。桂坂の好ましい環境を孫の代、曾孫の代へと渡していくことが、私たちの責務ですね。そんな気概をもって、取り組みましょう！

なお、「桂坂地区建築協定協議会」は、京都市・都市計画局・建築指導部の推薦を受けて、国土交通省2009年度「住まい・まちづくり担い手事業の提案募集」に応募されました。その推薦文の一部をご紹介します。

京都市全体でも市内の建築協定運営委員会の連携を図るための協議会が存在するが、それは行政のサポートのもとに活動している。一方、桂坂地区建築協定協議会は、完全に住民主体で活動されており、このように一定エリアの連担する建築協定地区の運営委員会が自主的・自発的に横断的な活動をしているのは、全国的にも稀であり、その組織のあり方自体がひとつのモデルになりうると考えられる。

付記：上記応募の件について、審査の結果、①独自性・先導性、②実行確実性、③継続性の視点において評価され、支援対象団体に選ばれました。



マンション問題

2007（平成19）年5月、「ロータリー東北角地にマンション建設が計画される」という問題が持ち上がりました。桂坂の玄関口ともいえる場所に、5階建てのマンションを建設するという計画です。この場所は桂坂センター地区として、都市計画上の「地区計画」があり、法的にはマンション建設の禁止条項はありませんが、「住民の利便に供する施設の誘導を図る」という本来の土地利用の方針には合わず、この場所にマンションが建つことは周囲との調和を乱し、景観の面からも問題があると思われました。

桂坂は、私たち住民が20年以上にわたって、厳しい建築協定を守り良好な住環境を作り上げてきた街です。「この住環境を護ろう」と建設に反対する住民運動（「桂坂マンション対策会議」以下「対策会議」）も起こりました。8月4日には桂坂小学校体育館において、事業主による「住民説明会」が開かれましたが、出席住民から強い反対の意見が相次ぎました。

9月には、桂坂学区自治連合会（以下「自治連」）が、「桂坂マンション建設計画の中止に関する請願」を京都市議会に提出し、桂坂地区建築協定協議会も「『桂坂マンション』建設反対について」と題した要望書を、対策会議も「開発行為不許可の申入書」を京都市長に提出し、反対運動が続けられました。

京都市による行政指導

提出された請願に対しては、10月から2008（平成20）年3月まで、5回にわたり京都市議会建設消防委員会で審議され、京都市は「桂坂センター地区の地区計画の主旨に基づく土地利用の方針」からみて、この場所にマンションは相応しくないとの考えから行政指導を行い、その結果、事業主は「マンション計画」を「大型商業施設計画」に変更しました。

しかし、商業施設であっても、ロータリーのすぐ近くに入り口がある「交通面での危険性」は変わらず、また将来の、桂坂センター地区の景観がどうあるべきかを考えれば「周囲の低層住宅地域との調和が必要」であるため、2008年3月には「商業施設の『交通問題』についての要望書」、同年12月には「桂坂センター地区の景観に関する要望書」を、「自治連」・「対策会議」連名で京都市長宛てに提出しました。

私たちはこれからも環境、景観について一層関心を持ち、これを守り育てるための学習と実践を継続して、将来の「桂坂のまちづくり」に関わっていかねばなりません。

桂坂の美化を支える住民



京都の町家には「門はき」の習慣があります。

「自分たちの街は自分たちできれいに」の精神は、桂坂のように新しくできた街にも受け継がれ、生きています。

住居周辺の緑道、公園の通路清掃や樹木の世話、更にバス停の吸殻、ごみの掃除など、これらをほぼ毎日、周辺住民の方々が継続して行われています。

桂坂の美しさは、整備された家並みや街路だけによるものでなく、住民の街わない奉仕の精神によって支えられており、これらが制度としてのクリーンデーやチームとして取り組むボランティア団体に発展していったといえます。

ふれあいクリーンデー

私たちの手でまちを美しくする活動として、桂坂の発足当初「クリーン大作戦」として始まった自治会単位の清掃活動は、現在「桂坂統一ふれあいクリーンデー」として、春、秋の年2回15自治会すべてで開催されています。

クリーンデーは単に住居周辺の道や公園のお掃除だけでなく、ご近所一緒にさわやかな汗を流し、お互いを知り合うコミュニティーの場として、大切な機能を持っています。「ふれあいクリーンデー」は桂坂の「環境と人々」双方の美しさを支える活動として将来にわたって続けていきたいものです。

桂坂ロータリー周辺

桂坂はロータリーを中心として東西南北に家並み街路樹が整然と並び、特に幹線道路の街路樹やロータリー周辺の植込みは近隣公園と同じように、季節の表情を持ち住民の目を癒してくれる貴重な住環境です。

クリーンデーは自治会単位で、公園周辺を主として行われますが、幹線道路やロータリー周辺はどうしても手が届かず、放置されがちです。欠けたり枯れたり、時として雑草に埋もれた姿も見られ、桂坂の玄関口としてはみすぼらしい状況でした。

緑水会の誕生

そのような状況を以前から気にかけておられた住民有志7名の方々が、平成18年5月に設けられた京都市の「街路樹里親制度」に応募され、その名も「桂坂緑水会」として認定、桂坂の「環境を護り育てるボランティア団体」としてスタートしました。

緑水会の主として担当する自然整備（清掃、補植）のエリアは、桂坂ロータリー周辺ですが、活動開始3年を経過し、21年5月現在ではメンバーも20名に達しています。京都市建設局緑地管理課とは定期的な会合を持ち、協力関係を深めています。

桂坂地域全体の街路樹や緑地管理に関する、行政への情報提供も大切な役割です。



ロータリー周辺から、小学校、野鳥遊園に向かうメインストリートの低木は、京都市の予算によってつつじの補植がなされ、きれいなみどりと季節の彩りを取り戻しました。緑水会の地道な活動が評価された結果です。

緑水会としては、2度と枯らすことのないよう、水遣り、下草除去などの手入れを続けていきます。

(以上、緑水会代表 徳光俊二氏〈かえで自治会〉からの取材)

西総合支援学校の「環境宣言」

西総合支援学校は「ひと・こと・ものを大切に
して花と緑を守ります」との「環境宣言」を行い、実
践しています。広報『桂坂』（2009（平成21）年5
月26日発行、第141号）では、この「宣言」につい
て掲載しました。

西総合支援学校の 環境宣言	
「ひと・こと・ものを大切に して花と緑を守ります」 これは西総合支援学校の 「環境宣言」です。学校と して、「地球環境の保全が 人類共通の最重要課題の一 つであることを認識し、全 校で教育と学習を通じて、 環境を守る大切さを学び、 環境にやさしい学校づくり を積極的に進め、さらに生 活のすべての場面で実践す る力を育てていくという、	『環境宣言』を行って「お られます。 5月14日発行の『学校だ より』6月号から、支援学 校の実践活動の一つを転載 して紹介します。
「桂坂統一ふれあいクリ ンデー 呼応清掃活動」 学校のある「桂坂地域」 は、花と緑の豊かな自然に 囲まれた、美しい町並みの	中に、福祉施設、国際学術 施設のあるすばらしい環境 の町です。この美しい環境 は、地域のみならずが長年 守り育ててこられたもので す。私たちもこの地域で学 習を行っていることを十分 に認識し、地域の一員とし て、桂坂地域の環境保全に 役立ちたいと考えます。 その活動の一環として、 5月8日（金）に、「桂坂統 一クリーンデー呼応清掃活 動」に取り組みしました。 この「桂坂統一ふれあい クリーンデー」は、桂坂学 区自治連合会が長年取り組 んでおられる環境保全活動
	の一つで、毎年、春と秋に 行われています。今年度は 5月10日（日）に行われ、桂 坂の公園、緑道、幹線道路 などの清掃に、地域のみ ならずが取り組まれました。 私たちは、その前週の8 日（金曜日）に、「桂坂統一 ふれあいクリーンデー呼応 清掃活動」として、学習時 間帯には子どもたちと指導 者が、また子どもたちの下 校後には教職員総出で、学 校周辺の道路の清掃に取り 組みました。

環境へのこころ

このように、桂坂の自然環境や住居周辺の美化は
住民による日常の奉仕活動や自治会組織によって支
えられているといえます。もちろん桂坂のように大
きくなった街には、行政による諸制度や支援活動が
街の維持に不可欠ではありますが、本当に住みよい
まちは、私たちひとりひとりの心が創っていくもの
ではないでしょうか。

桂坂はいつまでも、「自然と人が美しい」まちで
あるように心がけたいものです。



安心・安全のまち桂坂



紫陽花 山の手倶楽部 小田根康夫氏

安心・安全のまち桂坂



豊かな自然に囲まれ、新緑から紅葉、雪景色と季節を肌で感じられる桂坂に、みんなが安心して、健やかにいきいきと暮らすことのできる確かな生活空間を築き上げるために私たちは今、何をなすべきでしょうか。

日常、私たちは災害の発生や危険との遭遇を意識することはほとんどありません。実際に災害が起こったり、事故が発生してはじめて後悔することが多く、事前の対策を講じることの大切さを感じます。

災害に対する備えだけではなく、次世代を担う大切な子どもたちの笑い声があちこちから聞こえ、高齢者にも優しいまちでありたいものです。

桂坂ではいろいろな団体が、子ども、高齢者、障害のある人やすべての人たちの生命や生活を守るため、災害や事故が発生したときに、慌てず対応ができるように活動を行っています。

桂坂に住む人たちが、これらの活動を知り、積極的に参加することが、「安心・安全のまち桂坂」をつくることになるのです。

災害に備えて

桂坂は檜原断層と西山断層に挟まれた丘陵地に位置しています。温暖化の影響か、台風の発生が増え、「ゲリラ豪雨」と呼ばれるような気象現象も増えてきたように思います。だからといって必要以上に恐れることはありません。日頃から備えを怠らないことが大切です。家族の中で防災について話し合いをすることも必要でしょう。

桂坂には災害に対する家庭での備えについて指導をしたり、災害が起こったときに住民に救援活動をする組織があります。桂坂自主防災会がそれで、1994（平成6）年に活動を開始しました。

桂坂学区自主防災会

日本は火山帯に位置し地震が多く、山が海に迫った険しい地形や台風の通り道になっているという自然条件から、自然災害が発生しやすい環境にあります。桂坂に災害が起こったときを想定して、住民が自分たちで自主的に防災活動を行い、「我々の桂坂は自分たちで守る」という意識を住民が共有して、安心して暮らせる街づくりをするために桂坂自主防災会は組織されました。

地震や台風などで建物が倒壊したり、道路が損壊



した場合には消防機関の救援活動が阻害され、遅れることが予測されます。このような災害発生時に初期の段階から、住民の力で救出・救護・避難などの活動をするためには、日ごろから防災に関する設備や備品を備え置かねばなりません。そのために訓練を実施し、災害時にリーダーとなる人材の育成も行っています。

防災訓練

自主防災会の組織の中には、各自治会単位で組織される15の自主防災部があります。

自主防災部では年に1回ワークショップ（参加者に自主的に活動させる方式の講習会や研修会）形式の自主防災訓練が行われます。08年度の「天ぶら油による火災」、09年度の「防災七つ道具を使いこなす」など、テーマを決めて実施され、これらの各部の訓練を通して反省点や課題が抽出され、次の新しい行動規範が作成されていきます。

毎年秋には各自主防災部の集まる桂坂学区自主防災会の総合防災訓練が桂坂小学校で実施されています。この訓練には桂坂の15%に当たる住民が参加して行われます。

桂坂の北西にある「ふれあいの里」の六つの施設で組織される消防互助会とは支援関係にあり、相互協定が結ばれ、消防互助会の防災訓練にもお互いに参加して連携を密にしています。また、「日文研」が主催する防災訓練にも参加するなど、地域全体の防災協力関係を築くことにより桂坂での災害に共同で対応できる体制が作られています。



リーダーの養成

災害が発生したときには冷静に事態に対応して被災した住民を導くリーダーの存在が必要です。自主防災会では毎年各自治会から3名を募って、防災に関する体験学習のできる京都市防災センターにおいて研修を行っています。これまでに桂坂の中で延べ500名以上が研修を終え、災害発生時に強い力になることは間違いありません。

防災器具の設置

桂坂小学校に設置された自主防災会の倉庫の中と、各自治会館には写真にあるようなバールやフロアジャッキ等の「防災七つ道具」と、搬送用の「折りたたみ式リヤカー」が装備されています。

これらの器具は災害が発生し、家屋が倒壊した場合の救護や通路の確保に威力を発揮します。



防災七つ道具

また京都市からは、担架やはしごなど、15種類の自主防災組織用の防火器材が貸与されており、これらの器具も桂坂小学校内の倉庫に設置されています。その他にも緊急の災害時に対応できるように、プロパン用のコンロ7台や鍋が備えられており、一度に1000食の炊き出しが可能です。

また、桂坂小学校にある自治会館は耐震構造の建物で、非常用の発電設備や防災無線も設置され、災害が発生したときの拠点となるようになっています。

救出・救援 調査活動

自主防災会では、災害発生時に救出・救援を希望される方を約2年に1回程度調査しています。この調査は、大規模な災害が発生したときに、この調査資料を元にして高齢者や障害のある方、小さいお子さんに救出・救援の手を差しのべ、避難誘導がうまく行えるようにすることを目的としています。しかしこれはプライバシーに関わる内容となるため、自治会長と自主防災会が責任を持って厳重に情報を保管管理することになっており、現在では約120名の方が登録されています。

一刻を争う災害時にはこのような情報が大変重要なものになります。

地域住民としての意識

自主防災会は、ベースがしっかりした組織になっており、結成以来の地道な教育や訓練の積み重ねが、効を奏して、突然の災害では大きな力を発揮してくれると思います。しかし、住民としても、「我々の桂坂は自分たちで守る」を認識し住民全員が連帯感を持って、積極的に活動に参加することで、いざという時に対応でき、安心・安全な街づくりができるのではないのでしょうか。

桂坂消防分団

桂坂の入居が始まって約10年が経ち、ひとつの街としての機能が整った頃、「桂坂は住民自らで守ろう」という声が学区内に高まり、1997（平成9）年に大枝消防分団桂坂班として団員15名で発足しました。

発足当初はほとんど素人の集まりであったため、大枝分団で1年間、消防分団として活動する上での基礎を学び、1998（平成10）年10月1日に西京消防分団桂坂分団として正式にスタートしました。その時の団員は20名。その際に榊本市長より桂坂分団旗が授与され、同時に小型動力ポンプなど、活動に必要な器具も貸与され、現在の消防分団詰所を拠点として活動が開始されました。

訓練活動



あらゆる災害に迅速に対応する上で、必要な知識・技能を取得するために警防訓練を行っています。

山林火災を想定した「山林火災防御訓練」、堤防の決壊や河川の増水による溢水（水があふれること）などを想定して土のうを積み上げる訓練をする「水災害訓練」、阪神大震災が起きた1月17日5時17分に実施される「震災訓練」、また女性分団員も実際にホースを持って放水訓練を行う分団独自の「消火訓練」をそれぞれ年1回実施しています。

このような厳しい訓練の成果を問われる「総合査閲」でも優秀な成績を収められています。（2003年6月1日、京都市消防学校で行われた「京都市消防分団総合査閲」において3位）

桂坂消防分団のPR活動はユニークで、いろいろな防火劇を通して住民の防火意識を高めています。

この活動が目にとまり、徳島の「防火フェスティバル」に招かれ防火劇を演じたこともあり、大変活発に活動されています。



予防活動

予防活動としては、毎月実施している「無火災推進日」（毎月5日、20日）、年に2回実施する「春・秋の火災予防運動」「夏・冬の文化財防火運動」「年末防火運動」の活動があります。皆さんも、「火の用心」と声を出しながら拍子木を打つ音を聞かれたことがあるのではないのでしょうか。またカナートイズミヤの前で防火のビラや防火ティッシュを配られている姿を見られた方もおられると思います。

桂坂の保育所では、幼児に向けて花火やライター等の火遊びに対し、防火劇を通じて防火指導を実施しています。桂坂小学校の4年生に対しては「暮らしを守る人たち」という授業の中で、消防団の仕事、消防署の仕事について話をしたり、消火器の使い方、はしご車への試乗などを通して実際の防火活動の体験学習も毎年行っています。

その他の活動

その他の活動として、毎年分団内で救急法の教育を実施しており、団員15名中6名が「応急手当普及員」に認定されています。

地域の要望に応じて警備関係の活動も行っており、現在では「ホテル観賞会」、「桂坂区民体育祭」、「ふれあいの里秋まつり」で警備を実施しています。

それ以外にも、消防署から連絡が入った際には緊急出動することもしばしばあるそうです。

桂坂では20年の間に山火事が1回、ボヤ程度の小さな火災はしばしば発生しており、大きな火災も4回発生しています。また、桂坂の裏山では遭難事故が発生したこともあり、このような災害時には桂坂消防分団が大きな力を発揮しています。

子どもを守る



少子高齢化が進み、子どもたちは我々住民にとってこれからの地域を支えていくためにも大切です。子どもたちの元気な挨拶の音がきかれる街にするため、桂坂では、PTA、各種団体が地域住民と一体となって活動をしています。

桂坂安全・安心ネットワーク形成事業

市民の誰もが安心できる、安全なまちの実現を目指す「京（みやこ）の安心安全ネット総合プラン」が2005（平成17）年3月に策定されました。行政の安心・安全のまちづくりの施策をより一層効果的に進めるために、「地域の力」を重視し、行政とのパートナーシップをより強固なものにしようとするものです。

2005（平成17）年、桂坂学区が指定を受けました。これに基づき9月に桂坂自治連合会の中に「安全推進委員会」を立ち上げ、桂坂自治連合会、桂坂小学校PTA、桂坂防犯推進委員協議会、桂坂交通安全推進委員会、西京少年補導委員会桂坂支部を構成団体として事業を実施しました。

「子どもを守る」の一点に絞り、「桂坂学区に居住し、生活し、学習している子どもたちを交通事故、災害、事件から守り、心身ともに豊かに育む」ことを取組みの目標としてネットワークを形成しました。

主な事業としては、子どもの安全対策を目的とした警察・消防署とのワークショップの開催、PTAの安全対策に対する活動のネットワーク形成、小学校の安全対策マニュアルの普及、各種団体の創意と工夫の「子どもの安全」を守る活動などです。

自治連合会の安全推進委員会の進めた「安全・安心ネットワーク形成事業」の諸活動の報告書として、「子どもを守る ― 桂坂学区安全白書2005」が発行されました。

この契機に、子どもたち自身に「自ら身を守る」意識を持たせることが肝要で、地域の私たちが「安心・安全のまちづくり」の実現をめざすことを検討することが必要とされます。

2006（平成18）年の第2期は「高齢者を守る」、2007（平成19）年の第3期は「障害者を守る」をスローガンとして事業を行い、「安心・安全ネットワーク形成事業」を終了しました。

見守り隊

京都府が推進している「子ども・地域の安心・安全活動推進事業」の一環として山の手倶楽部に「見守り隊」が結成されました。2005（平成17）年4月から活動がはじまり、現在約50名が見守り隊として登録されています。

登校時には声かけ、下校時間帯には散策、庭の水やり、庭先の掃除などをしながら、それぞれの地域で「防犯」と書いた帽子を着用して子どもの安全を見守っています。帽子の色は黄緑とオレンジです。夏休み明けと冬休み明けには青山隊長を先頭に小学校の校門の所に立ち、会員交替で、朝の声かけ運動をPTA、地域女性会と共に実施しています。2007（平成19）年4月発行の『市民しんぶん』1面には活動中の写真が掲載されました。



5年目を迎えた今では、学校のいろいろな行事にも参加し、小学校、PTA、地域女性会と横のつながりもでき、顔見知りの子どもも増え、子どもたちからも感謝の言葉を貰うほどになっています。

複雑な社会情勢のなかにおかれた子どもたちの安全をどうすれば守ることができるか日々模索しているとのこと。「地域のために貢献することは、継続することが第一です」と、山の手倶楽部の中では考えておられます。同じ目的をもって活動する他の団体や警察と一緒に、子ども・高齢者・地域住民の安全を守ることが大切です。



安心・安全桂坂小学校PTAの活動

桂坂小学校には約800名の児童がいます。PTAとしては約600世帯が活動しています。この数は桂坂の他の各団体の人数と比べても多く、それを活かして、安全対策に対しても継続的な取り組みがなされています。

下校時安全パトロールの実施

安全対策に向けた取り組みとしてPTAでは、児童の集団登校時の旗当番と下校時の安全パトロールを実施しています。この取り組みは1997（平成9）年度から実施されており、2004（平成16）年より自治会地区を基本としたブロック単位で毎日交代で行う方式へと強化されました。

旗当番は登校時間帯に学区すべての信号機付き交差点、横断歩道等に複数の会員を配置し、子どもたちを交通事故や不審者から守りながら、歩行者としてのマナーを教える場となっています。

安全パトロールは、下校時間帯を中心に安全パトロール用の緑のタスキ、腕章を着用し、非常ブザーを携行して幹線道路や生活道路をパトロールするものです。仕事の関係で下校時間帯にパトロールすることができない人は朝あるいは夕刻にパトロールを実施することになっています。その他、自転車、車に取り付ける安全パトロール用のタスキ、腕章、そして安全プレートはPTA以外の住民にも配布しており、元PTAをはじめ自治会、地域女性会、山の手倶楽部等の団体の方々が協力しています。

学区共通の腕章作成

学区の中で安全パトロールへの参加の声が高まっていく中、PTA以外の方が子どもたちに声をかけにくいという意見が自治会、他の団体から出されました。子どもたちにとってやさしい眼差しが増えることは喜ばしいことですが、パトロール用グッズの種類が多くなればなるほど不審者対策面でリスクを背負うことにもなります。子どもたちはもとより、住民も、どのグッズが正しいものなのか判断できなくなります。そこでPTAでは今まで使用してきた安全パトロール用の腕章と安全プレートを参考にして学区の教職員、PTA、自治連合会、各種団体等が共同で使用できるパトロール用腕章を作成しました。この腕章がパトロールの目印になります。



「安全マップ」(地域危険箇所マップ)の作成

PTAでは地域委員会を中心に「安全マップ」(学区内における危険箇所を記した地図)を作成しています。「安全マップ」は定期的に開催される地域懇談会で寄せられる情報を元に常に見直されています。

桂坂学区は新興住宅地であり、歩道、公園も整備されているように見えますが、問題のあるところも幾つかあり、しかもそれが子どもを通じて情報提供される場合があります。他の学校でも行われているように、大人がマップを作成して、「子どもを守る」だけでなく、子ども自身が危険箇所付近に近寄らないために自分たちでマップ作成に主体的に加わっていくことも重要です。このようにして作られた「安全マップ」はPTA関係にはもちろん、桂坂の地域住民の方にも自治会の回覧を通じて知らせています。

「こども110番のいえ」の拡大への取り組み

PTAは桂坂防犯推進委員協議会と連携し、「こども110番のいえ」の拡大に取り組んでいます。2005（平成17）年度当初は24軒だった「こども110番のいえ」も、僅か半年間の取り組みの中で2006（平成18）年2月には、115軒と4倍以上に増加しました。2008（平成20）年12月現在118軒になっています。

子どもたちが安全に生活していくためには、地域住民としても、PTAと協力して子どもたちを見守っていくことが大切だと思います。

青少年の健全育成のために

西京少年補導委員会桂坂支部

少年補導委員会の支部は西京警察署管内の学区ごとに17支部があります。桂坂支部は1991（平成3）年に発足し、現在110名の委員が活動しています。対象年齢は、就学前の幼児から中学生までで、「地域に根ざした少年の非行防止と健全育成活動の推進」を重点目標としています。桂坂では子どもの数も増え、できるだけ子どもと触れ合う機会を多く持つことが大切と思われます。いろいろな行事をすることで、子どもの安全が守られます。

主な活動状況

おもな活動は、少年非行防止活動として夜間パトロール、西京警察管内の合同パトロール（桂駅周辺とラクセーナ周辺）があります。桂坂支部としては夏休みの期間中に、防犯推進委員会・消防分団・体育振興会・交通安全推進会・桂坂小学校の先生とP

TA・大枝中学校の先生とPTAが協力して公園などをパトロールします。また、洛西水禍事故防止パトロールを夏休み中に桂坂小学校のPTAの協力を得て行っています。「親と子のクリーン作戦」として桂駅周辺の違法ポスターの撤去や清掃も西京警察署合同で実施します。

子どもの健全育成活動

もう一つの活動は、子どもたちが物づくりの大きさ楽しさを学ぶために実施している、凧作りや紙飛行機づくりをする「わんぱく塾」、夏休みの期間中に1泊2日、「自然の中で自立し、秩序と調和のとれた生活を体験する」ことを目標に野外教育活動をする「自然わんぱく塾」があります。「親から離れ、わがママが言えない。でも他の学年の人と友達になれる。1度来たらやめられない。とても楽しかった」と子どもたちの感想がありました。また、桂坂小学校のプールの開放をして、学校の授業ではできない水中でのボール遊びなどをします。冬季には「耐寒ハイキング」「親と子のふれあいデー」の「もちつき大会」があります。これらの行事は少年の健全育成活動として行われています。

いろいろな行事に子どもが参加することにより、子どもたちと顔見知りになり、ひいては子どもの安全を守ることにつながります。そのためには、子どもが参加してみようと思う事業計画をたてる必要があります。参加しようと思う内容であっても親の後押しがなければ難しく、地域全体で連携して行うことが大切です。地域の多くの人たちと子どもが顔見知りになることによって少年非行の防止、地域の安全につながっていくものだと思います。子どもは「地域で育つ」ということを実践されています。





交通事故や犯罪を防ぐためには、地域住民の意識の高さが重要です。みんなが交通ルールを守り、犯罪を起こさない、犯罪を見逃さないという一人ひとりの行動が、事故や犯罪の減少につながります。住民みんなの力で桂坂及び周辺の地域を安心・安全な街にしましょう。

桂坂交通安全推進会

桂坂交通安全推進会

桂坂交通安全推進会は、1992（平成4）年、行政（西京警察、洛西まちづくり推進課）の下部組織として、街の交通安全を推進するために設置されました。

桂坂交通安全推進会には女性部もあり、合同で活動しています。行政の下部組織としての活動が中心ですが、桂坂独自に、

小学生対象の「親子自転車教室」

「高齢者ドライバーの研修会」

などの活動をしています。

小学生対象の「自転車教室」

桂坂小学校PTAとの共催で、毎年5～6月に実施されています。桂坂小学校のグラウンドで、自転車の正しい乗り方・走り方について、西京警察署交通巡視員の方から実技指導を受けます。

自転車は、「道路交通法」に規定された、れっきとした「車」です。桂坂は起伏が多く、下り坂ではスピードが出過ぎて危険なため、細心の注意が必要です。

子どもが学ぶだけでなく、まず親が「交通ルールや正しい走り方を理解し、子どもに教えることができるように、誰一人として事故を起こしたり怪我をしたりすることのないように」、との願いが、この「自転車教室」には込められています。



高齢者ドライバーの研修会

最近、高齢者による交通事故が増えています。自分の運転をチェックする機会を設け、安全運転の参考にしてもらいたい、との願いから、「きんき安全自動車学校」の協力により、毎年、秋の全国交通安全週間中に実施されています。

65歳以上の受講希望者は、自動車学校の送迎バスで同校に赴き、運転技能とシミュレーションによる研修指導を受けます。

その他の活動

西京区にある17学区の交通安全推進会は合同で、「交通安全啓発活動」を行なっています。

阪急桂駅周辺や、洛西ニュータウンの「さくらまつり」会場などで、交通安全パンフレットを配布するなどの活動を通して、交通安全を呼びかけています。

桂坂には特殊な交差点「ロータリー」があります。直径の大きなロータリーであれば、「一方通行」の特殊な道路として、車は「一時停止」せずに進入することができます。しかし、桂坂のロータリーは大きくないだけに、通行にはこの交差点ならではの不文の「約束ごと」（主なものは次の二点）があって、これを守れば車はスムーズに流れます。

ロータリー進入時は、必ず『一旦停止』

ロータリー内の走行車が優先

桂坂のシンボルでもあるロータリーでは、他を思いやるマナーを第一に運転する。また、路上の違法駐車はしないなど、交通ルールに従い、私たちは「交通安全推進会」とともに、安全で住みよい街にする努力をしなければなりません。

桂坂の防犯

桂坂防犯推進協議会

1992（平成4）年8月、桂坂学区にも「防犯連絡所」のプレートがあちこちに掲げられました。そして、1994（平成6）年4月には、これを発展させて桂警察署に「桂警察署防犯推進委員協議会」が設置されると同時に桂坂においても、「桂坂防犯推進委員協議会」が発足しました。その時以来「防犯推進委員」と名称を変更して構成員20名が2年任期で、桂警察署（現西京警察署）から辞令を交付されています。

犯罪が凶悪化、巧妙化してきた昨今のことです。「地域の安全は地域自ら守る」ことが必要となり、自主防犯を推進強化する目的で、警察と地域が連携する組織が求められてきたことからこの協議会は設立されることになりました。

活動状況

「桂坂防犯推進委員協議会」の組織構成は、現在、自治連合会から2名と各自治会長とボランティアの合計22名です。毎年10月、防犯啓蒙活動として「全国地域安全活動」を行っています。

1999（平成11）年、御陵坂にローリング族が出没した時には、警察と住民が一緒になってパトロールを行っています。その他に「防犯教室」や「護身術教室」を実施し、最近では、桂坂PTAの協力の下に「こども110番の家」の充実に取り組み、110軒の目標を達成して現在118軒となっています。夏休みには少年補導委員会、PTA、消防分団等と合同で夜間パトロールを行っています。



防犯推進活動上の問題点と今後の課題

2008（平成20）年の夏頃、刃物を所持した強盗犯人が大阪から京都に来たとの一報を受けたものの、その後の情報は一切入りませんでした。もしも凶悪犯が桂坂に入ったような場合連絡体制は充分ではありません。

また、最近ネット犯罪が多発傾向にありますが、これらを把握して対処することはきわめて困難です。

今後これらの問題を解決していくことが、桂坂の住民が安全に生活を送っていくためには重要なこととなります。

「青パト」発進

2004（平成16）年12月1日から「青色回転灯を装備する自動車による自主防犯パトロールを適正に行うことができる証明」を受けた団体には、防犯パトロールに使用する車両に「青色回転灯を装備することが認められました。2008（平成20）年7月、西京防犯推進協議会がこの団体に認定されたことから桂坂支部でも、同年7月末、二台の登録を完了して、8月からパトロールを始めています。

おりばステーション「星の坂」

夜9時以降に阪急桂駅を発車する「京都市バス」「京阪京都交通バス」の路線におりば専用ステーションとして「星の坂」があるのをご存知でしょうか。9時以降にバスに乗られた方は、普段あるバス停以外に「星の坂何番」とかいうアナウンスを聞かれたことがあると思います。

「星の坂」は防犯上、暗い夜道の歩く距離を少しでも短くするために「安心・安全」に配慮して設けられました。「星の坂」というシャレた名前は、桂坂の「坂」と夜をイメージする「星」からの命名です。桂坂の西地区には5箇所のステーションがありますが、東地区には設置されていません。桂坂全体の「安心・安全」を守るためにも、早急に東地区にも設置していただきたいものです。



西京警察署大枝交番

2005（平成17）年、桂坂学区は、京都市の「地域の安心安全ネットワーク形成事業」に取り組み、各種施策を遂行して頂いたことから、犯罪は減少傾向にあります。しかし気を緩めると増加するのが犯罪です。「子どもの安全対策」で「子ども110番の家」を設置したり、見守り活動が進められていますが、近隣住民が互いに連携して「犯罪は許さない」という姿勢を示し、個人では発揮できない防犯効果を期待しています。

（西京警察署 2006年7月4日『桂坂』）



大枝交番

大枝交番の移動開設

1998（平成10）年3月27日、大枝学区小学校前から市バス停留所「桂坂口」の北約170m地点（桂坂学区内）に移転されました。

大枝交番の活動

2008（平成19）年増加した空き巣、自転車盗の発生を抑止するため、交番の諸活動を強化され、一定の成果を挙げました。しかしその反面、増加する犯罪もあり、今後とも犯罪を抑止するために、大枝交番では、さらに諸活動が強化されています。

最近の犯罪の特徴

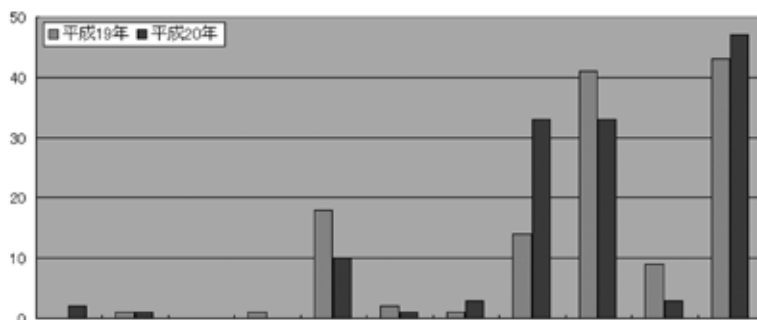
お年寄りを狙う悪質商法から振り込め詐欺へと変化。振り込め詐欺防止のため、ATM周辺では、声かけをすると共に警戒が強化されています。また、高齢者宅には電話による振り込め詐欺などの被害防止の指導がされています。

空巣対策

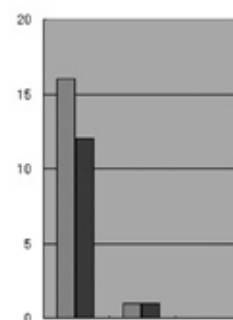
- ① 短時間の外出でもこまめに鍵をかける。
- ② 窓やドアはツーロックにする。
- ③ センサー付きスピーカー、ライトを取り付ける。
- ④ 外出時には近所に声をかける。

大枝交番は、2007（平成19）年に多発した空巣や、その年々における犯罪に対応し、ミニパトカーの他に、隣接する洛西交番パトカーや西京警察署パトカーによるパトロールの強化策が実施されています。

大枝交番管内の街頭犯罪、侵入犯罪の認知状況（平成20年12月末現在）



	強盗	恐喝	強制わいせつ	ひったくり	車上ねらい	自動販売機ねらい	自動車盗	オートバイ盗	自転車盗	部品ねらい	器物損壊	合計
平成19年	0	1	0	1	18	2	1	14	41	9	43	130
平成20年	2	1	0	0	10	1	3	33	33	3	47	133
前年対比	2	0	0	-1	-8	-1	2	19	-8	-6	4	3



	空き巣	忍込み	居空き	合計
平成19年	16	1	0	17
平成20年	12	1	0	13
前年対比	-4	0	0	-4



正門 さつきの頃 山の手倶楽部 大西 功氏

新たな「ふるさと」桂坂 ― 地域と子ども

新たな「ふるさと」桂坂



この20年の間にこの街に移り住んだ私たちにとって、「ふるさと」といえる場所は、桂坂以外に在るかも知れません。しかし、今この街で幼少期を過ごしている子どもたちにとってこの桂坂は、「ふるさと」として永遠に心の中に存在し続けることだろうと思います。

可憐な花を眺めた公園、自転車を押して登った坂道、西山連峰を望む校庭で過ごした日々、そこで出会った人々とのつながりなど、そのひとコマひとコマは「ふるさと」のあたたかい記憶として子どもたちのその後の人生を支えてくれる確かな拠りどころとなるに違いありません。

この街に育つ子どもたちの「心のふるさと」としての「桂坂」を創り出すために、桂坂では、子どもたちの今と将来とを思いながら、多くの人々の、様々な取り組みが行われています。ほんの一部ですが、ご紹介します。

地域と子ども

学びの拠点 桂坂小学校

樹木の名を持つ四つの門

20周年を迎えた小学校の樹木はとてまたくましく育っています。創立当時は広い校庭のあちらこちらに植えられた幼い木々に水をやるのが大変な作業だったとか。今ではどの木々も立派な根をはり豊かな美しい緑の葉を揺らして、子どもたちを見守ってくれています。

今春、小学校の四つの門に、植えられている樹木にちなんで「呼び名」が付けられました。

2004（平成16）年に桂坂教育後援会から寄贈された電気施錠式の南門は「桜の門」、すぐ近くの西側の門は「梅の門」、子どもたちが登校する階段の上の門は「櫻けやきの門」、そして運動場の北東、良うしろの隅にある門には、20年度の3月に定年退職された栗田博校長先生が小さな南天の木を植えられ「南天の門」と命名されました。昔から「難を転ず」と読み換え厄除けに用いられていることから、子どもたちを守ってほしいという願いが込められました。

クローバーランドに輝く生命

「桜の門」をくぐると正面にハーブの香りただよふ美しい花壇が目飛び込んできます。社会福祉協議会「花の輪の会」の皆さんが、子どもたちからデザインを募り作られた花壇です。四季を通して花が絶えないように育てられ、子どもたちだけでなく小学校を訪れるすべての人たちの心を和ませています。

その横には一見ただの草むらに見える広場と、ビオトープがあります。ビオトープとはもともとドイツ語で「生き物たちがいきているところ」というぐらいの意味ですが、ここには見知らぬ生物がすみ、図鑑にもない花が咲きます。必死でバッタを追いかける子どもたち、シロツメクサで首飾りを楽しそうに作っている子どもたち、メダカを大事そうに眺める子どもたち、泥だらけの手で笑いあう子どもたちの声がひびきます。

子どもが子どものままでいられる時間はわずかです。そんな子どもたちを温かく見守ってきてくれたこの素敵なスペースには、まもなく、新校舎の建設が予定されています。新校舎の周囲にはクローバーランドの名残をとどめる風景が作られる計画もあるとか……新たな風景の中でも、子どもの時間はゆっくりと流れ続けることでしょう。



子どもの時間

四年生から届いた手紙

「五月になって 雨がふえました
さいきん イモリもふえました」

「イモリも」の「も」がじつにいい
ほかの生きものにも するどく向かい
自然の世界を ぐいぐい
広げるのが じつにいい



「さいきん」も じつにいい
時間の流れを たしかにとらえ
自然の世界に ぐんぐん
とけこむのが じつにいい

子どものときにしかない
かけがえのない 子どもの時間を
しっかりと 豊かに 生きている

桂坂小学校元校長 角垣健美
桂坂小 PTA 広報誌第50号表紙より

くつろぎの学び舎

桂坂小学校は、市内でも児童数の多い小学校の一つです。この生徒増に、これまで対応してきた大きな校舎ですが、1日の大半を小学校で過ごす子どもにとっては、少人数で、しかも静かに過ごせるちょっとした狭い空間は必要です。

廊下のいたる所にベンチを設置し、また、カーペットの上にコタツを置いたコーナーを設けるなど、リラックスできる場所がたくさんあるのも桂坂小学校に学ぶ子どもたちにとって恵まれた環境のひとつといえます。休み時間や放課後、子どもたちは本を読み、絵を描き、工作、将棋など思い思いに心の和む時間を過ごしています。



「ハートルーム」の役割

普通学級の約6.3%の子どもたちが特別な支援を必要としているという全国の調査結果を踏まえ、平成17年度に文部科学省は、「困り」を感じている子どもたちの早期発見と教育に関わる適切な支援を国の方針として打ち出しました。

桂坂小学校でも、教室で過度の「緊張」や「心の負担」を感じている子どもたちが一時避難的に落ち着ける部屋が、2007（平成19）年に設けられ、「ハートルーム」と名づけられました。専門の先生が常駐するようになり、今まで担任の先生が一人で抱えていた問題も計画的・組織的・継続的に取り組んでいけるようになりました。

子どもが困っている事情を理解し、適切な支援をしていくための拠点として「ハートルーム」の果たす役割はますます重要になってくるでしょう。理解と支援によって、伸びていく芽を育む拠点です。

より充実した図書室をめざして

現在小学校は教室不足のため吹き抜けのオープンスペースを図書室として利用しています。蔵書冊数は約7700冊。毎年の購入図書のほか、桂坂教育後援会からの寄贈図書や、リサイクル本などで少しずつですが、数は増えています。2006（平成18）年からコンピュータ管理されるようになり、図書委員の子どもたちがバーコードを使って、本の貸し出しなどを行っています。

また、放課後は、地域や保護者のボランティアが「図書館応援団」として、本の貸し出しや、図書室の飾りつけ、本の修理や整理などのお手伝いをしています。登録されたボランティアの人たちと子どもたちが笑顔で接しているのもとてもほほえましい光景です。



本の世界へのいざない

P T Aのサークル「本とお話のクラブ」は、本と子どもを結ぶ活動として、毎週1回、昼休みに「読み聞かせ」を行っています。子どもたちにとって、とても心安らぐ楽しい時間となっているようです。

その他に、学年ごとのお話会や、クリスマスのお話会などを行っています。影絵、紙芝居、素話、寸劇などの手法を用いながら「カツラザカのタカラヅ

カ」を自称するお母さんたちが大活躍してくれています。

この他に家庭教育学級として毎年4年生を対象に学校が行っている「ブックトーク」では、地域から講師を招き、たくさんの本の紹介をしてもらっています。

学級文庫や図書室の本棚は今後さらに充実され、子どもたちの心を躍らせ、未知の世界にいざなってくれることでしょう。

コンピュータは各教室1台の時代

桂坂学区10周年に際し、自治連合会から寄贈されたコンピュータは、当時、初期のコンピュータ教育に大きく貢献しました。その後、各教室にパソコンが1台ずつ置かれ、一層充実した情報教育が行われています。

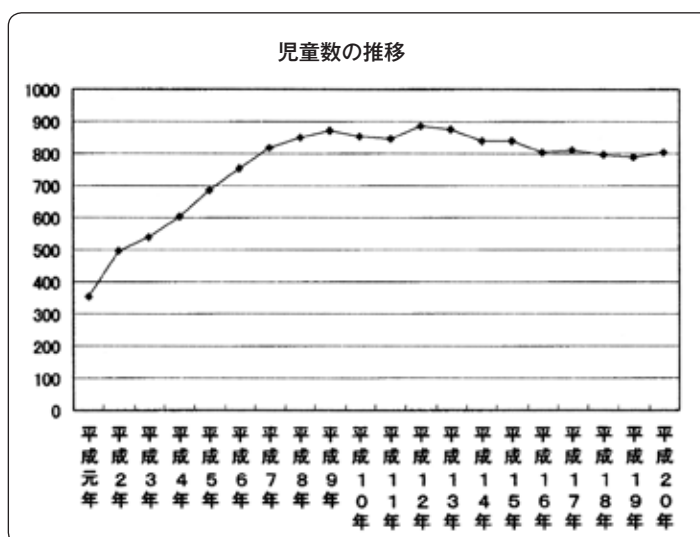
校内LANが活用され、児童会や委員会活動などでも取り入れられるようになりました。たとえばその日の給食にまつわるクイズなどを栄養士の先生から出してもらい、各教室のパソコンから解答を送信し集計するようなこともできます。低学年ではお絵かきソフトなどでコンピュータに慣れ親しむことから始まり、中・高学年になるとローマ字入力を覚え、ワードはもちろん、パワーポイントを使った発表や、ホームページの制作なども学びます。

また、この情報社会を生きる子どもたちにとって情報モラルの学習も大切な課題として取り組まれています。

20年間の推移 児童数・学級数

（各年度の数字は、各年5月1日調べ）

年 度	児童数	学級数
平成元年	354	12
平成2年	495	15
平成3年	541	18
平成4年	602	18
平成5年	687	21
平成6年	754	21
平成7年	818	24
平成8年	850	25
平成9年	872	25
平成10年	853	26
平成11年	848	25
平成12年	885	26
平成13年	875	25
平成14年	838	25
平成15年	838	25
平成16年	804	24
平成17年	812	24
平成18年	795	24
平成19年	790	25
平成20年	805	26



開かれた学校を目指して



平素は、本校教育推進に深いご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。桂坂小学校に赴任してまだまだ日の浅い私ですが、今強く感じることは、いかに地域・保護者の皆様に学校教育を支えていただいているかということです。

地域としては各種諸団体が自治連合会のもとにしっかりと組織され、子どもが安心できる、安全な街づくりなど、数多くの取組が進められている他、カザラッカコンサート・お話し会・コーラス・書道・絵画などPTAや地域における活動を通じて、文化・芸術環境の充実が図られています。まさに家庭・地域が一つになった学区であると思います。

そんな中、学校としましては「地域に開かれた信頼される学校づくり」を地域社会と協働して進めなければならないと思っています。

一つは今、学校ではどのようなことをしているのか。どんな教育方針で、どのような子どもを育てようとしているのか、そのために、学校はどのような取組をしているのか、などを保護者の方のみならず、地域の皆様にも伝えていこうと思っています。

また、各種の専門性を有する地域の人材やOBの登用とそれらを活用した教育活動を進めつつ、地域・保護者の方と連携を深め、ともに児童を見守り育てていきたいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

桂坂小学校校長 山本 泉

地域の方を招いて「感謝の集い」

小学校では毎年、お世話になった地域の方たちを招いて「感謝の集い」を行っています。自治連合会・桂坂少年補導委員会・社会福祉協議会・桂坂消防分団・山の手倶楽部・更正保護司会・地域女性会・クラブ活動コーチ・PTA…ボランティアとして様々な形で子どもたちを見守り育ててくださる方たちに、感謝の気持ちを伝える集いが行われています。それぞれの代表の方たちに子どもたちから感謝の気持ちを込めて絵や手紙が渡される和やかな集いです。



海外・国内の文化を学ぶ

2005（平成17）年度から京都市の全小・中学校に外国語指導助手（ALT）が配置され、英語の授業時間が設けられるようになりました。学年により多少の違いはありますが、外国人の先生から英語のゲームや会話・歌などを楽しく教えていただき、語学の学習と外国の文化に触れる機会となっています。

また、毎年家庭教育学級として、高学年と保護者を対象に朝鮮半島の文化と歴史を学んでいます。

さらに、1996（平成8）年より毎年、桂坂にある国の学術研究機関「国際日本文化研究センター」から、先生を招き、小学校5・6年生がクラスごとに授業を受けています。

2008（平成20）年には6年生を対象に桂坂在住の日本画家・中路融人氏の授業がありました。大きな作品を目の前に並べて、画家ご本人からお話を伺うという贅沢な講義でした。

子どもたちは日頃の生活や授業とはまったく異なる専門的な世界を垣間見ることができ、その後の成長の中で「生きてはたらく力」を養う貴重な体験となっています。

「世界を翔けよう桂坂」と校歌に歌われているとおり、子どもたちは夢や理想に向かって羽ばたくばかりです。

輝け・子どもたち

先生や保護者、地域の大人たちに支えられて行われているこれらの行事は、毎年繰り返し行われる出来事のように見えますが、一人一人の子どもにとって、「ふるさと」桂坂で過ごした記憶として、深く胸に刻まれていることでしょう。

4月

- 始業式
- 入学式
- 1年生を迎える会



「1年生を迎える会」では、6年生と手をつなぎ入場した1年生に、各学年から温かい言葉や歌のプレゼントが贈られます。はじめはドキドキしていた1年生もこれからの学校生活が楽しみになります。



春の遠足は、新林公園 大蛇ヶ池公園 洛西散策の森 唐櫃越えから嵐山…など、周辺の自然を満喫します。

5月

- 春の遠足
- 6年生修学旅行
- 記録会
- 家庭訪問



6年生は広島への修学旅行で、戦争の愚かさと、平和の尊さを学びます。毎年、児童集会で、下級生たちに学んできたことを報告します。

6月

- 休日参観
- 5年生みさきの家
野外学習



5年生は三重県大王崎のみさきの家で野外学習をします。磯観察や、肝だめし、飯盒炊飯、岬の灯台にも登り潮風を満喫します。



宿泊学習に出発する子どもたちを、先生方は、お手製の垂れ幕をもって、見送ってくださいます。

7月

- 自由参観
- 夏季水泳学習
- P T A フェスティバル



水泳の授業では、泳法の習得だけでなく、みんなで大波を作ったり、いかだに乗ったり、リレーをしたり楽しみがいっぱいあります。

8月

- 夏休みプール開放
- ワイワイ広場

9月

- 朝の声かけ運動
- 避難訓練
- 学習発表会



毎年秋から冬にかけて、学年ごとに学習発表会が行われます。いわゆる「学芸会」ですが、演劇や群読、歌、合奏などを交えて発表されます。

10月

- カザラッカコンサート
- 運動会
- 演劇鑑賞



低学年のかわいいダンス、手に汗握る5年生の騎馬戦、涙なしでは見られない6年生の組体操など、運動会は感動の連続です。

11月

- 科学センター学習
- 持久走大会
- 4年生花背山の家
宿泊



4年生は、沖縄のエイサー、花傘音頭、ソーラン節などの民謡を力強く踊ります。

地域の区民運動会でも披露することがあります。

12月

- 西京学童駅伝
- 6年生京都探訪



花背山の家から見た美しい紅葉、楽しいアスレチック、キャンプファイヤーの炎…印象的な場面との出会いがたくさんあります。

1月

- 朝の声かけ運動
- 5年生音楽鑑賞教室

2月

- 校内作品展
- 大文字駅伝
- 5年生スチューデント
シティ学習



スチューデントシティ学習とは、施設の中に再現された街で、消費者役と企業に勤める会社員役、それぞれの立場を体験する学習です。

3月

- 卒業式
- 終了式
- 6年生卒業遠足



卒業していく6年生に「大空に空高く羽ばたいてほしい……」そんな思いを込めて、毎年、卒業式の日にかいのぼりが立てられます。

開催月は2008年度です。
写真は過去10年間のものです。

みなさんに支えられて

地域と結ぶ様々な授業



子どもの記憶に残る20周年

平成17年度より4年間、校長を務めました。4年目の20年度には桂坂学区の20周年、同時に桂坂小学校の創立20周年という節目の時を過ごさせていただきました。地域として盛大に諸行事を進められ、学校の行事も多くの皆様方にご協力をいただきました。これら全てが子どもたちの記憶に残ること、そして私自身も楽しく過ごせたことをうれしく思っています。PTAの記念行事では、いつもに増して子どもたちの喜ぶ顔を願って、地域とともに連携して進められたことを心強く感じました。

着任当初、児童数で10位以内の大規模校であること、校区の広がりや歴史の新しさからも地域が子どもを育むという点において課題が多いのではないかと懸念していました。しかし、早々に取り越し苦労であることが明らかになりました。PTAや教育後援会というまでもなく、自治連合会の各種団体、地域にある諸施設の皆様が小学校教育に理解を示し、協力してくださっている場面に多く出会いました。また、組織的な取り組み、ねらいに即した実践、新しい企画の提案といったことなど、その意気込みをひしひしと感ずることができました。

子どもが手本とする大人はまず家族でしょう。そして幼稚園や保育所、小学校の先生でしょうか。案外気づかないのが近所のおじさんやおばさんの影響力だと思います。子どもたちの記憶の中に地域の取り組み、思いがたくさん蓄積することを願ってやみません。

桂坂小学校前校長 栗田 博

山の手倶楽部の優しい先生たち

山の手倶楽部の方には学校に来ていただき、「昔の遊び方」「昔の暮らし」「日本の風呂敷文化」など実演を交えたお話をしていただいています。子どもたちは、七輪の炭火で焼いたおもちの美味しさをいつまでも忘れられなくなったり、実際にランドセルの代わりに風呂敷を使って登校したりと、大いなる影響を受けています。お礼の気持ちを届けようと、山の手倶楽部の皆さんに自分たちで育てた朝顔の苗をプレゼントしたり、手紙を書いたりという交流も行われています。

こうして、顔見知りになった「山の手倶楽部の先生方」に、登下校中や公園で出会った時など、嬉しそうに笑いかけ、挨拶できる子どもたちも増えてきました。

地域に出かけて「調べ学習」

授業には地域の中で学ぶ「調べ学習」が取り入れられ、イズミヤの見学、消防分団、自治会館、野鳥遊園、乙訓浄水場などの取材にも出かけています。地域の中にある様々な場所を実際に訪れ、そこで仕事をし、活動する人たちに質問し答えてもらうという体験は、子どもたちが社会に目を向け、地域を愛する気持ちを持つようになる大きな一歩といえます。

低学年では、桂坂の「自然調べ」などにも出かけています。ノートと鉛筆を持って桂坂中に点在する公園めぐりをしている子どもたちの姿を見かけた方も多はずです。これも「調べ学習」の一つで桂坂を探索する子どもたちです。

歌や踊りを地域の方に披露

5年生は、毎年ふれあいの里で行われる「ふれあい祭り」に参加し、合唱や笛の合奏を屋外ステージで発表しています。

また、区民運動会では4年生が、よさこいソーラン節・花傘音頭・エイサーなどの演技を披露しています。地域の子もたちが元気に踊る姿を見るのを毎年楽しみにしている方も多いことでしょう。子どもたちにとっても、保護者以外の地域の方たちに練習の成果を見てもらい、地域とのつながりを実感できる貴重な場となっています。

睦みあう上級生・下級生

ガキ大将を先頭に子どもたちが野山を駆け巡る時代は遠く過ぎ去った感があります。異学年の子どもたちが集まって何かをするという取り組みは、地域や学校で意図的に設定されなければ、互いに睦みあえないのが現状かもしれません。

そういう意味では、小学校に登校する朝の「登校班」は、近所の異学年グループとして大切な親睦の場となっています。PTAの地域委員会では、子どもたちが協力し合って楽しく登校できるようにこの登校班を見守り、支えています。

平成18、19年度PTA会長藤本明弘氏は、ほほえましい朝の風景を次のように紹介されています。

先日の朝、ちょうど子どもたちが登校している時に落雷と激しい雨が降りました。ほとんどの子どもたちがびしょぬれになって学校にやってきたようです。そんな中、バス停の屋根の下で高学年の子どもたちが自分達の傘をテントのように広げて、下級生を守っている姿があったそうです。その光景を想像するだけでもとてもほのぼのとした温かい気持ちになります。私たち親の知らないところで子どもたちは知恵を出し合い、気持ちをつなぎ合わせているのです。なんとも素晴らしいことではありませんか。

【桂坂小PTAだより】第72号より

各自治会でも夏休みのラジオ体操や、統一夏祭り、区民運動会などを、地域で子どもたちを育む場として大切に取り組んできました。近所の子どもたちが集まって睦みあう大切な機会となっています。

校区内オリエンテーリング

児童会の取り組みとしては、1年生から6年生まで、異学年の子どもたちが10人程度のグループに分かれ、問題や遊びをクリアしながら校区内を歩いて



廻る「校区内オリエンテーリング」があります。受け身の子どもが多い中、子どもたちの自主性を育てることを目的に始められました。高学年が下級生をいたわり、下級生も上級生を慕うという信頼関係や、同学年同士の友情も深まっていくようです。笑いあり、時にはけんかもありますが、互いに助け合いながら自ら楽しみ、考える子どもたちに育ててほしいと思います。また、このグループでの取り組みを継続的なものにするため、運動会や縄跳び大会などでも一緒に出場できる機会を設けています。

心のバリアフリーを学ぶ

桂坂小学校では「総合的な学習」の時間として、西総合支援学校との交流を行っています。学年や年度によって取り組みは様々ですが、お互いの学校を案内し、歌や工作などを一緒に楽しんだ年度もありました。6年生が文化祭に出演し交流を深めた年もあります。支援学校の子どもたちは、遊びを通じて、大人や日ごろ接している仲間からは得られないエネルギーを同世代の子どもから、もらっているそうです。

子どもたちが、このような交流で人と人とのふれあいの楽しさを感じ、その気持ちをまた将来の生き方に活かしていってくれたらと思います。

「障害」をテーマに学習をする授業では「バリアフリー施設、盲導犬、点字、手話」などについて学んでいます。また、毎年4年生を対象に、視覚障害者の講師を招いて授業が行われています。松永信也さんの授業は、NHKで取材され、子どもたちが深い感銘を受けている様子が放映されました。

授業を終えて僕が帰ろうとすると、子どもたちは「僕が手引きする」「僕も」と寄ってきて一緒に歩いてくれます。

—この子たちは、これから街で目の不自由な人に会ったら、きっと率先して声をかけたり、手引きをしてくれたりするやろう。そういう人口を少しばかり増やすことができたかな—
そんな気持ちになります。

松永信也『見えない世界で生きること』（角川学芸出版）

障害のあるなしに関わらず、誰もが共に同じ地域で寄り添い、助け合いながら暮らせる、よりよい社会を実現するために、心のバリアフリーを学んだ子どもたちは、自分に何ができるか、問い続けることを忘れないことでしょう。

優しさに包まれて

PTAから広がる人々の輪

地域が子どもを育む

住民の生活の場である地域は、子ども、障害者、高齢者などが学び、憩う場であり、人びとが働く場でもあります。地域とはそれゆえ、自然環境を背景に、人びとが暮らし、学び、社交、労働のそれぞれの場面で豊かさを求めて共振し、関係の網の目を紡ぎ出してゆく所ではないかと私は考えています。

この命題を前提に「地域が子どもを育む」内実を解明しようとすれば、答えはシンプルです。それは関係の網の目の中で人びとが、よりよい暮らし、学び、社交、労働の中身を希求し、実現することが大切だという点です。たとえば、母子家庭の子どもの学びが疎かにされている、高齢者が病院に行けない、応益負担に苦しんでいる障害者の状況が放置されている、端的に言えば自己責任、自助の名の下で貧窮を余儀なくされている人びとに無関心である「地域」は、豊かな地域とはいえません。それとは反対に教職員の教育研究の自由と共同が保証され、父母や地域住民との連携も重視されている学校では、子ども同士の豊かな学び合いを軸にした優れた教育実践が生まれているにちがひありません。

それぞれの力と個性が最適な方法で結びつく。地域を織りなしているすべての人びとが主人公たるに相応しい実質を共同の力で実感できる、そんな桂坂であり続けて欲しいと願っています。

平成15、16、17年度PTA会長 有賀郁敏



PTAフェスティバル

PTAフェスティバルは、PTA会員の相互交流を図るという目的の他に、PTAクラブ活動の普及

の場となること、学習することにより活動の中身を豊かにすること、地域諸団体との連携の環を強化することなどを目的に、2005（平成17）年に始まりました。当初は大人中心のフェスティバルでしたが、年々子どもたちも参加できる行事となり、今ではゲームあり、ダンスあり、花火ありのお祭り色の強いイベントになっています。

2008（平成20）年には、桂坂小PTA各委員会が中心となってリサイクル工作やお買い物ゲームコーナーをつくり、大枝中吹奏楽部の演奏、大枝中PTA、西総合支援学校の展示を始め、ひなたぼっこ、少年補導委員会、社会福祉協議会、地域女性会の諸団体が参加して、子どもたちとのふれあいを中心に開催されました。

子どもたちがたくさんの方々に見守られているということは、本当に喜ばしいことです。今後ともこのPTAフェスティバルがPTAだけでなく地域の方々にも一緒に楽しんでいただけるように企画、運営していけたらと思います。

桂坂・音楽の集い カザラッカコンサート

2008（平成20）年にカザラッカコンサートは、第16回を迎えました。企画運営をPTA本部が行い、各委員会はスタッフとして会場設営や、案内・受付などはもちろん、舞台転換や照明音響の操作、控え室での出演者の接待などの役割を担っています。この大きな行事を成功させるために、PTA会員の総力が結集されているといえます。京都市立音楽高校のオーケストラをバックに合唱する子どもたちの歌声が響くこのコンサートは、ふるさとのあたたかい記憶として子どもたちの心に残るに違ひありません。

地域の方に月々ご協力いただいている古紙回収の収益金は、このコンサートを支える大きな源ともなっています。開催日時はポスター等で毎年お知らせしますので、地域の方もぜひご鑑賞ください。

子育て・教育フォーラム

「子育て・教育フォーラム」は、PTA主催で、年2回催されているものです。講演、対談、パネルディスカッションなどスタイルにこだわらず、その時のテーマにふさわしい形で行われます。時には、いくつかの分科会に分かれて先生とテーブルを囲んで歓談することもあります。

親にとっては、担任の先生以外のお話をじっくり

聞ける貴重な機会であり、先生にとっては、学校の取り組みを詳しく発信できる場となっています。

また、親同士の本音の対談などでは、得るものが多く、自分の子育てを振り返る機会になっています。

ふれあい遊びとおぜんざいの会

めんこ、コマ回し、けん玉、お手玉、おはじき、だるま落とし、折り紙、百人一首、囲碁・将棋…

山の手倶楽部の皆さんは子どもたちと遊ぶのが本当に上手です。「私はおてんばだったの」「ガキ大将やったんやで」などといいながら、童心に返って子どもたちと遊んでくださいます。遊ぶといえば電子ゲームに依存しがちな今の子どもたちにとっては、手先を使い、相手の出方に注目し、声を掛け合い、力加減や工夫の必要な昔の遊びは新鮮そのものです。

P T Aと山の手倶楽部で始めたこの企画に、今では地域女性会が加わり、子どもたちは羽子板やお茶席体験、新聞紙野球などで一緒に遊んでいます。遊び終わった後は、温かいおぜんざいを皆で食べて、心もおなかもほっかほかのひと時を過ごしています。また、19年度からは、子どもたちが「ふれあい遊び」で地域の方たちと交流している間に、保護者は「子育て・教育フォーラム」に参加できるように、同日開催となっています。まさに、地域とP T Aと学校が協同して開催する行事です。



もっともっと顔見知りをつくろう

子どもをつつむ諸団体



心のつながりは気持ちのいい挨拶から

——朝の声かけ運動

小学校の登校時間。正門付近に「おはようございます」と学校の先生方の声とは違う挨拶が響き渡ります。山の手倶楽部や女性会の皆様の元気な挨拶に驚き、そして少しはにかみながら挨拶を返す子どもたち。

これは、小学校のP T A行事の一つとして定着した「朝の声かけ運動」のひとコマです。

「朝の声かけ運動」は夏休みや冬休みが終了した、学校が始まる最初の1週間に行われます。山の手倶楽部や女性会等の地域の皆様の協力のもとで開く行事は「カザラッカコンサート」や「ふれあい遊び」など幾つかあり、その一つひとつは子どもたちが地域の大人の方とふれあい学ぶことのできる大切な機会となっています。

この「朝の声かけ運動」は20分ほどで終わってしまうものですが、とても意義のある運動となっています。

気持ちのいい挨拶をしてもらった子どもたちはその日いちにちを素敵な気持ちで過ごすことができ、挨拶することのすがすがしさを感じてくれているはずです。また、気持ちのいい挨拶はすべてのコミュニケーションの最初の一歩であり、その輪を広げることが人の和、地域の和を広げることにもつながっていくことでしょう。

桂坂のいろいろな場で子どもたちと地域の皆様との気持ちのいい挨拶が聞けるように、さらに続けていきたい行事の一つです。

平成20、21年度P T A会長 窪田知史

年代を超えた母達の集い

地域女性会では、「桂坂の子どもたちをもっと知りたい」「地域の大人はどのような関わりを求められているのか」「最近の子育ての様子は？」などの率直な疑問をPTAになげかける懇話会をもちました。この交流をきっかけに、その後「地域で子どもを育もう」という熱意あふれる桂坂の諸団体がさらに交流を深め、お互いの立場を思いやるよい関係を築いてきました。

子どもたちにとって地域に顔見知りの大人が増え、温かい人々のつながりを感じながら育つことを何より願う諸団体の活動が桂坂の歴史に刻まれつつあります。

絵手紙講習会

「下手でいい、下手でいい」を合言葉に絵手紙ブームが静かに続いています。地域女性会では子どもたちにも、絵手紙の楽しさを体験させてあげようと、親子で参加できる講習会を行いました。季節の野菜や果物、草花をテーブルに置き、みんなで触ったり、匂いをかいだりしながら自由に筆を運びます。子どもの新鮮な発想に驚かされながら、笑い声の絶えない講習会になりました。

パソコンの先生は子どもたち！？

桂坂小学校のパソコンクラブの子どもたちが地域女性会の人にパソコンを教える機会がありました。

生涯教育の一環ですが、日頃教えてもらうばかりの子どもたちが先生となって、ちょうど暑中見舞いの時期ということもあり「暑中見舞いのはがき」と実用的な「名刺」を作りました。子どもたちの丁寧な説明を聞きながら、暑いのも忘れて一生懸命パソコンの操作を覚えようとする大人のほほえましい姿がそこにありました。子どもたちにとって、とてもいい経験になりました。

子どもボランティア体験隊

社会福祉協議会では、小学生を募り様々なボランティアに挑戦する「子どもボランティア体験隊」という取り組みを行っています。

「ふれあい祭り」のお手伝いでは、景品係を経験させてもらい、障害のある子どもたちとの交流を目的としたボーリング大会、バーベキュー大会などで

は、ごく自然に遊びに行く感覚で参加しています。また、桂坂社会福祉協議会主催の敬老会では、お弁当を運ぶような簡単なお手伝いですが、自分たちにできることを探して誰かの役に立つ喜びを感じているようです。子どもの頃から、様々な人たちとの出会いを経験できるよい機会となっています。

子どものための様々な催し

アンテナをしっかりと張り巡らしておけば、自治会の回覧板などから、子どもの参加できる催しがいろいろあることに気づきます。

桂坂少年補導委員会の「わんぱく塾」では、地域の方が、キャンプやもの作り、クッキングなどの様々な催しを企画して下さり、毎回多数の参加があります。

柄本憲秀少年補導委員会桂坂支部支部長は、子どもたちとの活動について、次のように述べられています。

合言葉は「わんぱくでもいい、心の優しい子どもに育って欲しい」

少年補導は、年間の様々な活動を通し、子どもたちに互いに助け合い競い合う友情、様々な好奇心、楽しい体験、やり遂げた達成感、自然の中の仲間との集団生活の自立・共存・助け合い・整理整頓・創意工夫など学んでもらうことを主眼として活動しています。そして私たち少年補導委員はこれらの行事で常に、子どもたちから、彼ら以上に多くのものを貰い学んでいます。

20周年の節目に、更に大きい愛情と厳しさで、子どもたちの健全育成のため全力で活動を行ってまいりたいと思っています。今後とも、桂坂の皆さんのご支援ご協力をお願いします。

「桂坂の子ども達と共に」より

他にも京大桂キャンパスの「科学実験教室」、野鳥遊園の「ものづくり体験」、授産園の「夏休み親子陶芸教室」など、この地域ならではの企画もあります。児童館主催の映画会や、駄菓子屋さんなど、子ども向けの催しも年間にいくつもあります。こうした情報を積極的に集めて、できるだけ多くの経験を積むことを勧めたいですし、子どもにとって、関わってくれる顔見知りの大人がたくさんいる地域となることを願ってやみません。



明日に^{はば}翔たく大枝中学校

地域にささえられて

大枝中学校の生徒たちはよく挨拶をしてくれます。学習に意欲的に取り組んでいるし、行事にも積極的に取り組んで盛り上がりを見せてくれます。部活動も頑張っています。さまざまな課題もちろんありますが、全般的にいい状態で学校生活を送っています。

「確かな学力 心身の豊かさ 創造する力」の育成を学校教育目標に掲げ、その実現に向けて日々努力を重ねています。

今年は創立から21年目となります。これまで諸先輩方が蓄積してこられた本校の教育を基盤にしながら、知徳体のバランスの取れた生徒を育成するために、さらにグレードアップした学校に成長させていきたいと考えています。

大枝中学校校長 橋本秀明



大枝中学校は1989（平成元）年4月、大枝小学校区と桂坂小学校区の2学区を併せた中学校として開校しました。桂坂小学校の北に位置し野鳥遊園と隣接した静かな自然の中にあります。

地域の中の中学校として今年度は533名の生徒でスタートしました。良い伝統を受け継ぎ、新しい試みに挑戦しながら地域に支えられ、落ち着いた環境の中で生徒たちは通学しています。



生き方探究・チャレンジ体験

「生きる力」を育むために、集団や社会の一員としての自己の在り方を見つめ、自らの生き方を考える目的で職場体験や勤労体験をする、いわゆる「キャリア教育」を2年生対象に5日間実施しています。

20年度に協力を得た桂坂地域の事業所は、桂坂保育所・東桂坂保育所・桂坂児童館・ふれあいの里授産園・デイリーカナートイズミヤ・十兵衛・レストラン赤おに・美容室 HAIR'S 桂坂店の8施設で職場体験しました。事業所の方々にあたたかく迎えられ、子どもたちは、学校や家庭では日頃できない体験や人々とのふれあいに期待で胸を膨らませ、また、働く人たちの姿と直に接することができて、ちょっぴりおとなになって帰ってきます。



形成の糧ともなる書物が毎年「桂坂教育後援会」から寄贈されています。

地域の施設での体験学習

1年生も、クラス単位で体験学習をします。桂坂保育所・東桂坂保育園・沓掛寮・ひまわりの里・シオンの里に分かれてグループを組み活動しながら、相手に喜んでもらうために色々な工夫を凝らし、力を合わせて取り組むことの意義を学びます。

授業に参加する地域の人たち

近年、子どもたちは少子化・核家族の中で育ち、異年齢の子どもとのふれあいが少なくなりつつあります。そのために学校では、家庭科の授業の中に「保育の時間」が設けられています。

桂坂保育所の子どもたちを学校に迎え、地域のお話のサークルの方にも参加してもらって保育について学ぶ試みが行われています。小さな子を自然に膝の上に抱っこしている生徒もいて微笑ましいひとときです。



本の世界と向き合う

ネットの普及もあって子どもの活字離れが指摘されるようになって久しいですが、この年代の子どもたちが書物を手にしてじっくり本の世界と向き合うことは、自分を客観的に見つめなおす意味でも大切なことです。中学校では「朝の読書」に取り組み、生徒たちが本を手にする時間を作っています。この取り組みは1日の学校生活を始め、授業を受ける前の心の準備体操にもなっています。この貴重な人間

クリーンデーへの参加

桂坂恒例の春と秋の「統一クリーンデー」は、日頃地域の方々に支えられることの多い中学生が積極的に参加できる催しです。子どもたちは家庭にあっては地域の中で生活する一人として参加し、学校では、クリーンデーの日が一番近い平日に、学校の周りを丹念に清掃しています。

開かれた学校をめざすPTA活動

保護者ばかりではなく地域の方にも気軽に中学校に足を運んでいただくために、開かれた学校を目指してPTAの企画で「地域・家庭教育学級」を開催しています。毎年12月には「寄せ植え教室」を開催し、たくさんの地域の方が参加され好評です。また、地域の皆様にも協力していただき、講演会などの催しを企画しています。回覧板などを通じて案内していますが、今後とも、たくさんの地域の方に足を運んでいただけるように工夫していきたいと考えています。また、足を運んでいただいたことをきっかけに、生徒たちの様子も見ていただき、地域の中学校として身近な存在となることを目指しています。



地域と連携を深める3校のPTA

大枝中学校区の小学校2校のPTA、学校、自治連合会、少年補導、児童委員、保護司の皆さんと連携して「児童、生徒の健全育成」を目的に「大枝中学校区地域生徒指導連絡協議会」（地生連）を結成して活動しています。3校の子どもたちの現状を地域の方々に知っていただき、子どもの健全な育成をサポートするもので、年に2回の『地生連だより』を発行しています。また、3校のPTA合同で行う地域のパトロールや親睦会も連携には欠かせません。

働く父母と共に命を育む



みんなあつまれ！かざらっこ

1999（平成11）年4月、公設民営の京都市桂坂保育所・桂坂児童館が開設されました。

京都市は「京都市児童育成計画」の方針に沿って、住民と行政が手を取りあって進める市民参加型の「ワークショップ手法」を活用し、地域における子育ての拠点となる様、保育所と児童館が合築整備されました。その際公募により愛称「かざらっこ」も決定しました。

合築の良さを生かした、思春期を見通した児童育成の拠点となっています。かざらっこの名のごとく西山からの吹き抜ける風を受けつつ、ラッコの親子の様に温かくほのぼのとした親と子の子育て拠点「かざらっこ」として、地域に親しまれる様々な取り組みが行われています。

京都市桂坂保育所

京都市内の大規模住宅用地として人口が急増している西京区の桂坂において、住民の強い要望により京都市が公設としては18年ぶりに新設し、社会福祉法人の京都社会福祉協会が運営している保育所です。産休明けの2ヶ月から就学前の児童が対象で、12時間保育（午前7時10分～午後7時10分）、定員は90名です。

恵まれた自然環境を生かし、春は塚原名産の竹の子掘り、夏は野鳥遊園の裏山登り、秋は大枝の柿狩り、冬は大根掘りに行きます。それらを使ったつるし柿、切干大根作り等、家庭的な雰囲気大切に、共に生き、共に育つをモットーにしています。

通常の保育の他、地域の子育て支援ステーション

として、登録制の「赤ちゃんひろばin桂坂」、はじめてお父さん、お母さんになる人を対象にした「プレママ・プレパパ体験」、2歳児対象の「ペンギンフレンズ」などが実施され、保護者同士のつながりも大切にしています。

地域に還元、地域に開かれたところとして、保育以外に地域の人に利用していただくために、土曜日には園庭を開放しています。

また、思春期教育では家庭科の授業の一環として大枝中学校との交流学习もあります。「子育てを一緒にやっていければいいと思います」と藤村所長のお話です。



京都市桂坂児童館

児童館は、子どもたちに遊びの機会を提供します。0歳から18歳までが利用でき、遊びや教室、行事などを通して友達との触れ合い、助け合う心、工夫する力を育てています。

主な取り組みとして「学童クラブ」があります。両親の共働き家庭、母子・父子家庭、その他の事情で昼間留守になる家庭の児童を保護育成しています。

1年生から3年生の児童が対象で、放課後の子どもたちの生活の場として家庭的な暖かい雰囲気大切に、活動しています。登録制で申し込みが必要ですが、プログラムが組まれていて下校後も、子どもたちが有意義に過ごせるように指導し、保護者が安心して、仕事と子育てを両立できるように支援しています。

児童館では、学童クラブのない午前中の時間帯を使って、様々な取り組みが行われています。乳幼児の子どもをつれて遊びに来ることができる「こりすひろば」（木曜日）「こあらひろば」（金曜日）や、登録した幼児と保護者が、歌や工作、水遊びなどを楽しむ「ラッコクラブ」（火曜日）などの事業を行っています。就園前の親子が遊びに来て、他の親子と交流できる貴重な機会になっています。

この他、クリスマス会、児童館まつりや駄菓子屋

さんのスタッフとして小学校高学年の子どもたちを中心に活動する「高学年の活動」をはじめ、中高生から募集したジュニアリーダーが、ボランティア活動や「中高生と赤ちゃんとの交流事業」の活動をしています。

「中高生と赤ちゃんとの交流事業」は、京都市の指定事業で、講座や赤ちゃんとの交流を通して「命の尊さ・愛おしさ」を感じとり、将来子育てや命を育むための予備体験をしています。

東桂坂保育園

2006（平成18）年4月に開設された桂坂学区東部にできた二つ目の保育施設です。社会福祉法人洛和福祉会を母体とした京都市の認可保育園で、保育の理念には「保育にあたっては、『乳幼児の最善の利益』を柱として子供たちが主体的に生活し遊べる環境を保障」し、「保護者も一緒に人として育ちのプロセスを確認し合い、親にとっても安心できる場となるようにする」（東桂坂保育園理念より抜粋）ことをかかげています。



開園時間は午前7時～午後7時まで、定員は100名、0歳～5歳就学前の幼児を対象に通常保育のほか、一時預り保育、障害児保育もおこなっています。建物は木のぬくもりや光を取り入れた明るく安らぎを感じるつくりで、保育はいろんな公園にでかけ、桂坂の自然を満喫しながら、戸外での遊びを十分に楽しんでいます。

園内でさくらんぼ・うめ・もも・りんご・グミ・金柑などの果樹や野菜を植え、世話をしながら身近で大きくなっていく植物（食べ物）の様子を観察し、とれた実は単に食べるだけでなく「梅干」「梅ジュース」「梅ふりかけ」に加工するなどクッキング活動を通して食べ物の大切さを学ぶ、「食育」にも力を注いでいます。

地域との交流として、大枝中学の「総合学習」や「チャレンジ体験」があります。将来のお父さん、お母さんになったつもりで接する中学生を園児たちは、大きなお兄さん、お姉さんと呼んでふれあいを楽しんでいます。



子育て支援・桂坂子育て応援サロン

乳幼児期から就学前の子どもたちを育てている親子を対象に「子育て支援・応援サロン」が2009（平成21）年5月より始められました。発達に少し心配がある、障害があるなど、心に抱く親子の不安を少しでも和らげることができる場が必要ではないかと、民生児童委員を中心とした各種団体が、出会いの場を提供し、時には子育ての先輩として、時には専門家による相談などで、子育てのお手伝いを行っています。

桂坂児童館で、毎月第3月曜日の午前10時30分から11時30分の間、開催しています。ひとりで悩まず、みんなで楽しく子育てができるような地域を目指しての事業です。





桂坂公園 夏雲 山の手倶楽部 堀口 學氏

心身ともに健やかに

心身ともに健やかに

桂坂では街並みの整備だけではなく、地域に住む人たちが内面を豊かにし、健康で生きがいのある生活を送れることを願って、各団体が様々な活動を行っています。これらの活動を通じて地域住民間のコミュニケーションをはかり、心豊かに生き生きと暮らせる街づくりをしているわけですが、ここでは主な団体として、体育振興会、山の手倶楽部、保健協議会、献血会、地域のサークルやクラブをご紹介します。

スポーツの振興

体育振興会

市民スポーツ振興の基本理念は、

だれもが、いつでも、どこでも、いろんなかたちでスポーツに親しめる環境を、みんなで支えあう「スポーツごころ」を結ぶまちづくり

です。これは例えば

〈だれもが〉

子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、また家事や仕事の関係でまとまった時間がとれない人も。

〈いつでも〉

思い立った時に、予定外の時間ができた時でも。

〈どこでも〉

いろんな施設で、身近な場所で。

〈いろんなかたちで〉

地域で、家族で、仲間と、1人でも。

〈みんなで支えあう〉

スポーツをしたり、指導者・世話役などとして、市民も企業も行政も。

(「京都市民スポーツ振興計画」より引用)

という考えです。

この理念に基づき、京都市体育振興会は京都市内の学区ごとに組織されており、桂坂体育振興会は1991(平成3)年4月に発足しました。初代会長・永江望昭氏の後は布本和久氏が1999(平成11)年から会長を引継ぎ、現在は20名の常任委員と各自治会からの14名の運営委員、そして各自治会の体育委員によって運営されています。

区民体育祭や各種のスポーツ行事は、健康面と、

住民同士のコミュニケーションを図るという大きな役割を担っています。

学区民体育祭



1991(平成3)年10月6日、桂坂学区民体育祭実行委員会主催で第1回学区民体育祭が開催されました。当時はかえで・さつき・しらかば・あかしあ・ほぶら・ひいらぎ・つばきの7自治会が参加。その後、体育振興会主催で毎年開催され、2008(平成20)年の桂坂学区創立20周年を記念する第18回学区民体育祭には、参加自治会数が14に増えました。2008年春に発足したばかりで初参加のもくれん自治会は若いパワーで大活躍、注目を浴びました。

当初は体育振興会の役員・委員さんが集める協賛金で体育祭運営のすべてをまかかっていましたが、2002(平成14)年度からは1世帯200円の負担金と協賛金で運営されるようになりました。

多彩な競技種目

高齢者の多い自治会、若い人の多い自治会と、近年は参加者の年齢層も幅広くなりました。運動の苦手な方や年配の方にも楽しんで参加していただけるよう競技種目にも工夫がなされてきました。例えば、どなたでも楽しめる輪投げリレーやグラウンド・ゴルフ、「おとぎ話競争」などが加わり、見ているほうも笑顔、笑い声が弾けます。自治会対抗リレーや小学生リレーともなると応援にも熱が入り、各テントから大きな歓声が沸きあがります。

平成20年の体育祭では、それまでの「大縄跳び」が「大玉ころがし」という新種目に代わりました。因みに「大玉ころがし」で優勝したしらかば自治会は『京都・ギネスに挑戦!』に登録。京都府で2位に認定されました。



体育振興会のサークルや地域女性会・社会福祉協議会など地域の諸団体がみたらしだんご、コーヒー、ジュース、お菓子などの屋台を出していただきます。

大人も子どもも楽しみにしていて、毎年にごわっています。



体育祭は貴重なコミュニケーションの場

子どもたちからお年寄りまで、また、ご近所の人たちが同じ自治会のテントの下で一つになって熱く応援をしたり、和気あいあい、お弁当をいただいたり、親睦を深める場となっています。昼休みには、桂坂小学校児童の集団演技も披露され、子どもたちの日頃の成果を地域の皆様に見ていただいています。

学区民体育祭は、地域における交流の場としての役割が今後ますます大きくなっていくのではないのでしょうか。



学区民体育祭	1位	2位	3位
第3回 1993年	しらかば	あかしあ	かえで
第4回 1994年	つばき	しらかば	はなみずき
第5回 1995年	しらかば	ほぶら	はなみずき
第6回 1996年	しらかば	あかしあ	かえで
第7回 1997年	しらかば	あかしあ	つばき
第8回 1998年	しらかば	さつき	はなみずき
第9回 1999年	しらかば	はなみずき	ほぶら
第10回 2000年	さくら	くすのき	はなみずき
第11回 2001年	くすのき	あかしあ・しらかば	
第12回 2002年	しらかば	にれのき	くすのき
第13回 2003年	もみのき	しらかば	くすのき
第14回 2004年	もみのき	はなみずき	くすのき
第15回 2005年	もみのき	にれのき	はなみずき
第16回 2006年	しらかば	けやき	さつき
第17回 2007年	もみのき	くすのき	さつき
第18回 2008年	しらかば	もみのき	はなみずき

区民体育祭順位

20周年記念体育祭の前夜祭

前夜祭、翌日の体育祭ともお天気に恵まれ、桂坂の人たちは20周年を祝い、楽しみました。

その前夜祭は、2008年10月11日の土曜日、午後5時から8時30分ごろまで小学校のグラウンドで行われました。

南門からグラウンドまでは、ちょうちん、竹灯籠が出迎えてくれ、歩くうちに気持ちもたかぶってきます。集いの広場では、たこ焼き、焼きそば、お好み焼きなどの夜店が長蛇の列ができるほどの賑わいぶりです。子どもたちはお祭り気分を楽しみました。また、体育館では、桂坂の皆さんに広く呼びかけて集められた600点もの品物を前にフリーマーケット。ここでは大人たちが盛り上がりました。この収益金の102,150円は、京都新聞社の『善意の小箱』に寄付し、児童福祉に使われました。

薄暗かったあたりがすっかり闇につつまれる頃、グラウンドに設営された舞台にはライトがあたり、夜のプロムナードが開演です。オープニングは京都明德高校吹奏楽部のマーチングバンド、黒の制服姿の騎兵隊が旗をふり、威風堂々のパレードで幕が開きました。続いて迫力のある奥村兄弟のデュオ、少し寒くなってきた頃にはジャズの調べ。そして地元桂坂のプロ・咲田いづみさんが歌うしっとりとしたシャンソンに酔いしれ、福田雄二とシックスアンダーのアメリカンポップスで軽やかに締めくくられました。

多彩なプログラムが奏でられ、秋の夜長を音楽に酔いしれ、ゆったりと過ごすことができました。そんな中にも夜店のほうはいつまでも賑わい、客足が途切れることはありませんでした。



桂坂のスポーツ行事



現在桂坂では、体育振興会の主催する年間のスポーツ行事として、年度初めの男子ソフトボールを皮切りにグラウンド・ゴルフ、バレーボール、ペタンク、女子ソフトボール、ボウリング、ソフトバレーボール、ファミリーバドミントン、卓球の9種目が順次開催されています。

これらはいずれも、京都市の事業と連動しているものです。「体振」の指導委員の人たちは年3回のスポーツ講習会に参加し、お年寄りから若者まで誰もが楽しめるニュースポーツなどを習得して来て、桂坂としてはどれを取り入れるか吟味します。根強い人気のある昔からの種目は残して、できるだけ広い年齢層の人たちに楽しんで参加していただけるよう工夫を凝らします。9種目というのはそうした配慮の結果で、西京区内でも平均的で決して多いわけではないそうです。

しかし、種目が多いと参加者集めや当日の世話係など各自治会の体育委員の方にとっては、大変な仕事です。

高齢化が進んでいて参加者集めに苦勞の多い自治会や、逆に若い方が多くて希望者に希望通り参加していただけない自治会など、悩みはその地域によって色々ですが、体育委員の方のご苦勞は、自治会の体育委員経験者である本部役員の人たちも重々理解されています。

でも、競技大会の後で参加者が「初めてだったけど、結構楽しかった」と笑顔で話している姿、また、年に1回、特定の種目にだけ参加している方を見ると、その人たちの楽しみ、心身の活性化に寄与するスポーツ競技はやはりいつまでも維持していかねばならないとの思いから、本部役員の人たちも長年ボランティアで頑張っておられます。1年間の任期を終えられた体育委員さんに、年度末の反省会で話を聞くと、「大変だったが、楽しかったし、住民の皆さんとコミュニケーションが図れて良かった」という感想をたくさんいただくとのことでした。

大原野50年、桂東40年と歴史のある地域に比べると、桂坂「体振」はたかだか20年、西京区内では一番若い学区ですが、西京スポーツ大会での実績はトップレベル、活気があります。学区内では住人の親睦、学区外では対抗競技での実力発揮、この両面で着実に発展して行くことを祈ります。



「体振」のクラブ・同好会活動

体育振興会に所属するクラブ・同好会は2009（平成21）年現在7つあります。平日の夜、または土日に主に桂坂小学校にて活動し、スポーツを楽しんでいます。

「卓球部」「バドミントン部」は初心者も経験者も楽しく練習。家族そろって参加される方も増えています。本格的にスポーツを楽しめる「女子バレーボール部」「女子ソフトボール部」もあります。「女子ソフトボール部」は月2回の練習ですが、2008（平成20）年度の西京大会で念願の初優勝を果たしました。「ボウリング愛好会」も月2回エミナースにて和気あいあいと楽しんでいます。



1999年 9月	女子ソフトボール	西京大会 準優勝
2000年 2月	卓球	西京大会 準優勝
2000年10月	女子ソフトボール	西京大会 準優勝
2002年 9月	女子ソフトボール	西京大会 準優勝
2005年11月	市民スポーツフェスティバル	小学生400M リレー 準優勝
2006年 5月	男子ソフトボール	西京大会 壮年の部 優勝
2006年 5月	ボウリング	西京大会個人 優勝
2006年 7月	グラウンド・ゴルフ	洛西7地域スポーツの集い 準優勝
2006年11月	市民スポーツフェスティバル	小学生400M リレー 優勝
2007年 2月	卓球	西京大会 優勝
2007年 5月	男子ソフトボール	西京大会 壮年の部 優勝 一般の部 優勝
2007年11月	市民スポーツフェスティバル	混合800M リレー 優勝
2007年11月	市民スポーツフェスティバル	ソフトバレーボール 優秀賞
2007年11月	ボウリング	西京大会 個人優勝
2008年 2月	卓球	西京大会 優勝
2008年 9月	女子ソフトボール	西京大会 優勝
2008年11月	市民スポーツフェスティバル	混合800M リレー 準優勝
2008年11月	ボウリング	西京大会 総合優勝 個人優勝
2009年 5月	男子ソフトボール	西京大会 壮年の部 優勝 一般の部 準優勝

対外試合成績



ニュースポーツとは文字通り比較的初心者でも参加しやすい新しいスポーツのことで、桂坂体振には「女子ソフトバレーボール部」「ペタンク同好会」があります。例えば「ソフトバレーボール」で使用するボールは通常のバレーボールよりも大きく、弾力があり、突き指をしにくくなっています。「ペタンク」はフランスで生まれ、いまや世界中に広がっているグラウンド（土）の上でおこなう氷上のカーリングに似たスポーツです。

元気な山の手倶楽部の人たち

桂坂山の手倶楽部は桂坂全体の老人倶楽部の名称。2009（平成21）年現在、創立して18年になり、概ね60歳以上の会員約240名が、趣味、スポーツ、教養講座等、16の同好会で、自分の趣味に合った会に入会して、仲間作りの場、生甲斐の場として元気に楽しんでおられます。

山の手倶楽部では地域へ貢献するための「全体活動」と、自分の趣味に合ったサークルに参加して教養を高め、健康を維持し、仲間づくりなどで、楽しい老後を過ごす「同好会」の二つの側面があります。

全体活動

全体活動では桂坂小学校を訪問し、昔の遊びやお話しなどとおして子どもたちと交流する「ふれあい遊び」を行っています。また児童の登下校の見守りや桂坂小学校PTAや地域女性会と一緒に「朝の声かけ」、「見守り隊」の活動があります。いずれも次世代をになう地域の子どもの成長を見守り、支え、ふれあうことを大切にしています。

子どもたちとのほほえましい交歓風景を内田圭子さんのスケッチで紹介します。

PTA主催の「子育てフォーラム」開催の間、女性会、山の手倶楽部の方々と小学生たちが各教室に分かれ、新聞紙で作ったボールとバットでのバッティング、こま廻し、小倉百人一首、おはじき、ダルマ落とし、あやとりなどを楽しみました。回を重ねるにつれて子どもたちも昔遊びに馴染み、あやとりなどで舌を巻くスピードで操る女の子もいて、私たちに教えてくれる始末でした。



慌ただしい日常から離れ、ゆったりとした時を無邪気な子どもたちと仲良く過ごせたことは、楽しく有意義な一時でした。併せて地域女性会の方々のお世話で「お茶席」も楽しませていただき、昼過ぎに散会となりました。（「山の手倶楽部だより第16号」より）

ほかにも、20周年を機会に社会福祉協議会などと協力して立ち上げた『桂坂ほっとラインの会』（高齢者やお困りの方へのお手伝い）でも積極的に活動し、ご近所の支えにもなっています。

同好会活動の楽しみ

多様な同好会の中で、文化面の成果を発表する作品展は立派な作品が100点ほど出展され毎年秋に開催されます。桂坂20周年記念の作品展は、地域女性会、社会福祉協議会と合同で、盛大に開催されました。それぞれに声をかけ合い、たくさんの見学の人々で賑わい、日頃顔を合わす機会の少ない方々も親睦を深め楽しんでおられました。また、市老連、区老連の作品展にも積極的に出品されています。



健康維持や教養を高めるサークル活動も活発です。「日帰り探訪」「歩こう会」「グラウンド・ゴルフ」「ボウリング」「社交ダンス」「ゴルフ」「ハイキング」「書道」「コーラス」「謡曲」「俳句」「囲碁・将棋」「写真」「カラオケ」「マーじゃん」「絵画」と非常に幅広く、かなりの会員は複数のサークルに参加してより多くの楽しみを享受し仲間との交流も深めています。



グラウンド・ゴルフは、ゴルフをアレンジしたスポーツで、昭和57年生涯スポーツ推進事業の一環として誕生しました。「いつでも、だれでも、どこでも」のスローガンの下に全国に普及し、子どもから高齢者まで幅広く愛されています。

当同好会も人気ブームのなか、月4回定例ゲームを行い大勢の会員が楽しんでいます。年4回の親睦行事や各種の競技大会参加により、二重三重の仲間づくりができます。何よりも自分のペースで参加、プレーができ健康増進・維持、脳トレにも適しております。

いつまでもプレーし続けたい楽しいスポーツ、それがグラウンド・ゴルフの魅力です。

グラウンド・ゴルフ同好会 青山正男



30年後の日本は4人に1人が高齢者になるといわれる中で、西京区でも高齢化が進んできています。桂坂はやっと20年目を迎えた、まだまだ若いニュータウンですが、けっして例外ではありません。それだけに私たちには、10年、20年後、桂坂に住んでよかったと思える「まち」にしていく大きな課題があると考えています。心身とも健やかに、お互いに声をかけ合い、おもしろい、美しく老いて、次の世代にバトンタッチすることが目標です。現在60歳以上の方はもちろんのこと、壮年の方々も今後の「桂坂ライフ」を思うとき、山の手倶楽部は非常に重要なコミュニティの場といえるでしょう。

地域の様々なサークルやクラブ

地域女性会

地域女性会は地域貢献や生涯学習を行っています。さらに、茶道教室（裏千家）、民謡、書道、フラダンス、絵画サークル、手芸同好会、街探訪同好会、ボランティア（療護園でのクッキー作り）などのサークル活動を通じて会員同士の親睦を深めています。



社会福祉協議会

社会福祉協議会に所属するサークルとして、朗読サークル「木もれ日」、お話ボランティアグループ「ひなたぼっこ」、桂坂小学校クローバーランドの花壇のお世話をしている「花の輪の会」があり、地域に根ざしたボランティア活動を行っています。

桂坂小学校PTAのスポーツクラブ

桂坂小学校PTAの保健体育委員会に所属するクラブには、バレーボール部、卓球部、バドミントン部があり、週に一度、放課後や土曜日に活動しています。西京西支部小学校PTA連絡協議会のバレーボール交歓会や卓球親睦試合、バドミントン親睦試合などでは毎年好成績をおさめています。大好きなスポーツで汗を流しながら、保護者同士の友達づくりや健康な身体づくりに励んでいます。

他にも桂坂小学校PTAの教養委員会に所属するクラブとしてはコーラス部や本とお話のクラブがあります。



このように、桂坂には心身の健やかさを求めて多くのサークルやクラブの活動がさかんに行われています。自分自身のためだけでなく、地域のために役立ちたいと積極的に活動されている団体も多く、これからも活躍が期待されます。

公衆衛生の普及と向上を目指して

保健協議会の活動

桂坂保健協議会は「地域内における公衆衛生の向上及び普及徹底をはかり、併せて市の行なう公衆衛生事業の円滑な運営に寄与する」ことを目的として活動しています。

西京保健所ニュースや各種検診のお知らせ、狂犬病予防注射登録受付のお知らせなどの回覧やポスター掲示など、地域住民のために西京保健所に協力されています。また、お盆のお精霊送り（仏前のお供え物）の収集、年末年始のごみ収集やごみの出し方についての案内の配布など、西京まち美化事務所とともに、私たちのくらしに密着した活動をされています。

集団検診と献血会

2008（平成20）年よりそれまでの「市民検診」から「特定健康診査」に変わりました。桂坂小学校で年1回実施される特定健康診査、結核・肺がん検診、大腸がん検診は、在宅の人、自営業の人、後期高齢者医療制度に加入している人たちの健康を守るための大切な検診です。保健協議会の役員さんと各自治会からでてきておられる保健委員さんがお手伝いにあたっています。

桂坂保健協議会は献血会の業務も兼務しています。より多くの方に献血に来ていただけるよう配慮して2005（平成17）年より献血会の実施場所がデイリー

カナート「イズミヤ」の駐車場になりました。献血者数は全般的に漸減傾向にありますが、桂坂ではあまり変わることなくご協力が得られているそうです。



2008（平成20）年10月27日、桂坂保健協議会では、桂坂学区自治連合会20周年記念事業として、桂坂小学校ふれあいルームにおいて「健康づくり出前講座」を開催しました。テーマは「脳いきいき～認知症予防のコツとメタボに負けない身体づくり」で、私たちが健康な生活を送るための興味ある内容の講演会でした。

保健協議会は、今後も地域の人々が健康で、いきいきと暮らすことができるよう活動を行っていかれます。私たち一人ひとりも協力できることを考えて、健やかで美しい桂坂を作っていくことができればと思います。

10年前に比べて桂坂の人口も徐々に増えており、若い世代も育って新しい力になってきています。しかし一方で、従来からの住民の高齢化が進んできているのも否めなく、今後その割合は増えていくことが予想されます。地域として、同年代の交流だけではなく、隣近所といった世代の枠を越えた住民間のつながりを深めることが、心と身体ともに健康で、年齢を重ねても安心して住める、望ましい街につながっていくものと思います。

「健康」が単に身体のみでなく、心の充実がともなうことで初めて満ち足りたものになることを思うと、今後の10年後20年後にも、顔見知りがいちいち、お互いを思い遣る人のいる、あたたかい街に桂坂が成熟していったらいいと思います。





語らい 山の手倶楽部 中谷敏清氏

出会い、ふれあい、助け合い — 福祉

出会い、ふれあい、助け合い

福祉



子どもやお年寄り、障害のある人が安心して暮らすことができる地域は、すべての人にとって住みやすいと感じられる地域です。

「おはよう」のあいさつに始まって、あちこちから話し声が聞こえてくる地域はとても活気があります。

そのような地域をつくろうと、みんなで支え合い、協力しながら地域づくりがはじまって20年になります。これまで積み重ねてきた住民活動に加え、新しいかたちの助け合い活動をすすめながら、住みなれた地域で孤立することなく、自立した生活をしたいと思えます。

主な事業

人の輝く福祉のまちづくり

社会福祉協議会 目的と理念

社会福祉協議会は社会福祉法に規定され、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体です。市・区・学区の3層に組織され、住民主体を原則として、誰もが地域の中で安心して暮らすことのできる、人が輝く福祉のまちづくりを推進することを理念として活動しています。

桂坂社会福祉協議会

桂坂社会福祉協議会は「学区社協」として、1991（平成3）年に発足し、社会福祉の実現を目指し、住民主体の地域福祉活動をすすめ、福祉社会の実現を目指し、地域における福祉サービスを展開しています。住みなれたまちで安心して暮らすことができるように、ボランティア活動も積極的に行っています。高齢者や障害のある方が地域でより住みやすくなるように、福祉サービスの利用相談や日常生活での相談、福祉施設とのネットワーク活動を行っているほか、「花の輪の会」や「朗読サークル」などのサークル活動も活発です。

介護予防・健康づくりの一環として、桂坂在住の高齢者世帯の方や地域の行事などに身体的理由で参加困難な方々を対象にした「すこやかサロン」を月2回開催しています。友達づくりをしながら楽しいひと時をすごしていただくという工夫をする一方、多くの方に参加してもらうために、年に数回発行の学区の広報誌『桂坂福祉だより』に様子などを掲載して呼びかけています。地域に住む障害のある子どもたちとの交流、保護者の情報交換も兼ねた「親子のふれあい」をはかるバスツアーにも年1回出かけています。



また、寝たきりの方や、高齢者で一人暮らし、高齢者世帯の方々の毎日使っているふとん類を丸洗いして乾燥し、その日の内にお届けする「ふとんクリーニングサービス」を、費用は無料で行っています。秋には、70歳以上を対象とした「高齢者会食

会」、ボランティア講習会や介護教室なども実施しています。

桂坂に住む人が生きがいのある、明るい日常生活をおくることができるよう、地域の福祉ニーズに基づいた、地域における地道な福祉活動に「桂坂社協」として取り組んでいます。



賛助会員と共同募金

西京社会福祉協議会は、地域の社会福祉事業の推進や、民間社会福祉施設の設備充実などを図るために「賛助会員」として募金を集めています。その一部が「桂坂社協」に還元され、桂坂の運営と活動に役立っています。

わたしたちの、一人でも多くのものがこの趣旨を理解し、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりに協力したいと思います。

また、皆さんから寄せられた「赤い羽根」共同募金も、地域の社会福祉事業の推進と民間の社会福祉施設の整備・充実など数々の事業の進展に寄与するために還元され、桂坂においても福祉事業に活かされています。

福祉に関する相談

桂坂には、福祉の仕事を担当している方がおられます。民生児童委員・主任児童委員・老人福祉員の方々です。在宅介護や福祉施設など社会福祉に関するいろいろなご相談を気軽にしてください。

相談内容については、守秘義務があり、他に口外されることはありません。



温もりのある地域づくり

桂坂地域女性会

1994（平成6）年に「桂坂女性会」が発足し、女性団体としての活動を始めました。地域での活動から2年後の1996（平成8）年4月に「桂坂地域女性会」となりました。

京都市、西京区、桂坂学区といった組織になっていて、桂坂地域女性会も京都市地域女性連合会に加入しています。

また、桂坂学区自治連合会の各種団体でもあり、京都市教育委員会の社会教育課の指導のもとで活動する社会教育関係団体でもあります。

桂坂地域女性会は、温もりのある地域づくりを目標に、会員相互の親睦を大切にし、男女共同参画を目指して、共に学習し、楽しみ、実践をとおして、女性としての能力を充分発揮しながら活動をする場です。



主な活動

毎年恒例となっている「作品展と手作りバザー」や施設の見学会、講習会、ハイキング、コンサートなど女性会としての行事のほかに、「西京ふれあいまつり」に参加し、桂坂学区の自主防災訓練では給食給水部で豚汁を、また区民運動会では模擬店を出店しています。

生涯学習も大切な事業のひとつです。「市民スクール21」として、毎年地域の方たちにも呼びかけ、水問題や環境問題、子育て支援などテーマを決めて数回開催しています。

他の各種団体とも協力して、「桂坂ほっとラインの会」や「桂坂子育て応援サロン」など、地域に根ざした活動も積極的に取り組んでいます。やさしい、

住みよい地域づくりには欠かすことのできない活動です。

茶道、書道、絵画、フラダンス、民踊、街探訪など会員相互の親睦と趣味の楽しさを味わうサークル活動も活発で、学区で開催する作品展やサークル発表会、地域での行事に出品、出演もしています。学区創立20周年には、桂坂山の手倶楽部と合同の文化展も開催しました。指導者にめぐまれ、和気あいあいでも楽しい時間を共有しています。

地球温暖化防止と資源を大切にすることからはじめた廃食用油の回収は、環境問題を考える上で意識改革に大きくつながりました。現在は地域全体の取り組みとなりました。



さまざまな人とのかかわりを大切に、組織活動をとおして、すべての人が住みやすいと感じられる、温もりのある地域づくりをしています。

心の繋がりを求めて

桂坂ほっとラインの会

桂坂に住む人たちが、これからも安心して幸せな生活を続けていけるように、お互いに助け合い、温かい心の繋がりを（福祉の輪）を広げていくことが地域で望まれています。

また、街づくりが始まって20年もの年月が経過し、在住者の中には、高齢のために日常生活に不便を感じはじめておられる方もあります。

そういうなかで、社会福祉協議会が中心となり、自治連合会、民生児童委員協議会、老人福祉員、山の手倶楽部、地域女性会、更生保護女性会が一緒になって会則の検討など発足にむけての準備をしました。

一つの組織として運営委員会を発足し、2008（平

成20）年6月「桂坂ほっとラインの会」を立ち上げて地域の方々にお知らせしました。

「桂坂ほっとラインの会」のメンバー（ボランティア）は、会の趣旨に賛同し、少しの時間お手伝いをしていただける、桂坂学区在住の方たちで構成されています。

目的と利用者の対象

「ひとりではできない、ちょっと手を貸してもらえたら」と困っておられるお年寄りの方たちの手助けをすることを目的としています。具体的には、概ね70歳以上の独居、あるいは高齢者所帯で手助けを必要とされる方たちを対象に、電球の取り替え、家具の移動や簡単な修理、屋外の軽作業、それに住まい近辺の手助け（買い物）などを行います。作業時間は2時間以内とかぎられ、修繕にかかる材料費は依頼主の負担ですが、作業に対する報酬はありません。

手助けを依頼する場合は電話で窓口申し込んでいただくことになります。

この制度をはじめてからあまり時は経過していませんが、少しずつ利用は増えてきています。桂坂が住み心地のよい地域となるように、地域ぐるみでの取り組みにしたいものです。

洛西ふれあいの里

福祉ゾーン



桂坂には、京都市によって計画された総合的福祉ゾーンがあります。1986（昭和61）年に西養護学校（現西総合支援学校）が開校し、つづいて1987（昭和62）年に特別養護老人ホーム沓掛寮、1989（平成元）年に障害者施設である、授産園・更生園・療護園が開設されました。そして、1994（平成6）年には、洛西ふれあいの里保養研修センター（ふれあい会館）が開設されました。

これだけの施設が一ヶ所に集まっている地域はめずらしく、地域の住民と共に、現在はいろいろな行事を通じて交流をし、お互いに理解をしながら「福祉のまち」を形成しています。

授産園

施設の目的

知的障害をもつ人を対象とした授産施設で、いろいろな作業を通して、喜びと生きがいを持って社会的に自立することを目的としています。京都市が1989（平成元）年に設置し、社会福祉法人京都総合福祉協会（旧京都障害児福祉協会）が運営する公設民営の施設です。

当初は、西養護学校（現西総合支援学校）の卒業生が通所できる施設として、障害のある人が生き生きと働ける場所として開設されました。20年が経ち、今や桂坂の地域に根ざした施設になっています。18歳以上を対象に、定員は60名で、設立当初からの方は50代後半になっておられます。月曜日から金曜日まで、毎日授産園のマイクロバスか市バスを交通手段として通っています。



作業

陶芸、クリーニング、箱折りの作業があり、陶芸品は「生産展」やホットハートセンター（京都駅ビル）、「陶器まつり」などで販売されています。陶芸教室もあり、夏休みには子ども対象の教室も開催しています。クリーニングでは、ふれあいの里施設利用者が使用するシーツや衣服類、ホテルのタオルなど企業からの受注があります。

施設の体制

授産園は「旧障害者福祉法」に基づき運営されて

いますが、2006（平成18）年に施行された「障害者自立支援法」により今後は、授産の施設体系が就労体系に変わり、企業に就労するための就労支援を得る多機能を持った施設になります。新しい法律に対応した運営をどのようにしていくかは現在模索中とのことです。

地域とのかかわり

地域で暮らしていけるようにマンションを借りたいわゆる「グループホーム」や「ケアホーム」に、担当する職員と共に宿泊し、実生活の体験も行われています。

「風通しのよい施設」を目指して、陶芸教室などを地元の人に使っていただくこと、ボランティアを受け入れること、仕事のアイデアをいただくこと、何か一緒にできることはないかななどを考えて外部にPRする必要があります。

洛西ラクセースで開催の「生産展」や桂坂での「ふれあいの里秋祭り」などでは陶芸品の販売を通じて地域の方々との交流を図っています。

イベントを通して地域とのかかわりを図っていくにしても、まだまだそのかかわりは少なく、住民としても交流する機会を増やしていくことが必要だと思われています。

更生園

施設

日常生活に支援を必要とする知的障害者が生活する施設で、1992（平成4）年に開設されました。定員は60名です。現在、入所者の平均年齢は35歳で、職員、支援者、ボランティアが協力して、生き甲斐のある生活を送ることができるよう、24時間体制で支援しています。



普通の暮らしを求めて

健康を一番に重視しながら、普通の暮らしができるように、「暮らしの場」「日中の活動の場」「余暇の場」と事業を3つに分けて考えられています。

「暮らしの場」としては居心地のよい、生活をする居室、「日中の活動の場」としては、施設の中で生活が完結してしまわないよう、職住分離を基本として農地を借り受けています。ホップ農園での農作業でさつまいもや玉ねぎを作ったり、箱折りや紙すきの仕事をします。

「余暇の場」としては、サークル活動やレクリエーション、お買い物などボランティアや職員の方に支援されての外出です。

一人ひとり障害の程度にあった1日のプログラムを作成し、作業内容なども工夫されています。

地域での生活

更生園で生活している方が普通の生活を体験するために桂坂にあるマンションを「グループホーム」として借りています。男性5名、女性4名の園生が夕方施設からマンションに帰り、夕食の用意をして、そこに宿泊します。地域で暮らせるようになるための支援をうけながらの体験です。メンバーは交代制になっていますが、ずっと交替しないで固定している人もいます。

医療面については、「施設の中では充実していますが、『障害者自立支援法』が施行されてから、いろいろ難しいところがあります」と施設長さんのお話でした。

ボランティアとして

楽しい場をつくるにはいろいろな楽しみ方があることに留意しなければなりません。器用な方も多く、ものづくりなど目標を持って一緒に作業することは生き甲斐のある生活につながります。しかし、コミュニケーションをとることは、簡単ではありません。支援する者が楽しいと思うこと、これが障害をもつ人たちにも楽しく感じられるはずです。外の風を入れることで元気になり、共同で作業する回数を重ねることで顔見知りになることができます。月一度縫い物のボランティアをしている地域の方もおられます。こうしたことは、地域に住む私たちにできることではないでしょうか。障害をもつ人たちに何かをしてあげたいと思うのではなく、心のバリアフリーが大切で、一緒に何かをすることが必要なことだと思います。

ボランティア講習会も考えているとのこと。

療護園

施設

日常生活に介護を必要とする重度の身体障害者が入所して、機能を維持し、機能の低下を防ぐために機能訓練をうけながら生活をする施設です。1989（平成元）年に事業が開始されました。入所者は50名です。

廊下は広く明るく陽が降り注ぎ、とても開放的で、生活をしている人の生活スタイルや時間に合わせていろいろな工夫が凝らされています。



リハビリ【機能訓練】

職員の皆さんは、一人ひとりの人格を尊重し、リハビリテーションを受けながら、少しでも社会生活になじめるように、プログラムにそって一所懸命支援されています。運動機能の向上・維持をすることは、快適に生活していく上で大切です。

園での生活

開かれた施設をめざし、利用者個人の外出も自由に行われています。

園の生活を楽しく、充実したものにするために習字、カラオケ、押し花などのサークル活動や卓球バレーなどのスポーツも行われ、交流試合もあるそうです。

日中活動や買い物外出、余暇活動などには地域のボランティアの方も受け入れ、洛西ふれあいの里秋祭りなどの行事にもお手伝いをお願いしています。

当初から入所の方も高齢化し、健康管理は、園内にある診療所の医師、職員が昼夜を問わず注意をはらって行われています。

一方、新しい法律の導入に加え、職員やボランティアの人材が集まりにくいという厳しい面もあり

ます。「施設から地域で生活を共にする」という方向に支援の方法も変わっていくそうです。

デイサービスセンター

在宅の重度身体障害者、心身障害者が、日常生活をするための機能訓練やクッキー作りなどの軽作業、創作活動を通して意欲を高め、社会参加を促進していくための施設です。定員は20名ですが、現在26名の方が登録されており、月曜日から金曜日まで個々人のプログラムにそって活動しています。療護園での生活者もグループ活動を希望される方はデイサービスセンターに通所することができます。

桂坂地域に設立されて長い月日が経ちます。療護園を生活の場としておられる方々と、地域に居住しているものがお互いに認め合い、共存できる良い関係を保っていかれたらと思います。障害をもつ人が、地域で自立して生活していくためには、まわりのちょっとした親切がとても大切です。人にやさしい「福祉の街」でありたいものです。

総合老人福祉施設 沓掛寮

寮の開設

桂坂地域における「福祉の街」建設計画に基づき、社会福祉法人・洛西福祉会が母体となって1987（昭和62）年4月に「特別養護老人ホーム沓掛寮」が50床で開設されました。その後、1992（平成4）年に85床に増設、ショートステイは4床から8床に増設されました。



いかなる時も生活者の意志、人格を尊重し、施設は生活と潤いの場となっています。明るく、家庭的

な雰囲気、地域や家庭との結びつきを重視しながら、「くつかけ家族」のために一所懸命介護・支援をされています。

寮生活を送る人たちは、静かな環境の中で、あたりまえの普通の生活を味わいながら、地域や家族の方がたとのふれあいを大切にしています。生活意欲をなくす状況に陥らないように、季節に応じて、お花見、新緑ドライブ、七夕まつり、納涼大会、ひなまつりなどの行事があり、楽しく充実した日々を過ごしています。

デイサービスセンター [通所介護]

1991（平成3）年に開設され、2002（平成14）年に、定員が15名から32名に拡大されました。概ね65歳以上の身体的に障害のある、日常生活がちょっと困難な、介護認定を受けたお年寄りが通っておられます。デイサービスセンターは、必要な訓練や、入浴サービスで心身の機能向上を図ると共に、交流をとおして、家にいる孤独感から生きる喜びを感じることができる所でもあります。1週間に数回通われているお年寄りもおられるそうです。

新しい制度

2000（平成12）年、介護保険制度の実施に伴い、福祉サービスが「措置」から「契約」に変更され、2006（平成18）年には、「在宅介護支援センター」が「居宅介護支援事業所」と「沓掛地域包括支援センター」の二つの事業に分化されました。

居宅介護支援事業所 沓掛寮

[旧 京都市在宅介護支援センター]

京都市から委託された高齢者の相談機関です。高齢者の在宅生活に必要な福祉サービス、制度の紹介やお年寄り・障害者の方が「介護保険」で何らかのサービスを受けたい時に必要な手続きを代行したり、介護サービス計画などの相談にのります。

高齢者の介護・生活について総合的に関わります。

京都市沓掛地域包括支援センター

[桂坂、大枝、新林、福西管轄]

2006（平成18）年4月に開設されました。京都市

と委託契約で、京都市内には61ヶ所あります。

地域包括支援センターには保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員の専門職員がいます。

介護予防、要支援1および2、高齢者の人すべてが対象で、施設医療も含めた生活全般について支援し、相談にも応じています。老人福祉施設への入所、適切な介護予防サービスを受けるためのケアマネジメント、高齢者の自立した生活の支援など何でも相談すればアドバイスがいただけます。私たち地域に住む者にとっては心強い協力者だといえます。

このように、高齢化が進むと思われる桂坂地域に居住する者にとって、相談できる拠点がたくさんあることは、本当にありがたく嬉しいことです。地域に共に生き、助け合い、人のために役に立つ「福祉の街」でありたいと思います。

ふれあい会館

[ふれあいの里保養研修センター]



ふれあい会館は1994（平成6）年に開設され、15年を迎えました。京都市社会福祉協議会が運営する、市民のための保養宿泊施設と福祉の研修施設を兼ね備えています。館内はバリア・フリー化され、すべての人がふれあい、学び、楽しみ、心豊かな時間を過せることを目標に考えられています。AED（自動体外式除細動器）や災害時に飲料を無料で提供できる「災害救援ベンダー」と呼ばれる自動販売機も設置されています。

研修施設

福祉に従事する人の研修としては、基礎研修をはじめ、専門性をみかく専門課題別研修、地域福祉の人材の研修、京都市介護実習の研修事業があり、介護については基礎から応用までいろいろな介護講座が開講されています。介護展示室では介護用具が常

時展示してあり見学することができます。会議や団体の研修などに研修室も貸しています。

健康増進

健康増進室では高齢者のための運動器具もあり、体力測定、骨密度測定、運動教室など専門のインストラクターによるトレーニングを受けることができます。もちろん、健康づくりのための講座も開講されています。



教養講座

陶芸、書道、水墨画などの教養講座や特別企画講座が生涯教育として開催されています。地域からの利用者も多く、趣味をいかしての仲間づくり、生きがいの場として活用されています。

宿泊・保養施設

宿泊施設はバリア・フリーになっており、車いすの利用者でも安心して泊まれる電動ベッド、段差のない浴室もあり、トイレの完備された洋室を含め14部屋あります。高齢者、障害のある人には割引制度があり、館内には喫茶、食事のできるレストランもあります。いろいろな心配りがとても嬉しい施設です。



桂坂野鳥遊園

1991（平成3）年に桂坂野鳥園として開園されました。2000（平成12）年7月には児童厚生施設の認可を得て「桂坂野鳥遊園」と名称を改め、京都市社会福祉協議会が運営管理しています。



桂坂の山裾の素晴らしい自然環境に恵まれ、これまでに約80種類の野鳥が飛来生息することが確認されています。8300坪の広大な敷地内には観鳥楼があり野鳥が観察できます。四季折々に楽しめる草木もあり、「鳥と遊ぶ道」と名付けられた裏山散策道があります。唐櫃越の道の一部、尾根づたいに歩く時は、京都市内、洛西ニュータウンを遠望できるスポットが何箇所かあります。ホタルが生息し、毎年6月にはホタル観賞会が催されます。



2001（平成13）年11月には、野鳥遊園の自然環境を大切に、更に充実させていこうとの趣旨で、「桂坂野鳥遊園を育てる推進会」が設立されました。

「ものづくり体験館」が2005（平成17）年にでき、自然とともに情操を育む、次代を担う子どもたちの健全育成を支援しています。『西京ウォーキングマップ』では一つの拠点としても注目されています。

西総合支援学校

校名の変更

1986（昭和61）年4月京都市立西養護学校として、洛西福祉ゾーンで一番早く開設されました。

2004（平成16）年に養護学校の再編で西総合養護学校と校名が変わりました。そして、2007（平成19）年には京都市を4つのゾーンに分けて、肢体不自由の子どもも住んでいる地域に通学ができるようになり、西総合支援学校と校名が変わりました。

生徒数は、小学部が68名、中学部46名、高等部66名で、教員は126名です。現在は、小学校の育成学級に在籍する子どもも支援しています。



発達遅滞児童生徒および肢体不自由児童生徒に対して、小学校、中学校および高等学校に準ずる教育を行い、日常生活、職業生活に必要な知識、技能、態度を養うとともに、たくましく、心豊かな人間として成長するための教育が行われています。スクールバスでの通学ですが、自主通学の生徒もいます。通学区域は西京区、右京区、南区です。

教育方針

児童生徒が社会参加し、自立するための包括的な教育を推進することを目標に、一人ひとりの児童や生徒の意欲や主体性を大切に、12年間の指導の一貫性のもと、本人・保護者の願いと発達や障害に即した個別の包括プランを作成し、きめ細かい教育が行われています。小学部ではのびのび遊び、中学部では学校・家庭・地域のかかわりの中で自ら選び、自ら学習して生活する力を身につけ、高等部では社会の一員として自ら学び自ら行動し、いろいろな経験を通して役割を担い、自分らしい生活をめざしま

す。

教職員一人ひとりが地域ぐるみで、保護者と連携のもと障害のある子どもへの指導を心から考えておられます。高等部の卒業時にはその成長ぶりに驚かされます。

地域とのコミュニティ

2005（平成17）年、「コミュニティスクール推進事業指定」を日本ではじめて受け、学校運営協議会ができました。

校庭の芝生化が「NPO芝生スクール」によって実現し、2006（平成18）年11月には、「ふれ合い、支え合い、市民ぐるみ・地域ぐるみの学校づくり」をテーマに「コミュニティフォーラム2006」が開催されました。個別の包括プランに基づく子どもの地域の生活を見据えた教育がされるようになりました。

児童、生徒は、学校のある地域としての桂坂、そして自分たちが住む居住地域と2つの地域を持っています。

学校の中だけ、家の中だけでは自立にはつながりません。外へ出ていくこと、地域に入ること、学校で培った力を発揮することができます。

桂坂地域では、中学部の生徒がマンションを訪問して、ペットボトルのリサイクル活動をしています。「自分の力が発揮できて、知らない人からほめられるとやる気が出てきます。知らない人の中に入っていくには時間がかかりますが、地域の方々の協力がとても大きいです」と先生方はおっしゃっています。

その他、桂坂のお店に設置してある自動販売機のジュースの入れ替えのお手伝いや、桂坂児童館で集まったペットボトルを「カナートイズミヤ」に持っていくお手伝いなどを中学部、高等部の生徒が、沓掛寮には中学部の生徒が演奏に行き喜んでもらっています。桂坂小学校との交流もあり、「桂坂ホットラインの会」にも協力してくれるそうです。



ちょっとした支援があることで、子どもたちは自分の力を発揮することができます。福祉の街づくりの一環として地域ぐるみで意識を高め、子どもたちが健やかに育ってくれるように協力したいと思います。

地域でのふれあい

福祉施設の諸行事

桂坂では1年を通じて、それぞれの施設の利用者さんとのふれあい、交流があります。

洛西ラクセーナでの生産展
ふれあいの里秋まつり
ふれあい会館創業祭「ふれあいフェスタ」
沓掛寮夏まつり
わいわい広場 等

諸行事は職員の方々は勿論ですが、多くのボランティアの人々に支えられています。

施設の紹介、各施設での自主作品の販売コーナー、フリーマーケット、いろいろな団体による模擬店、保護者会によるバザー、体験コーナー、ステージ発表など盛りだくさんに開催されることもあります。

桂坂の他に、各地から訪れる人々との交流も見逃せません。理解し合い、ふれあい、とてもいい雰囲気、会場は盛り上がっています。





春の競演 山の手倶楽部 青木和之氏

文化・学術・芸術

文化・学術・芸術



桂坂は、文化的環境にとっても恵まれています。国際日本文化研究センター（日文研）・京都大学桂キャンパス・桂イノベーションパークがあり、また近隣には京都市立芸術大学・京都市立音楽高等学校があります。

私たちはこれらの学術・芸術の専門機関から、講演会、演奏会、子どもたち対象の実験教室や出前授業など、知的な恩恵をたくさん受けることができます。このようなさまざまな知的、あるいは美的刺激は、他の地域の人たちにとっては羨望の的となっていることでしょう。

私たちは桂坂20年の歩みの中で、与えられる文化の、単なる受容にとどまらず、独自の文化をしっかりと育んできました。今後も、さらに心に潤いのある暮らしのために、地域の織り成す文化を充実させていくことが、必要となるでしょう。

地域の文化活動

各種団体の同好会・サークル

山の手倶楽部と地域女性会

山の手倶楽部の16の同好会のうち文化系の同好会「写真」「書道」「俳句」「絵画」などは、日ごろの活動の成果を「趣味の作品展」で発表し、また、野鳥遊園ラウンジにおいてもそれぞれの同好会が作品を月替わりで展示、来園者の目を楽しませてくれます。一方「コーラス」は西京区老連の「文化芸能祭」や、かつて檜原廃寺跡で行われていた「名月鑑賞の夕べ」「カザラッカコンサート」などで、いつも若々しいハーモニーを披露されています。

地域女性会も各同好会は活発に活動され、毎年「作品展と手作りバザー」を開催されています。

2008（平成20）年秋、学区創立20周年の記念事業の一環として行われた、山の手倶楽部・地域女性会・社会福祉協議会の「合同作品展」はそれぞれ力作ぞろいで、展示にも工夫の凝らされた、大変見応えのあるものでした。このように、「共同」で展覧会を行うことは展示規模の大きさだけでなく、作品を通して交流することで、互いに創作意欲を刺激しあい、文化活動の輪をさらに広げることとなるで

しょう。

また、女性会が毎年開催している「春のコンサート」は、会員以外の一般住民も参加でき、小学校のふれあいルームでの演奏会は、サロン風の催しで演奏者と聴き手の距離が近く、両者一体となって音楽を楽しむことができます。

桂坂小学校PTA文化部

桂坂小学校のPTAでは部活動が盛んです。

「コーラス部」は練習の成果を西京西支部の8校で行われる「ほほえみコンサート」や「カザラッカコンサート」で披露され、毎年、年度末には「ミニコンサート」を開いています。また、特別養護老人ホーム沓掛寮の皆さんとは、歌で年齢を越えた交流を楽しんでいます。

「本とお話のクラブ」では昼休みや土曜日に本の読み聞かせを行っています。また、授業の一環としてのお話会も開き、子どもたちにとって読書に親しむ重要なきっかけとなっています。中でも、毎年6年生を対象に行われる「桂坂・大枝の歴史」では、住んでいる街の歴史を知る手がかりを分かりやすく解説しています。その時に大きな手作りの絵巻物を使い、三味線の演奏を加えて演じられる鬼退治伝説「酒呑童子」は圧巻です。



木もれ日・ひなたぼっこ

社会福祉協議会に属しているサークルに、「木もれ日」と「ひなたぼっこ」があります。

朗読サークル「木もれ日」は朗読を通して、高齢者、身体の不自由な方、子どもたちに物語の魅力を伝え、ともに心地よいひと時を過ごしてもらうことを目的に「社協」主催の高齢者会食会、すこやかサロン、療護園で朗読ボランティアをされています。



そのほか、一般を対象に定期的に朗読発表会を開き、その一つである、朗読劇「源氏物語」は今や桂坂、京都にとどまらず、

2009（平成21）年6月にはフランス・パリ国立高等師範学校で公演されるなど、広く活躍されていることは記憶に新しいところです。

またお話ボランティアサークル「ひなたぼっこ」では、お話の世界を楽しむことを通して、子どもたちの心が豊かに育つことを願い、桂坂小学校PTA「本とお話のクラブ」のOBが活躍しています。すこやかサロン、大枝中学校、桂坂小学校、洛西地区の児童館や幼稚園でも読み聞かせや人形劇、大型紙芝居など、演出に一工夫されています。

その他の文化活動グループ

桂坂には各種団体に所属して文化活動をしているグループだけでなく、独自に活動している団体もあります。

シルフィード合唱団

「シルフィード合唱団」を作られたのは桂坂小学校PTAコーラス部のOBの方々でした。今は桂坂以外の地区からも参加されているようですが、練習の拠点は桂坂です。

活動の場は広く、西京区「社協」主催のふれあい事業、区民文化のつどい、らくさいさくらまつり、また、亀岡市で毎年7月に開催される「七夕平和交流コンサート」など、様々な行事に出演されています。2008（平成20）年3月、京都府立府民ホールア

ルティで行われた合唱団初めてのコンサートには、多くの桂坂の人が聴きに訪れました。

本とお話の会「パンフルート」

大枝児童館や洛西図書館で活動している「パンフルート」は、桂坂小学校PTA「本とお話のクラブ」も同時期に立ち上げられました。現在会員は桂坂小学校PTAのOBが中心となり、他の地域の方も加わって、本やお話を通して読書活動の推進や、子育ての支援をされています。会の発足10年目の2007（平成19）年には、長年のボランティア活動の功績により「京都市子どもの読書活動優秀実践団体」として、「教育長賞」を受賞されています。

桂坂手づくり絵本の会

「桂坂手づくり絵本の会」は今の子育て支援のような意味合いを持って、すでに18年前から「お母さんと子どもが世界にたった一冊の本を作る」活動をしています。その作品は毎年10月の読書週間の頃、洛西図書館で展示会を開き、一昨年からは野鳥遊園ラウンジでも展示をしています。



（京都新聞 2008.10.30朝刊より）

桂坂小学校PTAで文化活動を経験された方々は、子どもの卒業後も新たなグループを立ち上げるなど、地域で盛んに文化活動を行っています。自分達の楽しみの域を超え、ボランティア活動でも地域に貢献されています。

今後、年を重ね地域女性会や山の手倶楽部に参加されると、その経験が活かされ、よりいっそう桂坂の文化活動は充実したものとなるでしょう。

文化活動の拠点

ここにあげたグループだけでなく、桂坂にはもっとたくさんの方々が独自の文化活動を展開されていることでしょう。

では、こうしたグループはいったいどこで活動されているのでしょうか。今、桂坂で活動の拠点となっている所はふれあい会館、中央信用金庫の2階、桂坂自治会館、各自治会館、小学校の「ふれあいルーム」などです。場所によっては、桂坂自治連合会が認めた会しか使用できないところもあります。誰も彼もが勝手に使ったのでは統制が取れなくなるので、利用上の制約は当然でしょう。しかし、桂坂の文化創造、表現活動の発展のためには今後、住民がもっと利用しやすい環境を整えることも必要となってくるでしょう。

カザラッカコンサート

今や桂坂の風物詩ともなっている「カザラッカコンサート」。1993（平成5）年に「オーケストラとあそびましょう」と題して始まり、翌年には「かつらざか」を逆さに読んで「カザラッカ」と名前を変え、以後16年間地域の人々に親しまれています。このように長い間継続していることは、京都市立音楽高等学校のご協力と主催者である桂坂小学校PTAの努力の賜物でしょう。

2004（平成16）年第12回より名称を「カザラッカコンサート」から「桂坂・音楽の集い カザラッカコンサート」に変更されました。なぜ「桂坂・音楽の集い」という言葉を補ったのか、当時、PTA会長有賀郁敏氏は次のように述べられています。

地域の音楽文化を創造し、発展させていくことを展望するなら、桂坂学区で生まれている個々の音楽文化にも着目し、それぞれの成果を統合させることは、この目的を達成させるための環といえます。それはまた、自前の文化の創造にも寄与してきたカザラッカコンサートの方向性とも一致しています。例えば、小学校では正課の音楽に加えて音楽のクラブ、部活動も展開され、PTAにはコーラス部があり、また小学校以外にも大枝中学校に吹奏楽部、山の手

倶楽部にコーラス部があります。さらに、地域住民の中には音楽に興味をもたれ自ら演奏されている方々もおられるのではないのでしょうか。桂坂音楽の集いが、こうした諸々の取り組みの結節点として機能するのであれば、学区における音楽文化の個性が、これまで以上に花開くのではないかと思います。

（「桂坂小学校PTA2004年度活動の記録」より）



これ以後、コンサートは第Ⅰ部では小学校児童、大枝中学校吹奏楽部、教職員のグループ、PTAコーラス部、山の手倶楽部コーラス部などの方々の演奏、そして第Ⅱ部は音楽高校の演奏の二部制となりました。学区20周年記念に行われた第16回では、PTAならぬ「PTCA—親・先生・子ども」の三者による合同のパフォーマンスが見られました。

小学校で行われる手作りのコンサートは、オーケストラの演奏にとって、必ずしも良い条件ではないかもしれません。しかし、この16年間、毎年素晴らしい演奏を披露していただいている京都市立音楽高等学校の皆さんは、この「カザラッカコンサート」についてどのように思っておられるのでしょうか。

音楽高校で指揮・指導をされている藏野雅彦先生は、第16回の開催に際し、次のようなメッセージを寄せておられます。



桂坂小学校創立20周年おめでとうございます。

私達京都市立音楽高等学校は、小学校創立の年から桂坂での音楽の集いに参加させていただき、現在まで20年の長きに亘り桂坂と共に歴史を刻んで参りました。今年で16回目となるカザラッカコンサートは、現在音楽高校の重要行事となっており、生徒たちは毎年この日を心待ちにしております。ここで学んだことを生かし、数多くの卒業生が日本のみならず世界中で活躍しております。貴重な演奏の場と、毎年頂く暖かいご声援に心から感謝するとともに、「桂坂音楽の集い」が今後ますます発展し、音楽のあふれる街桂坂となることを心から願っております。

〔第16回桂坂・音楽の集いカザラッカコンサート〕

プログラムより)



今後、この「桂坂・音楽の集い カザラッカコンサート」が地域の音楽文化として、地域のより多くの方々が出演される場となることを考えると、小学校PTAにかなり負担がかかるでしょう。単なる学校行事の一つとしてではなく、地域の行事として発展を願うのであれば、地域からも運営のお手伝いをしなければならぬかも知れません。そのためにも、地域の創造的な文化活動を取りまとめるようなところが必要となってくるのではと思われます。

時代祭の行列に参加

京都三大祭の一つである「時代祭」。

1895（明治28）年平安遷都1100年を記念して、桓武・孝明の両天皇を祀る平安神宮が創建されました。この記念事業として、時代祭は桓武天皇が長岡京から平安京に遷都された日である794（延暦13）年10月22日にちなみ、平安時代から明治維新までの風俗の変遷を、明治から順次延暦時代へと遡って再現する時代行列が行われることになりました。これが時代祭の始まりです。そして、祭りや建造物の維持保存を目的に、市民により平安講社が組織されました。以後、戦争や災害の危機も町衆の努力で乗り越え、現代に受け継がれています。

毎年、西京区平安講社第九社は各学区が持ち回りで「楠公上洛列」を勤めることになっています。2007（平成19）年10月22日、桂坂学区の当番で、自治連合会の役員をはじめ各種団体の協力のもと桂坂平安講社が中心となって準備が進められました。

祭りの前日には、貴重な衣装・祭具などが運び込まれ、着付けの指導を受けるなど本番に備えました。その衣装や祭具の警備は、交代で夜を徹して厳重に行われました。

当日は、朝早くから着付けをし、9時頃には小学校校庭をパレードしました。待ち受けていた子どもたちは、タイムスリップしたかのような武者姿の行列に興味津々、感嘆の声を上げていました。

今度この大役が回ってきた頃は、この子どもたちが中心になっていることでしょう。



国際日本文化研究センター

日文研



「日文研」はどんな所？

異なる学問分野の研究者が、日本文化を国際的な視野にたって、総合的に研究することを目的として、1987（昭和62）年に設立されました。日本国内だけではなく、海外からの研究者も迎え、現在約70名が研究活動を行っています。

「日文研」らしさ その1

たいていの大学や研究機関では、講座ごとに教授・准教授・助教という序列のようなものがありますが、「日文研」はそういう制度になっていません。教員が一人の学者として尊敬されているかわりに中途半端は許されない、という研究所です。

「日文研」の研究活動は、「個人研究」「基礎研究」「共同研究」の三つに大別されますが、「共同研究」が特徴的。

それぞれの専門分野の研究だけではなく、視野を広げるため、一つの研究テーマのもとに、専門分野の異なる国内・海外からのメンバーが集まって議論するのです。

「共同研究」について、尾本恵市元「日文研」教授は次のように記しています。

日文研では、何者にも邪魔されずに好きなことを勉強するという学者の原点に立つことができた。そして、人類学の本質が学際的な学問であることをあらためて認識し、自分なりに「面白い」と思った切り口を掲げていくつかの共同研究を実施したのである。……これらはすべて、自然科学から人文・社会科学に至る幅広い専門研究者の協力による学際研究で、もし私が日文研に来なかったらとても実現できるものではなかった。

（『日文研』エッセー「カヴァを飲む」

国際日本文化研究センター、1999、No. 21、p. 7-p. 8）

「日文研」と桑原流「共同研究」

「共同研究」という方法を、自然科学系以外の学問で初めて取り入れ、日本に定着させたのは、フランス文学者であり京都学派のリーダー、桑原武夫氏（1904～88）です。

1948（昭和23）年、京都大学人文科学研究所において、『ルソー研究』で初めて「共同研究」を採用し、12人の異分野の専門家が協力しました。桑原氏は、このように言っています。

相互に自由に協力し合いたいという「精神的欲求によって結集する」グループである。そしてそこでは、研究者の仕事が論文あるいは著書になって出てこないさきに、それを聞いていて、あの男はいつもこう考えている、それがいまこう言ったのだから、こういうことに違いない、とすぐつかめるような、そういう学者の集まりを求めているのです。……他の領域の仕事がわかり、少なくともわかろうという熱意を持つ専門家たちの集まりが必要なのであります。

（『桑原武夫 その文学と未来構想』

杉本秀太郎編、淡交社、1996.8.24、p. 18）

では、「共同」で研究するとは、どのようなことをするのでしょうか？

一例をあげますと、会読（一つの本を皆が寄って深く読んでいくこと）……これをするによって深く切りこんでゆく。同じテキストに皆で迫ることによって、共通の訓練ができる。……ルソーの研究をやったときに、同時に、その『コントラ・ソシアル』（『社会契約論』）の反訳をくわだてました。共同研究の参加者が一週間に一日寄って、あらかじめこしらえてきた訳稿をみんなでたたき合って決定稿をつくり出す勉強をやったのでありますが、これはきわめて有効な方法で、……

このような「共同研究」のスタイルが、「日文研」の特徴のひとつです。桑原氏は、早くから日本文化研究機関を京都に設置する必要を説き、「日文研」設立に尽力しました。

このことを梅原猛「日文研」初代所長は、次のように語っています。

インターナショナルな日本研究、それをやはり先生は目指されていた。……桑原先生と文部省のお役人をよんで、どうしても（日文研を）作らねばならぬ、作ってほしいと交渉した。文部省のお役人がなかなか思い切れないとき、桑原先生は「私の一周忌にできるようなことではあきまへんで」と言われた。これは迫力があつたですね。反対している人もちょっと顔色を変えた。そういう形でできた。

「日文研」ができて一年目の1988（昭和63）年に行われた国際研究集会には、桑原氏の大好きな、レヴィ＝ストロース氏を招聘。桑原氏は病身をおして参加。そのために「国際日本文化研究センターに殉職された」（松田道雄氏）とまでいわれています。

桑原武夫氏を偲ぶ七回忌の集まりが、1988年4月10日の命日に、「日文研」ホールで行われました。これは「日文研」としての事業ではなかったのですが、桑原氏と「日文研」との深い縁を感じさせてくれます。

「日文研」らしさ その2

施設の設計を手がけたのは、建築家・内井昭蔵氏。研究施設や図書資料室などが、機能別に個別に分散配置されていて、それを回廊で結び、ゆるやかな統一をはかる、という設計思想で構成されています。「日文研」の研究活動のありかたそのものを表現したものと言えそうです。



「出前授業」



「ほんものの知性にふれてほしい」と、1996（平成8）年7月から、「日文研」による桂坂小学校での「出前授業」が始まりました。初回は、梅原猛氏をはじめ、河合隼雄氏、尾本恵市氏ほかが特別講師となって、5・6年生の9クラスを対象に、それぞれ社会、道徳、理科の特別授業が行なわれました。

このときの授業内容は、『小学生に授業』という本になり、「小学館文庫」の一冊として出版されました。

「出前授業」は、新聞でも採り上げられました。その中で、授業を担当した教授の話が紹介されています。「短い時間で本質的なことを教えることが大事だと思います」「子どもの顔を見てみると、分かっているのかとか、飽きているのか分かってしまう。正直ですね」。小学生が相手だけに、分かりやすく、しかも興味を持ってもらえるように、教授たちは苦心しているそうです。

（朝日新聞京都版「学校の風景」、1999.11.12）



どんな授業なのか、ちょっとのぞいてみましょう。たとえば「自然に学ぶ」と題された「理科」の授業は、こんな具合です――

僕は尾本といいまして、人類学という学問をやっています。じつは、僕がみなさんと同じくらいのはきは、チョウばかりを採っていたのです……

ある日、「キベリタテハ」という、東京にはいないチョウが家の中に飛び込んできた。尾本少年は、採ったばかりのチョウを、詳しい人に見せたところ、これが「東京初記録」となったのです。

これをみなさんはどう思うかな。ただ運がよかっただけだろうと思うでしょう？ 僕はそうは思わない。

運というのはね、ただ黙っていれば上からボンと降ってくるものだと思っていたら大間違い。運というものは、みんな自分でつかむものです。……僕はいろいろな図鑑を見て知っていたから採ることができたのです。……勉強をしていると、その運が近くへ来たときに、グッと押さえることができるわけです。

話は、留学中にチョウ採集旅行へ行ったことなどに及び、チョウの進化に興味をもったことがきっかけとなって、人間の研究をすることになった、と話されます。

専門分野「分子人類学」（遺伝学＋人類学）の成り立ちから最新の話まで、「人種」の話を中心に、スライドを見ながら、子どもたちは説明を聞きます。45分が経ち、チャイムが鳴り始めました。

人種なんて、じつはほんのささいな違いなのです。われわれはホモ・サピエンスという種類の動物ですからね。

自分で考えることが大切です。

先生の言うことは正しい、だけど学校で教わることの奥に、なにか大事なことがあるのではないか、という疑問をもつことが必要です。

「成功のひけつ」

1. 好奇心（なにかを好きになる、人まねはしない）
2. 集中力（やるときは、わき目もふらずに）
3. 持続力（すぐにあきてはだめ、ねばり強く）

この三つがあれば、だれでもどんな仕事でも成功できます。

それでは僕の授業はこれで終わります。

（『小学生に授業』河合隼雄・梅原猛編、

小学館、1998.6.1、p. 99-p. 134）

「出前授業」は、現在も続けられており、2008（平成20）年度は、ジョン・グリーン准教授による「神社の話」、早川聞多教授による「絵で見る400年前の京都の町の人びと」など、8科目の授業が、5・6年生を対象に行われました。

「日文研」ホール

「日文研」にホール（講堂）が完成したのは、1994（平成6）年5月。

センター内のシンポジウムや学術研究発表の場ですが、一般市民を対象にした講演会や演奏会などにも、幅広く使用される施設です。扇を拡げた形で、客席数は575。

このホールで演奏しました

桂坂小学校のPTAは、2004（平成16）年と2006（平成18）年に、ここで「カザラッカコンサート」を開催しました。（2004年から「桂坂・音楽の集いーカザラッカコンサート」と名前が変わり、内容も二部構成になっています。）

2008（平成20）年には、大枝中学校が、ここで合唱祭を開きました。



大枝中学校合唱祭

「桂坂文化フォーラム」開催

1994（平成6）年9月25日、西洋環境開発（現西洋ハウジング）の主催する、第8回「桂坂文化フォーラム」が、「講演とチェロをきく午後」と題して行われました。

第一部は、井上章一「日文研」助教授（当時）の講演「人形が語る日本文化の伝播」。

第二部は、ポーランドの二人の奏者によるチェロ演奏会。前日開催された「八ヶ岳高原音楽祭」に参加した、その足で桂坂に来られました。チェロ：アンジェイ・パウアー、ピアノ：ピョートル・アンデルシュベスキーの二人が、ブラームス「ヴァイオリン・ソナタ第一番〈雨の歌〉」などを演奏され、桂坂住民450人が楽しいひとときを過ごしました。

（『るびたき』西洋環境開発 1994.11.25）

わたしたちも参加できます

学術講演会と公開講演会

「学術講演会」は、研究活動の内容や成果を広く一般の人たちにも理解してもらおうと、毎年3～4回定期的に開催される講演会で、「公開講演会」は、国際研究集会などが開催されるのに合わせて、行われる講演会です。

大江健三郎氏も講演しました

時には、「日本研究・京都会議」という国際会議の開幕を告げる公開講演なども行われます。

1994（平成6）年10月17日、ノーベル文学賞を受賞したばかりの大江健三郎氏が、受賞して最初の講演「世界文学は日本文学たりうるか」を行ったのは、実はこの公開講演においてでした。当日は、マスコミ各社が大江氏を追って桂坂に大挙して集結しましたが、私たちも思いがけない幸運に出くわしたことになります。（『創立10周年記念・桂坂』p.96-p.97）



回廊にかこまれた中庭（一般公開）

日文研フォーラム

日本に住んでいると気づかない意外な日本の姿や評価、海外の研究者から見た日本人の印象などについて、来日中の外国人研究者が発表します。「キャンパスプラザ京都」や「ハートピア京都」で開かれるこのフォーラムにも、多くの市民が参加されます。

「日文研」の一般公開

毎年、秋の紅葉の時期に実施されます。図書室・セミナー室などの施設公開のほか、講演会や公開討論会なども開かれ、展示コーナーを設けて、「日文研」所蔵資料の展示も行われます。



一般公開講演会

ほかに、「特別講演会」、「公開セミナー」、「伝統文化芸術総合研究プロジェクト」の企画などが、不定期に開催されます。

わたしたちも利用できます

データベース

「日文研」のホームページでは、いろいろなデータベースが公開されています。

所蔵の稀覯本、古写真、名所図会のデータベースや、「怪異・妖怪伝承データベース」というものもあります。

図書館

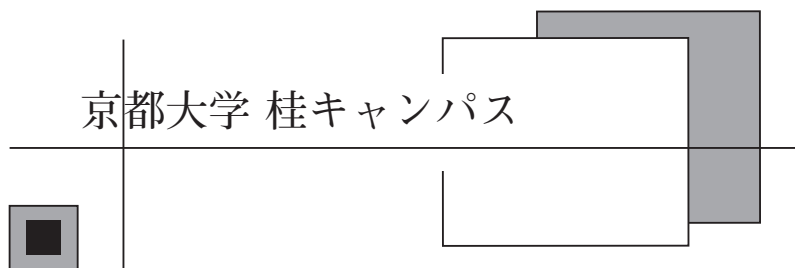
ほかの図書館には無い本を読みたい場合、公共図書館などの紹介状が必要ですが、「日文研」の図書を利用することができます。



図書館（一般に公開）

レストラン「赤おに」

「レストラン赤おに」へは、「日文研」の正面玄関から入る以外に、野島遊園の向かいから下りていく道があります。原則として日・祝以外は営業しており、ランチや休憩に利用できます。



自然環境との調和・地域との融合

京都大学は吉田、宇治の二つのキャンパスに加えて2003（平成15）年、大学院工学研究科と情報学研究科の教育拠点として、桂キャンパスを桂坂の御陵坂に開校しました。

桂キャンパスの敷地の広さは桂坂小学校の約14倍あり、A～Dの4つのクラスターで完成します。教・職員数500名 学生数1500名（平成21年現在）です。（Dクラスターが完成すると教職員600名、学生2,500名になる予定）ここは大学院生の施設のために、学部生は4回生のみ専門の研究をするために通っています。こうした理由から、地域の皆さんはよくご存知のように、キャンパス全体は学部中心の大学から見ると落ちついた雰囲気、研究棟の部屋の灯りは夜遅くまでついています。

- Aクラスター 大学院工学科電気系・化学系
- Bクラスター 本部・共通施設
- Cクラスター 大学院工学研究科地球系・建築系・物理系（平成24年11月移転予定）
- Dクラスター 大学院情報学研究科（未着工）

桂キャンパスの移転当時、京都大学総長補佐であった大学院工学研究科の西本清一教授は、その基本理念とされるものについて以下のように述べておられます。

21世紀初頭に開校する桂キャンパスは、かけがえない地域環境を保持しつつ調和ある人類社会の持続的発展に必要な新しい科学技術を創出し、社会に貢献できる教育研究の実践フィールドでありたいと願っています。

また、桂キャンパスの基本理念として、地域社会との融合を謳っており、御陵桂坂に展開するキャンパス空間が新たなコミュニティを形成し育成する場となることを目指しています。

（「京都大学桂キャンパス開校に際して」広報『桂坂』97号より）

京都大学散策マップ Kyoto University 京都大学桂キャンパス

桂モニュメント

桂キャンパスのシンボルタワー、21世紀初頭の先幅2m、高さ31m、鋼と同じ強度のプレキャストコンクリート文字盤は吉田キャンパスの時計台と同じデザイン。縦長の4面ディスプレイは、青・赤・緑の発光ダイオード

桂インテックセンター

多様な分野の研究者が結集し、工学を基盤とする応用研究課題に取り組む先端学術研究拠点

船井哲良記念講堂

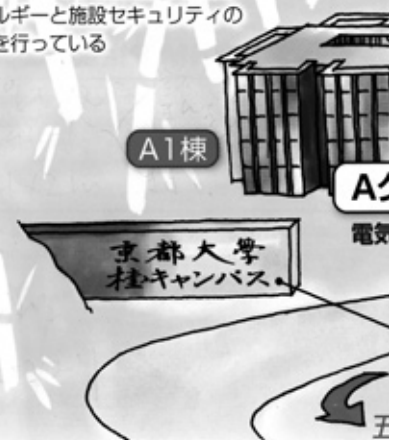
京都大学で最大規模の500席の講堂ホールや大小の会議室を有する。京都大学出身のノーベル賞フィールズ賞受賞者の展示がある

プロムナード

異なる分野の研究者が出会うクラスター間をつなぐ弓形の通路

エネルギーマネジメントセンター

桂キャンパスの電気・ガス・水道等エネルギーと施設セキュリティの管理を行っている



クラスターとは？

キャンパスの散策マップからお分かりのように、最大70mの高低差を利用して設置された、大きくカーブを描く遊歩道（ヒルトップ・プロムナード）が、御陵坂の斜面に散りばめられたように研究棟の建つA、B、Cの3ブロックを貫通しています。これらはまるで葡萄の房と茎のようです。「クラスター」とは葡萄の房を意味しており、各区画が「Aクラスター、Bクラスター」と名づけられた理由はここにあります。バスの車窓などから見える、各クラスターの入り口にあるロータリーに沿って置かれた、黒いボール状の物体は葡萄の粒を表しているそ

最先端科学技術を後世に伝える
コンクリート部材を使用

オードで構成されている

大型スクリーン

シンポジウムや公開講座
などの案内に使用される

事務管理棟

Bクラスター

本部機能・共通施設

京大桂キャンパス前

A2棟

A3棟

A4棟

Aクラスター

工学系・化学系

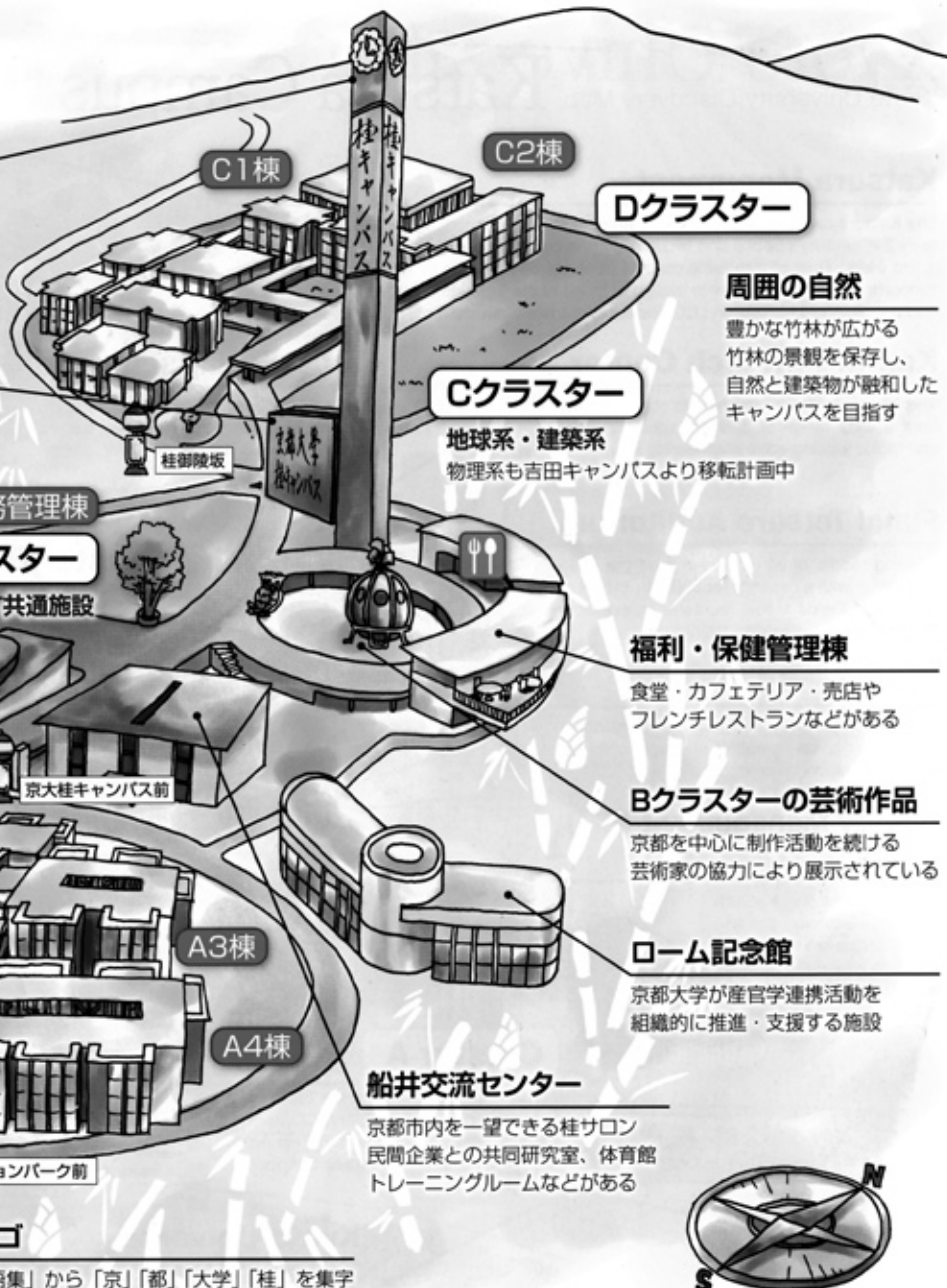
桂イノベーションパーク前

京都大学桂キャンパスのロゴ

京都大学所蔵の国宝鈴鹿本「今昔物語集」から「京」「都」「大学」「桂」を集字

五条通

編集・発行/京都大学 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 イラスト担当/京都大学美術部(文化系学生サークル) 2008年8月発行



Dクラスター

周囲の自然

豊かな竹林が広がる
竹林の景観を保存し、
自然と建築物が融和した
キャンパスを目指す

Cクラスター

地球系・建築系
物理系も吉田キャンパスより移転計画中

福利・保健管理棟

食堂・カフェテリア・売店や
フレンチレストランなどがある

Bクラスターの芸術作品

京都を中心に制作活動続ける
芸術家の協力により展示されている

ローム記念館

京都大学が産官学連携活動を
組織的に推進・支援する施設

船井交流センター

京都市内を一望できる桂サロン
民間企業との共同研究室、体育館
トレーニングルームなどがある



うです。

京都市内を展望できるこのヒルトップ・プロムナードは、勝手知った地元の人たちにとっては、五山の送り火の時の人気スポットです。「地域社会との融合」を謳う基本理念のとおり、このプロムナードはクラスターA・B・Cを縦貫し、しかも車椅子でも無理なく往来可能な勾配を保ちながら、緩やかな弧を描いて、近隣公園の御陵公園の横を通ります。私たち地域住民が、開かれたキャンパス内を散策したり、カフェを利用したりすることを想定して作られた、地域との架け橋のような存在です。

建物の特徴

キャンパス内には何箇所か「京都大学桂キャンパス」と表示された看板があります。この行書体の「京都大学桂」の部分は、京都大学附属図書館が所蔵する国宝の『今昔物語集』巻第27から集めてデザインされたものです。また、研究棟の建物の壁面に貼られた横長タイルは信楽焼きで、吉田キャンパスにあるレンガ造りの建物の色を赤色タイルは理系、黄土色のタイルは文系の色合いを象徴しています。

御陵公園の横、Bクラスターに立つ桂キャンパス



プロムナードと時計台

のモニュメント・時計台は、鋼に匹敵する強さを持つ、当時最高の超高強度コンクリートを用いた、中が空洞の「開断面構造」になっています。

(京都大学大学院工学研究科・建築学専攻 渡邊文生名誉教授「京都大学工学広報」2008.4 No. 49 p. 13より)

Aクラスターの建物内部にはダクトが張り巡らされています。これらは実験等で出された化学物質が、環境を汚さないように、空気を浄化して外に排出する装置で、景観に配慮して建物の内部に設置されています。



誰でも利用できます

構内には生協売店、学生食堂レストラン「セレネ」、カフェ「アルテ」、イートインできるパン屋さん「リユージュ」、カフェ「ハーフムーンガーデン」、フレンチレストラン「ラ・コリーヌ」があり、一般市民にも開放されています。とくにセレネ、アルテの外に設置されている展望バルコニーは京都市の中心部と南部が一望でき、地域住民にとっても憩いの場となっています。(学生、教職員の方の利用される昼休の時間帯はご遠慮くださいということです)



展望バルコニー



カフェ「アルテ」

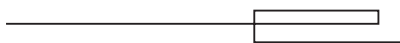
エコキャンパス

京都大学は地球環境問題に関する研究・教育を行っており、省エネを意識して運営されています。その取り組みは、環境省より表彰されるなど大きく評価されています。その中のひとつで、京都大学が企画する行事に「竹の環プロジェクト」があります。環境・防災・文化の横断的な視点から、産・学・官・市民が連携して、桂キャンパス内の竹林保全を实践する、竹林間伐ボランティア活動です。秋の間伐と春の筍掘りをひとつのサークルとして、年二回活動しています。



Neo 西山文化

洛西地区にふさわしい名をもつ、この「Neo 西山文化」は、芸術と文化に科学技術を融合して、新しい「西山文化」を作り出せないかというコンセプトのもとにできた、国際日本文化研究センター、京都市立芸術大学とのコラボレーションで、「西山祭典」「京大 IIO・ロームフェア」などのイベントを開催しています。



桂坂京大キャンパス問題連絡協議会

桂キャンパスは、地元住民との話し合いを通じて、建築計画や工事の予定や進め方が確定し、建設されました。

1994（平成6）年	新キャンパスの基本計画策定 学内に新キャンパス委員会設置 候補地の調査検討開始
1999（平成11）年	工学研究科・情報学科の桂キャンパスへの移転を決定
2000（平成12）年5月	京大桂キャンパスと隣接する、もみのき、さくら両自治会を対象に京都市、京大、都市基盤整備公団の説明会の開催
2000（平成12）年7月	桂坂小学校において両自治会を中心とする地元住民への説明会開催
2000（平成12）年8月	桂坂自治連合会内に桂坂京大キャンパス問題連絡協議会設立
2001（平成13）年1月	総合研究棟 I、II、桂インテックセンターなどの建設に着手
2002（平成14）年11月	完成
2003（平成15）年10月	18日 竣工式 開校式挙行 以後順次竣工、完成
2009（平成21）年現在	A～Cクラスターまで完成
2009（平成21）年7月	Cクラスターの物理系の施設を建設に関する説明会

桂坂京大キャンパス問題連絡協議会の構成メンバーは自治連合会本部役員と隣接するもみのき・さくら両自治会の代表、各種団体長、各自治会長です。

この連絡協議会との話し合いの結果、特にCクラスター「総合研究棟」の建設に当っては当初の計画から大きく変更されました。

住宅地に最も近いために、高さの点や原案では大型の建物7棟であったものが、「小さく10数個に分けられ」ました。大きな壁面からくる威圧感を軽減するためです。ほかにも「大型の実験室は地下に設置」され、「屋上は緑化」され、「周辺道路の高低差に合わせて建物の高さを抑え」景観にも配慮されました。また、「隣り合う棟の間隔を広く」取って、「住宅地側に大きな緑地ゾーンを確保」といった具合に、配慮がみられます。



さくら自治会から見たCクラスターの建物と緑地

作業時間も秋～冬期、春～夏期それぞれに合わせて、工事車両の運行時間も大型資材の搬入、搬出、生コン搬入等に分けて決められました。もちろん国道9号線の渋滞する時間は避けられ、一日の運行台数も決められていました。

このように桂坂自治連合会内に設置された「桂坂京大キャンパス問題連絡協議会」との話し合いをもとに、今のような景観、地域との調和を考慮した、開かれたキャンパスが実現しました。これらは桂坂住民の意見、希望、そして「桂坂京大キャンパス問題連絡協議会」の努力なしには実現しえなかったであろうと思われます。



道路南側の緑地はエネルギーマネジメントセンターの屋上庭園（上の写真）、エネルギーマネジメントセンターの裏側（下の写真）

桂イノベーションパーク

JSTイノベーションプラザ京都

バス道路のローム記念館前を通過して9号線に向かって下る時に、西側の斜面にそびえる大きなガラス窓の白いビルがあり「何の建物だろう?」と思われることがあると思います。



この建物は「JSTイノベーションプラザ京都」といい、独立行政法人科学技術振興機構が設置・運営する施設です。大学での独創的研究成果を、できるだけはやく産業界へ提供できるように、企業と大学が共同で「最先端の科学技術の研究をするお手伝い」をしています。お子さんを持つ方には「親子科学体験教室」でおなじみかもしれません。

「親子科学体験教室」は、2004（平成16）年度から年に二回開催されています。近隣の小学生を対象として、理科の内容を上手に説明する人を「JSTサイエンスレンジャー」に認定し、子どもが楽しむような科学実験を行っています。人気者のサイエンスレンジャーには桂高校の理科の先生もおられます。毎回たくさんの応募者があり、地域の方が楽しみにされている催しです。

実施年	タイトル
H16	紙飛行機を作ろう
	手作り蒸気船を走らせてみよう～気体は力持ち
H17	無重力を体験してみよう
	光ってなに…光の正体をみつけよう!
H18	クマちゃんブランコで大車輪～ブランコはなぜこげるのか?
	空気はすごい力持ち!
H19	風船を科学しよう!
	オーロラを作ろう!
H20	スイスイゆらゆら樟脳ボート!
	エアージョーダン～冗談みたいな空気の実験!?
H21	万華鏡を作ろう



京大桂ベンチャープラザ 北館・南館

JSTイノベーションプラザの南側と裏側にあり、大学の最先端技術を実用化して、新事業に取り組む「中小ベンチャー企業」をアシストする施設です。

ここでは日本が世界に誇る最先端技術が生まれ、驚くような製品が開発されています。また、ここに入っている企業の中には、近隣の小学校にパソコンの寄付をしたり、学生の研究の特許出願のサポートなど、地域・学生の教育の援助活動をしているところもあります。



研究開発型企業エリア

北館、南館よりさらに南の国道9号線に近いところには、企業が数社、建物を建てて操業しています。これらも京都大学との共同研究や多くの産業支援機関との連携などにより、新製品の開発・事業化、技術革新などを図っている企業です。



担当 浅田泰子・竹中法子・村上敬衣子



雪の野鳥遊園 山の手倶楽部 松尾隆夫氏

資 料 編

桂坂学区〔西京区〕の年表

2000 — 2009

西 暦	内閣総理大臣	京都市長	桂 坂 [西 京 区]	京都市・国内	世 界
2000 平成12	小淵恵三 森 喜朗 4/5	榎本頼兼 2/3	桂坂自治会館に印刷機 4 各自治会館の用地 京都市に移転登記 6 桂坂学区創立10周年記念 記念誌『桂坂』発行 6/15 少年補導「第1回こどもクリーンデー」開催 6/18 京大桂キャンパス問題連絡協議会設立 8/5 学区民体育祭前夜祭 10/7・体育祭 さくら治会優勝 10/8 「日文研」総合自主防災訓練に初参加 11/5	小淵首相脳梗塞で入院。 内閣総辞職 4/4 衆議院議員選挙 6/25 京都社会福祉協議会 西洋環境開発 より野島園の運営を引き継ぐ 7/1 白川英樹筑波大名教授にノーベル化学賞 10/10	ブーチン ロシアの第2代大統領に当選 3/26 金大中大統領 北朝鮮訪問 6/13 第27回シドニー・オリンピック 9/25
2001 平成13	小泉純一郎 4/26		京大桂キャンパス工事概要等の説明会 1/19 安全祈願祭 2/5 西洋環境開発 事業再開 5 学区民体育祭 くすのき自治会優勝 10/7 桂坂自主防災会 総合自主防災訓練で制服を披露 11/4 「桂坂野鳥遊園を育てる推進会」発足 11/16 あすなろ自治会 発足 11/18 さくら自治会館 竣工 12	家電リサイクル法施行 4/1 改正電波法成立により平成23年アナログ放送の全廃決定 6/8 第19回参議院議員選挙 7/29 国内初のBSE感染牛 9/10 米のテロ報復攻撃支援に自衛隊派遣を決定 9/19 野依良治氏にノーベル化学賞 10/10 海上自衛隊インド洋に出征 11/9 皇太子妃 敬宮を出産 12/1	ブッシュ米大統領就任 (1/20) 米「京都議定書」離脱 (3/28) 米で同時多発テロ発生 (9/11) 米 アフガン空爆を開始 (10/7) WHO 中国の加盟を承認 (11/10)
2002 平成14			菊池潤治桂坂自治連合会長 西京自治連合会長に就任 5 野鳥遊園 第1回ほたる観賞会 6/3～5 桂坂消防分団 湯浅仁司分団長退任 安井義夫分団長就任 8/1 京大桂キャンパス Cクラスターの建設工事開始 9 「プラスチック製容器・包装の分別収集」のモデル地区(6自治会)対象の「地元説明会」 9/3 信号機設置〔桂坂南本通りの横断歩道・西念寺北西角・峰ヶ堂交差点〕 9/20 学区民体育祭 しらかば自治会優勝 10/6 ふれあいの里6施設に「消防福祉ふれあいネットワーク」誕生 10/18 「野鳥遊園友の会」発足・会員募集 12 大枝中の増築工事完了 12	「京都議定書」批准承認 5/21 サッカー日韓W杯開幕 5/31～6/30 日本初の実用人工衛星打ち上げ成功 9/10 小泉首相 北朝鮮を訪問 金正日書記と会談 9/17 ノーベル賞 小柴昌俊氏に物理学賞 田中耕一氏に化学賞 10/8,9 拉致被害者5人帰国 10/15	EUの共通通貨 流通開始 1/1 第19回冬季オリンピック開催 2/8 「千と千尋の神隠し」ベルリン映画祭で「金熊賞」受賞 2/17
2003 平成15	第2次 小泉内閣 11/19		桂坂自主防災会 西京区を代表して京都市出初め式に出場、分列行進 1/11 大文字駅伝 桂坂小初優勝 2/11 西養護学校 改修工事完了 2 「イズミヤ」(来年2月オープン) 出店を計画 2/11 桂坂消防分団 学区内の消火栓点検完了 平成13年10月～平成15年2月23日 桂坂小学校「子ども110番のいえ・マップ」の改訂版を配布 4 京大桂キャンパスへの移転 6 桂坂消防分団「京都市消防団総合査閲」に西京区代表で出場、3位 6/1 細谷公園 開園 8/3 桂坂自治連合会 桂坂消防分団に軽トラックを寄贈 8/22 イズミヤ桂坂店 工事着工 9 京大桂キャンパスに時計塔 9 体育振興会15周年記念イベント(スポーツフェスティバル)開催 9/23 学区民体育祭 もみのき自治会優勝 10/5 京大桂キャンパス竣工式典 10/18 京大桂キャンパス一般見学 11/16 桂坂小「第1回PTAフェスティバル2003」 11/22	ヤサカ交通 JR向日駅行きバスの運行開始 1/14 日本郵政公社発足 4/1 京都府議選・市議選 4/13 個人情報保護関連法案成立 5/23 有事法制関連法案成立 6/6 イラク復興支援特別措置法成立 7/26 日本産トキ全滅 10/10 ブッシュ大統領来日 10/17 第43回総選挙 11/9 米国産牛肉の輸入停止 12/24	北朝鮮 核不拡散条約脱退宣言 1/10 米スペースシャトル「コロンビア」空中分解、乗員7人死亡 2/1 韓国大統領に盧武鉉就任 2/25 米英軍 イラク攻撃開始 3/19 米英軍 イラク全土を掌握 4/14 米大統領 戦闘終結を宣言 5/1 イラク統治評議会 暫定内閣を組閣 9/1 北朝鮮の核問題をめぐる6か国協議スタート 8/27 中国初の有人宇宙船「神舟5号」打ち上げ 10/15 米軍 フェセイン元イラク大統領を拘束 12/13
2004 平成16			洛西老人福祉センター開所 1/5 桂坂体育振興会15周年記念式典 2/22 イズミヤ桂坂店オープン 3/1 カザラッカコンサート「桂坂・音楽の集いカザラッカコンサート」に名称変更 7/17 西京区民文化の集い(「名目観賞の夕べ」改め) 9/4 「プラスチック製容器包装分別収集」説明会 9/10 分別収集桂坂全域で実施 10 桂坂学区民体育祭 もみのき自治会優勝 10/10 NLK 西山祭典2004 11/27・28 民生児童委員協議会会長に木村順子氏 12/1 「ものづくり体験館」落成 12/6	イラクへの自衛隊派遣 衆議院 1/31 参議院 2/3 承認 裁判員制度法成立 5/21 道路公団民営化関連法案成立 6/2 年金改革関連法案成立 6/5 小泉首相 多国籍軍への自衛隊参加を表明 6/8 多国籍軍に参加 6/28 イノベーションパーク内「研究成果活用プラザ京都」開館 6 第20回参議院議員選挙 7/11 新潟中越地震 [M6.8] 10/23 自衛隊イラク派遣1年延長 12/9	第28回アテネ・オリンピック 8/13 米政府調査団 開戦時イラクに大量破壊兵器の開発計画なしと最終報告 10/6 アフガニスタン初の大統領にカルザイ 10/9 ブッシュ大統領再選 11/3 スマトラ沖M9地震、インド洋で津波発生 死者30万人以上 12/26
2005 平成17	第3次 小泉内閣 9/21		桂坂消防分団「ハバラッカ劇団」 四国徳島市で防災劇 3/13 桂坂小の角垣健美校長退職、栗田博校長就任 大枝中の千葉慶昭校長退任、桑原芳夫校長就任 4/1 「日文研」山折哲雄所長退任、片倉もところ所長就任 4/1 桂坂学区 平成17年度の「安心・安全のモデル地区」に指定 6 桂坂自主防災部 災害時の救出・救護希望者の調査 7 桂坂の各防災部 リヤカーを購入 7 倉吉市の自治連合会 桂坂自主防災会の活動を視察研修で来訪 7 西総合養護学校 創立20周年記念式典 8/30 「地域の安心・安全ネットワーク形成事業」モデル地区に指定され「桂坂学区自治連合会安全推進委員会」を設立 9 「第1回 安全対策に関するワークショップ ― 子どもたちを火災や自然災害から守るために」開催 10/8 学区民体育祭 もみのき自治会優勝 10/9	温暖化防止の「京都議定書」発効 2/16 京都市と府の水道管 緊急時に相互供給 2 個人情報保護法施行 4/1 JR福知山線脱線事故 4/25 「みどりの日」を「昭和の日」に改める改正祝日法成立 5/15 プロ野球初のセ・パ交流戦 5 改正介護保険法成立 6/22 東京で震度5強の地震 7/23 郵政民営化関連法案 参院で否決。 首相 衆院を解散 8/8 宮城県で震度6弱の地震 8/16	スマトラ沖でM8.7の大地震発生 3/28 北朝鮮 核放棄を確約 6か国協議 初の共同声明 9/19

2005 平成17		「第2回 安全対策に関するワークショップ 桂坂の犯罪・安全対策における3つの位相と桂坂小PTAの安全対策」11/5 「子どもを守るニューズレター 第1号」発行 11/5 「第3回 安全対策に関するワークショップ—桂坂小における安全対策」12/3 「子どもを守るニューズレター 第2号」発行 12/10	第44回総選挙 9/11 道路公団 分割民営化 9/30	
2006 平成18	安倍晋三 9/26	桂坂小南門の防犯カメラ 録画開始 1 京大桂キャンパスBクラスター内の講堂等の建設工事に関する説明 1/7 「第4回 安全対策に関するワークショップ—桂坂少年補導の活動」1/7 「第5回 安全対策に関するワークショップ—西京警察署・出前防犯教室」2/4 「子どもを守るニューズレター 第3号」発行 2/4 「おりばステーション〈星の坂〉」を西地区に5箇所設置 3 『桂坂学区安全白書2005』発行 3 洛和東桂坂保育園 開園 4/6 「スクールガード・リーダー」桂坂学区内を週2回パトロール 4 山の手倶楽部 「子ども・地域安全〈見守り隊〉活動事業」を開始 9/4～8 西京区誕生30周年記念式典 9/30 学区民体育祭 しらかば自治会優勝 10/8 西京区誕生30周年記念祭 11/4 地域女性会10周年記念講演「食育を考える」11/10	日本郵政会社発足 1/23 イラク派遣の自衛隊撤収決定 6/20 撤収完了 7/17 秋篠宮家に親王誕生 9/6 改正教育基本法成立 12/15 防衛庁の防衛省昇格法成立 12/15 総務省 日本の人口 ピークは平成16年12月の1億2783万人と発表 12/17	第20回トリノ・冬季オリンピック開催 2/10 日本 ワールド・ベースボール・クラシックの初代王者 3/20 イスラエル パレスチナのガザ地区に侵攻 6/27 北朝鮮 核実験実施を発表 10/9 フセイン元大統領に死刑の判決 11/5 死刑執行 12/30
2007 平成19	福田康夫 9/26	安心・安全ネットワーク安全推進委員会「やすらぎトーク」1/20 西京区30周年記念事業「記念モニュメントとタイムカプセル」の設置 3/10 「イズミヤ」レジ袋を有料化 4/5 「日文研」創立20周年記念講演会 5/21 マンション建設問題もちあがる 6 野鳥遊園の観鳥楼に「展示コーナー」復活 7/1 「桂坂建築協定懇談会」設立 7/29 事業主による「マンション建設問題」説明会 8/4 自治連合会「マンション建設に反対」を表明 9/1→広報『桂坂』の号外発行 9/7 桂坂自治連合会ら 洛西支所長に「マンション建設反対の表明」を報告 9/4 菊池自治連合会長 京都市計画局福島景観創生監らに「マンション建設反対の表明」を説明 9/5 建設業者に建設予定地でボーリング調査の動きあり→住民阻止 9/11 京都市議会に対して建設計画中止に関する請願 9/26 学区民体育祭 もみのき自治会優勝 10/7 マンション建設問題説明会 10/16 建設業者 予定地でボーリング調査のため機材撤入 10/18 櫓組立 10/19 京大船井哲良記念講堂・交流センター竣工式 10/20 桂坂平安講社 第九社担当の時代祭「楠公上洛列」に当番として参加 10/22 京都市議会建設消防委員 マンション建設予定地を視察 11/16 マンション建設計画中止決定→広報『桂坂』の号外発行 12/21	防衛省発足 1/9 宙に浮いた年金記録判明 2/16 能登半島沖地震 輪島市などで震度6強 3/25 伊藤長崎市長 狙撃され死亡 4/17 国民投票法成立 5/14 新潟中越沖でM6.8地震 7/16 第21回参議院議員選挙 7/29 月探査衛星の「かぐや」打ち上げ 9/14 郵政民営化スタート 10/1 テロ特措法期限切れで、給油活動の海上自衛隊インド洋から撤収 11/1	韓国の潘基文 国連事務総長に就任 1/1 仏大統領にサルコジ就任 5/6 サブプライムローン問題顕在化 6/22 英首相にブラウン就任 6/27 平壤で7年ぶりに南北首脳会談 10/3 李明博 韓国大統領に就任 12/19 パキスタンのブット元首相 狙撃され死亡 12/27
2008 平成20	門川大作 2/25	日本エスコンより菊池会長宛に「マンションから多目的商業施設に変更する」旨のFAX 2/1 門川市長宛「商業施設」の交通問題に関する要望書 3/19 西総合支援学校の朝野校長退任、永井校長就任 4/1 「日文研」片倉所長退任 猪木所長就任 4/1 日赤奉仕団・共同募金会の細川和子氏退任、松井政枝氏就任 4/1 もくれん自治会 発足 5 「桂坂ホットラインの会」発足★ 5 桂坂自主防災会 神戸「人と防災未来センター」見学★ 6/8 「桂坂ホットラインの会」受け入れ態勢整う 8 防犯推進委員協議会の「青バト」発進 8 第1回「環境に優しい暮らしのフォーラム」★ 8/31 桂坂社会福祉協議会「福祉フェスタ」★ 9/13 学区民体育祭前夜祭★ 10/11 学区民体育祭 しらかば自治会優勝★ 10/12 「桂坂・音楽の集い カザラッカコンサート」〔桂坂小学校創立20周年記念事業〕10/18 10周年記念の「タイムカプセル」中身を展示〔桂坂小学校創立20周年記念事業〕10/18 第2回「環境に優しい暮らしのフォーラム」★ 10/26 「防災フェスティバル」〔消防分団10周年記念〕11/2 山の手倶楽部・地域女性会「合同作品展」★ 11/2・3 桂坂学区創立20周年記念式典★ 11/16 桂坂ふれあい会★ 11/6 菊池自治連合会長・田中マンション対策会議会長 門川市長宛に「桂坂センター地区の景観について要望」書12/12	中国製冷凍餃子から殺虫剤性分を検出 1/30 円高で12年ぶりに1ドル100円突破 3/13 日銀総裁に白川方明副総裁 就任 4/9 岩手・宮城内陸地震 震度6強 6/14 事故米の食用への転売発覚 9/5 南部陽一郎・小林誠・益川俊英にノーベル物理学賞、下村脩に化学賞 10/8・9 定額給付金 一人当たり1万2000円 11/12 航空自衛隊 イラクより撤収命令 11/28 平成21年度政府予算案、一般会計で過去最大の88兆円 12/24 日比谷公園に「年越し村」開設 12/30	中国四川省でM8.0の大地震。死者6万9000人以上 5/12 北京オリンピック開催 8/8 リーマン・ブラザーズ経営破綻。世界金融危機の発端 9/15 米大統領選、オバマ当選 11/4 クワター爆弾禁止条約、日本を含む94か国が署名 12/4
2009 平成21		桂坂地区建築協定協議会・勉強会 2/22 西洋ハウジングの新規工区の造成 3	イラク派遣の自衛隊撤退完了 2/14	アメリカ イラクからの撤退表明 2/27

項目後の★印は「桂坂学区創立20周年記念事業」を示す。

参考文献 『増補版 昭和・平成現代史年表』（小学館 2009.3.30刊）

自治連合会役員名簿

敬称略

役 職	2000 (平成12)	2001 (平成13)	2002 (平成14)	2003 (平成15)	2004 (平成16)	2005 (平成17)	2006 (平成18)	2007 (平成19)	2008 (平成20)	2009 (平成21)
会 長	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治
副 会 長	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	星野 義一
副 会 長	川上 惇	川上 惇	川上 惇	川上 惇	川上 惇	川上 惇	星野 義一	星野 義一	星野 義一	細谷 修三
副 会 長	石塚 毅	星野 義一	星野 義一	星野 義一	星野 義一	星野 義一	細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三	伊藤 一男
副 会 長			細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三	伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	中川マスコ
副 会 長				片山 健次	片山 健次	片山 健次	中川マスコ	中川マスコ	中川マスコ	林 正信
副 会 長				伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	林 正信	林 正信	林 正信	山崎 貴治
会 計	細谷 修三			細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三
会 計	片山 健次	片山 健次	片山 健次							
事 務 局 長	鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄
事 務 局	早川美登里	細川 和子	細川 和子	中川マスコ	中川マスコ	長谷川幸子	長谷川幸子	長谷川幸子	長谷川幸子	長谷川幸子
事 務 局	谷口 和子	谷口 和子	佐藤富紀子	佐藤富紀子	長谷川幸子	平岡 和子	平岡 和子	平岡 和子	平岡 和子	平岡 和子
事 務 局		堀部 聖子	堀部 聖子	堀部 聖子	平岡 和子					
自治会館担当	細川 和子	佐橋 能理	佐橋 能理	佐橋 能理	佐橋 能理	佐橋 能理	佐橋 能理	佐橋 能理	小西 京子	小西 京子
自治会館担当	福田 昭子	福田 昭子	竹田 晴美	小西 京子	小西 京子	小西 京子	小西 京子	小西 京子	内田 圭子	内田 圭子
防犯防災担当	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	飯田 彰	山内 朋子	田中 直子	藤原千代子	水谷 恵一	亀川 良夫	
青少年担当		岡田 勝	吉村 昌祐	種子尾 晃	古屋 和俊	山岡 博子	亀川 良夫	亀川 良夫	二宮 四郎	北川 忠是
福祉担当		福村 喜之	亀川 良夫	亀川 良夫	後藤 弘子	緒方 伸好	青山 正男	田中 守	長坂 生人	斉藤 誠
体育担当(正)		一宮 照彦	三宅 信一	齋藤 博司	越智 述史	市川 諭	尾崎 裕之	岡本 忠幸	山崎 貴治	谷口 栄一
体育担当(副)			佐藤 俊也	藤原 恵一	辻 敏雄	長谷川文彦	大原 雅行	河合 行朗	安本 英憲	神藤 幸治
交通安全担当		小宅 映士	乾 宗和	山本 清文	中西 敏生	林 正信	操谷 俊之	宮島 義一	大西 功	森田 博
環境美化担当(正)	阪本 健	中尾真佐子	横田 誠	米元 瞭	波瀲 康文	岸波 敏明	大嶽 繁	小澤 正人	村上 健一	竹原 範道
環境美化担当(副)	西川 重幸	公手 修一	館花 次平	南端 慎次	平山 聡	山岡 豊史	八田 信男	川西 隆	大川 義弘	能勢 一司
環境美化担当(副)	検校 正昭									林 直子
河川美化担当(正)	乗本 政三	越當 秀雄	左地 良夫	吉田 靖彦	四方 繁雄	中 純子	中谷 富治	上山いゝこ	箕田 恭子	島田 直美
河川美化担当(副)	白井 芳雄	松家 幸男	渡辺 桂	岡村 重臣	矢部 邦昭	石原 道代	白井 芳雄	植田 光彦	花木 伸一	山原 康裕
文化普及担当(正)	広瀬 章									
文化普及担当(副)	西澤 四郎									
総務担当(正)	中川 礼子	竹田 晴美	岡村 玲子	黒柳 哲昭	亀川 良夫	亀川 良夫	吉野 孝	小迫 久男	葉山八重子	鈴木 孝治
総務担当(副)	加藤 志保	赤松 郁子	小西 京子	李 弘子	森上知加子	中崎 清藏	佐藤 利春	大下 典子	西上 真弓	西村 勉
総務担当(副)	中村 美樹									
庶務担当(正)	圓本 典子	福井みどり	吉田美智子	小寺 郁子	浜口 憲一	野中 秀軌	大八木慎一郎	谷口あゆみ	加藤 典子	五十楼高志
庶務担当(副)	梅田 正弘	稲垣 恵子	山本 敏広	濱本 弘子	阿部 浩	山本 賢	石井 洋子	鶴谷美貴子	小島志津子	蓑島 潔
庶務担当(副)	衣川 圭二									
監 査 役	植村 淳二	植村 淳二	植村 淳二	岡 頼男	岡 頼男	岡 頼男	岡 頼男	岡 頼男	岡 頼男	岡 頼男
監 査 役	柳原 徹	柳原 徹	岡 頼男	日比野俊之	日比野俊之	日比野俊之	日比野俊之	日比野俊之	日比野俊之	日比野俊之
顧 問	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍		
相 談 役		糀田 博	糀田 博	糀田 博	糀田 博	糀田 博	糀田 博	糀田 博	糀田 博	糀田 博
相 談 役										田畑 昭三
広報編集部(正)	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄
広報編集部(副)	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美
広報編集部(副)							浅田 泰子	浅田 泰子	浅田 泰子	浅田 泰子
広報編集部(副)						山澤 佳枝	山澤 佳枝		島田 公子	島田 公子
広報編集部(副)						渡部 悦子	渡部 悦子		島田 隆敬	島田 隆敬

自治会長・自治連合会委員名簿

敬称略

自治会	連合加入年	2000 (平成12)	2001 (平成13)	2002 (平成14)	2003 (平成15)	2004 (平成16)	2005 (平成17)	2006 (平成18)	2007 (平成19)	2008 (平成20)	2009 (平成21)
かえで自治会会長 自治連合会委員	1988 (昭和63)	阪本 健 藤田 紀一	稲垣 恵子 藤田 紀一	左地 良夫 小西 恵	李 弘子 山本 孝子	後藤 弘子 藤田 紀一	中 純子 馬江奈菜子	中谷 富治 吉田 司	谷口あゆみ 上田 明美	箕田 恭子 小島 淳子	西村 勉 村上 實
しらかば自治会会長 自治連合会委員	1988 (昭和63)	乗本 政三 大成 善一	越當 秀雄 谷 龍彦	渡辺 桂 小浜 善信	吉田 靖彦 圓山 秀雄	四方 繁雄 松田 弘	石原 道代 岡垣 哲弥	吉野 孝 宮原 忠夫	岡本 忠幸 塩見 善昭	村上 健一 松井 清文	能勢 一司 木村 順子
さつき自治会会長 自治連合会委員	1989 (平成元)	西川 重幸 津田 英明	福村 喜之 藤井 正子	岡村 玲子 門西 聡子	齋藤 博司 日尾 透	越智 述史 長谷川健児	長谷川文彦 渡辺喜久雄	大八木慎一郎 丸山 増幸	宮島 義夫 菅野 郁江	長坂 生人 八木 雄司	斉藤 誠 田中 信子
あかしあ自治会会長 自治連合会委員	1990 (平成2)	西澤 四郎 植月 昌三	星野 義一 齊藤 貴之	星野 義一 黒柳 哲昭	黒柳 哲昭 松本 正	矢部 邦昭 木原 透	山本 賢 谷 良文	石井 洋子 川村 龍平	鶴谷美貴子 奥田 成子	葉山八重子 岸田 由美	森田 博 松本 正
ひいらぎ自治会会長 自治連合会委員	1990 (平成2)	中川 礼子 山口 和枝	竹田 晴美 笹井 彌生	乾 宗和 中山 英樹	山本 清文 濱田 隆夫	山内 朋子 佐々木成子	田中 直子 室 文子	藤原千代子 山上あり子	大下 典子 大場 恵子	小島志津子 西澤 秀美	蓑島 潔 鎌田由美子
ぼぶら自治会会長 自治連合会委員	1991 (平成3)	白井 芳雄 山瀬 町子	松家 幸男 岡野 寿義	山本 敏広 松山三津夫	小寺 郁子 上田佐知子	浜口 憲一 安達 峰子	野中 秀軌 吉田 弘美	白井 芳雄 中嶋 二郎	植田 光彦 作井 正人	加藤 典子 土井 晴美	島田 直美 吉田 啓佑
つばき自治会会長 自治連合会委員	1991 (平成3)	加藤 志保 橋本 佳奈	赤松 郁子 笹田恵美子	小西 京子 山田 安枝	濱本 弘子 有田美波子	古屋 和俊 松永 真美	山岡 博子 今川 京子	青山 正男 深井 芳子	田中 守 中川アツ子	大西 功 千村 盛幸	谷口 栄一 佐々木良一
はなみずき自治会会長 自治連合会委員	1992 (平成4)	広瀬 章 大川 義弘	一宮 照彦 五十嵐裕子	三宅 信一 篠部 倫子	藤原 恵一 長谷川悦子	辻 敏雄 松井 一男	岸波 敏明 祝部 晴美	操谷 俊之 川西 勝	川西 隆 瀬古 誠	大川 義弘 南 あゆみ	鈴木 孝治 坂 治美
けやき自治会会長 自治連合会委員	1995 (平成7)	梅田 正弘 早寄 香織	福井みどり 北出 幸子	吉田美智子 松本 朝生	種子尾 晃 宗川 勝彦	森上知加子 三河 国夫	中崎 清藏 矢本 知里	尾崎 裕之 岩本 京子	上山いくこ 小谷 理明	西上 真弓 松尾裕美子	林 直子 寺田さとみ
にれのき自治会会長 自治連合会委員	1996 (平成8)	衣川 圭二 山澤 嗣郎	公手 修一 木場 尚子	横田 誠 安藤 正也	飯田 彰 酒井 信一	波駕 康文 桑原 尚史	山岡 豊史 伊藤万美子	大嶽 繁 中村 享子	水谷 恵一 塩貝 美鈴	安本 英憲 朴 龍三	五十榎高志 大藪 博
さくら自治会会長 自治連合会委員	1996 (平成8)	圓本 典子 力石 忠行	岡田 勝 武守 明彦	佐藤 俊也 野崎 敏治	岡村 重臣 千葉 仁	中西 敏生 竹原 範道	林 正信 井ノ崎光彦	佐藤 利春 角江 誠一	小迫 久男 中村 康夫	花木 伸一 安東 俊治	竹原 範道 酒井 秀夫
もみのき自治会会長 自治連合会委員	1997 (平成9)	中村 美樹 辻村 依子	中尾真佐子 田窪 浩治	館花 次平 舟木 良二	南端 慎次 井出口由紀	平山 聡 星野 民嗣	市川 諭 神野 卓三	大原 雅行 唐木 利朗	小澤 正人 小川 聡	二宮 四郎 上山 舞	山原 康裕 山内 淳二
くすのき自治会会長 自治連合会委員	1999 (平成11)	検校 正昭 橋本 明浩	小宅 映士 西村 克英	吉村 昌祐 中村 優	米元 瞭 岡田 啓史	阿部 浩 菅原 正幸	緒方 伸好 西村 雅夫	八田 信男 中村 康弘	河合 行朗 高木 敏彦	山崎 貴治 越智田順子	神藤 幸治 内本 善孝
あすなろ自治会会長 自治連合会委員	2001 (平成13)			亀川 良夫 小森 悟	亀川 良夫 小森 悟	亀川 良夫 小森 悟	亀川 良夫 小森 悟	亀川 良夫 小森 悟	亀川 良夫 小森 悟	亀川 良夫 松山 伸治	松山 伸治
もくれん自治会会長 自治連合会委員	2008 (平成20)										北川 忠志 大八木秀夫

※自治会の順序は、自治連合会の各年度の総会資料に基づき、連合会への加入年によって配列しています。



五月 雨あがりの公園 胡興柏氏

桂坂学区各種団体・施設等役員名簿

敬称略

団体・施設名	役 職	2000 (平成12)	2001 (平成13)	2002 (平成14)	2003 (平成15)	2004 (平成16)	2005 (平成17)	2006 (平成18)	2007 (平成19)	2008 (平成20)	2009 (平成21)
市政協力委員連絡協議会	会 長	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治
桂坂自主防災会	会 長	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治
桂坂教育後援会	会 長	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治
京大キャンパス問題連絡協議会	会 長	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治
桂坂学区社会福祉協議会	会 長	山口 和枝	山口 和枝	山口 和枝	山口 和枝	山口 和枝	山口 和枝	山口 和枝	山口 和枝	山口 和枝	星野 義一
桂坂体育振興会	会 長	布本 和久	布本 和久	布本 和久	布本 和久	布本 和久	布本 和久	布本 和久	布本 和久	布本 和久	布本 和久
日赤奉仕団桂坂分団	分団長	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	松井 政枝	松井 政枝
共同募金会桂坂分会	分会長	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	細川 和子	松井 政枝	松井 政枝
桂坂保健協議会・献血会	会 長	松尾 隆夫	松尾 隆夫	松尾 隆夫	飯田 章	飯田 章	飯田 章	飯田 章	飯田 章	飯田 章	飯田 章
桂坂学区民生児童委員協議会	会 長	酒井 厚	酒井 厚	酒井 厚	酒井 厚	酒井 厚	木村 順子	木村 順子	木村 順子	木村 順子	木村 順子
桂坂地域女性会	会 長	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美	井ノ崎重美
西京少年補導委員会桂坂支部	支部長	柄本 憲秀	柄本 憲秀	柄本 憲秀	柄本 憲秀	柄本 憲秀	柄本 憲秀	柄本 憲秀	柄本 憲秀	柄本 憲秀	柄本 憲秀
桂坂交通安全推進会	会 長	伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	伊藤 一男	森園 秀治
桂坂交通安全推進会女性部	部 長	戸田 晴子	戸田 晴子	戸田 晴子	原田 安子	原田 安子	原田 安子	原田 安子	原田 安子	原田 安子	原田 安子
桂坂山の手倶楽部	会 長	上久保潤次郎	野口 修	山本 昭	山本 昭	山本 昭	山本 昭	岡 頼男	岡 頼男	岡 頼男	乗本 政三
西京消防団桂坂分団	分団長	湯浅 仁司	湯浅 仁司	湯浅 仁司	安井 義夫	安井 義夫	安井 義夫	安井 義夫	安井 義夫	安井 義夫	安井 義夫
桂坂防犯推進委員協議会	会 長	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎
桂坂暴力追放協議会	会 長	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治
西京更生保護女性会桂坂学区	代 表		松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝
西京地区桂坂支部保護司会	代 表		松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝	松井 政枝
西京明るい選挙推進協議会	責任者		飯田満智子	飯田満智子	飯田満智子	飯田満智子	飯田満智子	飯田満智子	細川 和子	細川 和子	細川 和子
平安講社第九社桂坂学区	代 表	梶田 博	梶田 博	梶田 博	梶田 博	梶田 博	梶田 博	梶田 博	梶田 博	梶田 博	梶田 博
桂坂地区建築協定協議会	会 長									村上 實	村上 實
桂坂小学校 PTA	会 長	平手 伸治	柄本 憲秀	柄本 憲秀	有賀 郁敏	有賀 郁敏	有賀 郁敏	藤本 明弘	藤本 明弘	窪田 知史	窪田 知史
大枝中学校 PTA	会 長	琴浦 良子	谷水 里美	副渡邊澄代	副戸田和美	岡村 玲子	副川山理恵	村上敬衣子	松井 純子	副市川陽子	武村 葉子
桂坂小学校	校 長	角垣 健美	角垣 健美	角垣 健美	角垣 健美	角垣 健美	栗田 博	栗田 博	栗田 博	栗田 博	山本 泉
大枝中学校	校 長	朽木 長綱	朽木 長綱	千葉 慶昭	千葉 慶昭	千葉 慶昭	桑原 芳夫	桑原 芳夫	長谷川 力	長谷川 力	橋本 秀明
西総合支援学校	校 長	朝野 浩	朝野 浩	朝野 浩	朝野 浩	朝野 浩	朝野 浩	朝野 浩	朝野 浩	永井 実	永井 実
国際日本文化研究センター	所 長	河合 隼雄	河合 隼雄	山折 哲雄	山折 哲雄	山折 哲雄	片倉もところ	片倉もところ	片倉もところ	猪木 武徳	猪木 武徳
桂坂保育所	所 長	長井 妙子	長井 妙子	藤村 貴子	藤村 貴子	藤村 貴子	藤村 貴子	藤村 貴子	藤村 貴子	藤村 貴子	藤村 貴子
桂坂児童館	館 長	小倉恵美子	小倉恵美子	小倉恵美子	小倉恵美子	小倉恵美子	小倉恵美子	小倉恵美子	小倉恵美子	小倉恵美子	木越 俊雄
東桂坂保育園	園 長							石本オサメ	石本オサメ	石本オサメ	石本オサメ
ふれあいの里保養研修センター	事務局長	谷口 彰	谷口 彰	岡本 重雄						大川 昭	
	館 長				岡本 重雄	岡本 重雄	岡本 重雄	岡本 重雄	岡本 重雄		
	所 長										玉置 敏康
ふれあいの里更生園	施設長	那須 徹朗	那須 徹朗	近藤 義暖	福田 吉純	福田 吉純	本多 順	今城 孝男	今城 孝男	浅井伊知人	浅井伊知人
ふれあいの里授産園	施設長	伊藤 正子	伊藤 正子	坂東 敏和	坂東 敏和	本多 順	上田 昌央	上田 昌央	上田 昌央	上田 昌央	赤井 和子
ふれあいの里療養園	施設長	高田 功	飯田 哲夫	山口 雅	村上 高久	村上 高久	村上 高久	村上 高久	村上 高久	村上 高久	阪田 信弘
特別養護老人ホーム沓掛寮	施設長	太田 嘉繼	太田 嘉繼	太田 嘉繼	菅 剛	菅 剛	菅 剛	菅 剛	菅 剛	菅 剛	佐貫 眞一

桂坂学区内表彰者 [2000 (平成12) 年～ 2008 (平成20) 年]

敬称略

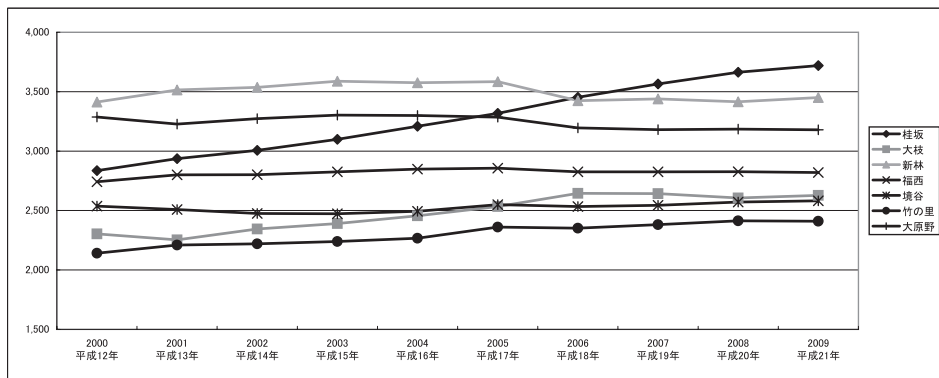
<p>国土交通大臣表彰 [2002(平成14)/ 6/] 別所貞俊 文化功労賞 [2004(平成16)/11/ 3] 中西 進 環境大臣表彰 [2007(平成19)/ 6/11] 田畑昭三 厚生労働大臣特別表彰 [2008(平成20)/ 6/13] 酒井 厚 文部科学大臣表彰 [2008(平成20)/11/25] 桂坂自治連合会</p>
<p>京都府「環境保全功労者」表彰 [2000(平成12)/ 6/19] 田畑昭三 京都府開廳記念日表彰 [2006(平成18)/ 6/19] 桂坂自治連合会 地方自治法施行60周年記念特別表彰 [2007(平成19)/ 6/19] 菊池潤治 京都府警本部長表彰 [2007(平成19)/10/11] 菊池潤治防犯推進委員協議会理事 京都府交通対策協議会表彰 [2007(平成19)/10/26] 桂坂交通安全推進会</p>
<p>「市民憲章」推進者表彰 2000(平成12)/ 6/ 2 市長表彰 ひいらぎ自治会・つばき自治会・地域女性会 2001(平成13)/ 5/31 市長表彰 けやき自治会 西京区長表彰 さくら自治会 2002(平成14)/ 5/31 西京区長表彰 桂坂小PTA 2003(平成15)/ 5/30 市長表彰 さくら自治会・もみのき自治会 2004(平成16)/ 5/30 西京区長表彰 川上 惇・橋本高明・二郷 武 (5/30) 2005(平成17)/ 5/30 西京区長表彰 中川マスコ・佐橋能理 2006(平成18)/ 5/31 市長表彰 川上 惇・橋本高明・二郷 武 西京区長表彰 小西京子 2007(平成19)/ 11/3 市長表彰 佐橋能理・中川マスコ・桂坂民生児童委員協議会 (優良団体として) 西京区長表彰 原田安子 2008(平成20)/ 6/19 市長表彰 小西京子 西京区長表彰 長谷川幸子・平岡和子</p>
<p>「自治記念日」表彰 2000(平成12)/10/15 篤志者表彰 中路融人・桂坂自治連合会・桂坂小学校創立10周年記念事業実行委員会 「千年新都推進」感謝状 松尾隆夫・伊藤一男・布本和久・加藤喜代子 2001(平成13)/10/15 市長表彰 森田 博・喜多みどり・福田敏子・「中信」桂坂支店 2002(平成14)/10/15 市長表彰 菊池潤治自治連合会長・田畑昭三自治連合会副会長・山本昭山の手俱樂部会長・桂坂学区自治連合会桂坂地区ごみ減量推進会議 2003(平成15)/10/15 市長表彰 菊池潤治・矢本知里・星野義一 2004(平成16)/10/15 篤志者表彰 中路融人 市長表彰 酒井 厚・細谷修三・片山健次 2005(平成17)/10/15 市長表彰 糺田 博・鈴木文雄 2006(平成18)/10/15 市長表彰 自治連合会安全推進委員会・桂坂地区ごみ減量推進会議・井ノ崎重美・細川和子・山口和枝 2007(平成19)/10/15 市長表彰 飯田 章・上門俊夫 2008(平成20)/10/15 市政功労者特別表彰 中西 進 市長表彰 菊池潤治・岡 頼男・松井政枝・桂坂小学校PTA</p>
<p>「京都市子どもエコグランプリ」 [2001年(平成13)/ 3/ 3] 桂坂小学校 京都市教育委員会表彰 [2002(平成14)/10/] 山の手倶楽部 [学校支援ボランティア活動] わいわい広場15周年記念表彰 [2003(平成15)/ 7/28] 市長表彰 桂坂自治連合会・桂坂社会福祉協議会・桂坂地域女性会 京都市教育長感謝状 [2004(平成16)/11/ 1] 桂坂教育後援会 子どもの読書活動優秀実践団体表彰 [2007(平成19)/4/29] 京都市教育長賞 本とお話の会 パンフルート</p>
<p>京都市保健協議会「役員勤続功労者」表彰 [2005(平成17)/11/ 2] 亀川良夫・桂坂献血会 京都市保健協議会「役員勤続功労者」表彰 [2006(平成18)/11/ 2] 市長表彰 飯田 章・綱島 博・宮尾廣一・田畑昭三・川上 惇</p>
<p>「消防記念日」表彰 2000(平成12)/ 3/ 7 消防局長表彰 しらかば自主防災部 西京消防署長表彰 さつき自主防災部 2001(平成13)/ 3/ 7 市長表彰 ひいらぎ防災部 西京消防署長表彰 つばき自主防災部・「日文研」・西養護学校・更生園 功労者表彰 田畑昭三・石塚 毅 2002(平成14)/ 3/ 7 市長表彰 あかしあ自主防災部 西京消防署長表彰 桂坂自治連合会 2004(平成16)/ 3/ 7 消防局長表彰 桂坂学区自主防災会・つばき自主防災部 西京消防署長表彰 さくら自主防災部・細谷修三 2006(平成18)/ 3/ 5 市長表彰 桂坂自主防災会 西京消防署長表彰 くすのき自主防災部 2007(平成19)/ 3/ 7 市長表彰 星野義一 消防局長表彰 けやき自主防災部 西京消防署長表彰 もみのき自主防災部</p>
<p>京都府共同募金会表彰 [2003(平成15)] 共同募金会桂坂分会 日赤献血功労者表彰「銀色有功章」 [2006(平成18)/10/23] 桂坂献血会</p>
<p>桂坂学区創立20周年記念表彰 [2008(平成20)/11/16] 特別功労者 市長表彰 湯浅 忍・田畑 昭三・加藤 貞雄 功労者 桂坂学区自治連合会会長表彰 青井 勇・浅田 泰子・飯田 章・井出慎太郎・伊藤 一男・井ノ崎重美・岩本 致二・上門 俊夫・植月 昌三 岡 頼男・岡本多美子・大林 春子・小川 誠・梶間 俊郎・亀川 良夫・基太村博美・木村 順子・倉田 容 糺田 博・河野 和弘・小西 京子・坂井 義男・佐川 早苗・佐橋 能理・鈴木 晃司・鈴木 文雄・藺部 和栄 谷口 和子・柄本 憲秀・綱島 博・中川マスコ・服部 憲夫・原田 安子・平岡 和子・船越 彰・布本 和久 星野 法子・星野 義一・細居 修三・細川 和明・細川 和子・細谷 修三・前田 富造・松井 政枝・道端 進 真野貴美代・八木 兵司・安井 義夫・矢本 知里・山口 和枝・山口 敏和・湧田早夜子</p>

付記：この名簿は、桂坂自治連合会の把握する資料に拠って作成しています。

国勢統計区別 [世帯数および人口] (各年とも4月1日現在の推計に拠る)

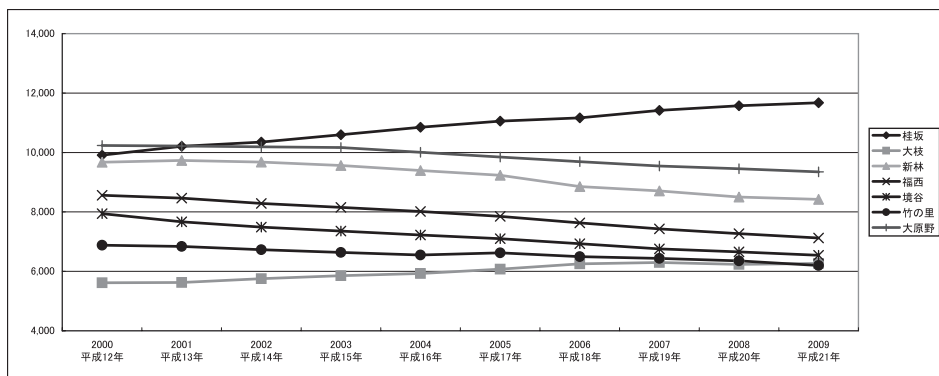
世帯数

	2000 平成12年	2001 平成13年	2002 平成14年	2003 平成15年	2004 平成16年	2005 平成17年	2006 平成18年	2007 平成19年	2008 平成20年	2009 平成21年
西京区	56,313	57,010	57,581	58,186	59,041	59,893	59,981	60,412	60,868	61,353
洛西支所	19,259	19,451	19,656	19,918	20,148	20,490	20,428	20,577	20,681	20,789
桂坂	2,836	2,937	3,006	3,099	3,209	3,318	3,453	3,565	3,663	3,720
大枝	2,303	2,253	2,345	2,390	2,456	2,534	2,645	2,642	2,606	2,627
新林	3,413	3,515	3,536	3,588	3,575	3,584	3,424	3,439	3,415	3,451
福西	2,742	2,800	2,801	2,826	2,848	2,857	2,825	2,826	2,827	2,820
境谷	2,537	2,509	2,475	2,473	2,494	2,550	2,534	2,544	2,572	2,582
竹の里	2,141	2,210	2,220	2,239	2,267	2,361	2,352	2,381	2,413	2,410
大原野	3,287	3,227	3,273	3,303	3,299	3,286	3,195	3,180	3,185	3,179



人口

	2000 平成12年	2001 平成13年	2002 平成14年	2003 平成15年	2004 平成16年	2005 平成17年	2006 平成18年	2007 平成19年	2008 平成20年	2009 平成21年
西京区	155,070	155,676	155,477	155,483	155,378	155,596	154,554	153,927	153,319	152,771
洛西支所	58,817	58,752	58,477	58,335	57,967	57,787	57,042	56,591	56,046	55,573
桂坂	9,909	10,208	10,353	10,598	10,851	11,058	11,167	11,419	11,575	11,673
大枝	5,617	5,624	5,752	5,856	5,926	6,074	6,254	6,298	6,236	6,267
新林	9,673	9,734	9,677	9,564	9,396	9,232	8,852	8,705	8,501	8,422
福西	8,562	8,462	8,285	8,155	8,014	7,852	7,630	7,428	7,268	7,122
境谷	7,941	7,666	7,490	7,358	7,222	7,100	6,932	6,758	6,656	6,543
竹の里	6,881	6,841	6,730	6,638	6,550	6,625	6,494	6,438	6,355	6,196
大原野	10,234	10,217	10,190	10,166	10,008	9,848	9,690	9,545	9,455	9,350



桂坂学区創立20周年記念事業実行委員会

敬称略

顧問	湯浅 忍・佐川 公也・糺田 博
委員長	菊池 潤治
副委員長	田畑 昭三・星野 義一・細谷 修三・伊藤 一男・中川マスコ・林 正信
事務局長	鈴木 文雄
事務局補佐	長谷川幸子・平岡 和子・小西 京子・内田 圭子
会計	細谷 修三
会計監査	岡 頼男・日比野俊之
委員	糺田 恭子・長坂 生人・村上 健一・大川 義弘・葉山八重子・加藤 典子・西上 真弓・小島志津子 大西 功・山崎 貴治・亀川 良夫・安本 英憲・二宮 四郎・花木 伸一・北川 忠是・山口 和枝 布本 和久・松井 政枝・飯田 章・木村 順子・柄本 憲秀・安井 義夫・井ノ崎重美・梶間 俊郎 岡 頼男・細川 和子
学校関係	桂坂小学校校長 栗田 博・教頭 早川 昇・教務主任 山田 栄造

専門部会

記念式典部会	部会長 田畑 昭三 副部会長 鈴木 文雄
事業部会	部会長 星野 義一 副部会長 細谷 修三
記念誌部会	部会長 加藤 貞雄 副部会長 浅田 泰子・若山佐知子 部会員 案田 千草・石田 昌代・市川 陽子・井ノ崎重美・植月 昌三・大西 功・大西 佳子 大場 りさ・木村 昌年・小西 千春・小林 恵子・塩見 敦子・島田 公子・島田 隆敬 竹中 俣子・武長 房子・武村 葉子・二枝由佳子・福丸 裕世・本間久仁子・増田 靖子 松井 純子・松浦 純子・村井 幸子・村上敬衣子・山田佐栄子
環境美化部会	部会長 林 正信 副部会長 伊藤 一男
体育部会	部会長 布本 和久 副部会長 鈴木 晃司
防災部会	部会長 安井 義夫 副部会長 山口 敏和・坂井 義男・足立 省二・岡本多美子

参 与

国際日本文化研究センター所長	猪木 武徳
桂坂小学校校長	栗田 博
大枝中学校校長	長谷川 力
西総合養護学校校長	永井 実
桂坂保育所所長	藤村 貴子
桂坂児童館館長	小倉恵美子
東桂坂保育園園長	石本オサメ
ふれあいの里保養研修センター事務局長	大川 昭
ふれあいの里更生園施設長	浅井伊知人
ふれあいの里授産園施設長	上田 昌央
ふれあいの里療護園施設長	村上 高久
特別養護老人ホーム沓掛寮施設長	佐貫 真一
(株)西洋ハウジング支店長	扇 憲嗣
デーリーカーナート イズミヤ店長	石田 裕司
(株)パルコスペースシステムズセンター長	伊東 雅隆



編集後記

「記念誌」の編集を終えるに当り、ご多忙の中、祝辞をお寄せいただいた門川京都市長、古川西京区長、水口洛西担当区長のお三方、ならびに下に列記する方々にまず心よりお礼を申し上げます。インタビュー、アンケート調査などに快く応じてくださり、また、文章や的確な情報や資料、助言をいただきました。いくらかこの「記念誌」が読むにたえるような形につくりえたとするならば、こうしたお力添えがあったればこそで、ここに協力いただいた方のお名前を記してお礼申し上げる次第です。ありがとうございました。

青山正男 赤井和子 浅井伊知人 荒川林太郎 有賀郁敏 飯田章 石川順一
五十棲高志 伊藤和光 伊藤雅緒 入江雅子 内田圭子 岡田直司 岡村英明
梶間俊郎 亀川良夫 川崎久美子 北浦和子 北川忠是 窪田知史 窪田実
栗田博 桑原尚史 小迫久男 小林一義 小林健一 斉藤誠 榊信一
阪田信弘 島田直美 神藤幸治 鈴木孝治 竹原範道 田中智美 谷口栄一
玉置敏康 柄本憲秀 角垣健美 東郷寛 徳光俊二 中西敏生 西村勉
能勢一司 乗本政三 裕弘幸 橋本秀明 早川昇 林敬 林直子 平元良子
藤田進 藤本明弘 布本和久 益枝田恵子 松尾義平 松尾隆夫 松尾知恵
松永裕之 松波弘之 蓑島潔 箕田恭子 村上實 森田博 八木平司
安井義夫 山口和枝 山田栄造 山原泰裕 山本泉 山本真由美
桂坂小学校PTA 大枝中学校PTA 木もれ日 桂坂小学校 大枝中学校
桂坂保育所 桂坂児童館 東桂坂保育園 京都大学桂キャンパス
㈱西洋ハウジング京都支店 西京警察署生活安全課 西京警察署大枝交番

敬称略

総勢29名の編集委員はそれぞれが心に喚びもどしたこの新しいまちの「まちづくりの歴史」を十分にふまえ、現在の、そして将来の桂坂を考えるとという「記念誌」編集の大本となることを確認することから出発しました。筆を執るまえに幾度か話し合い、おおよその「桂坂像」を描きあげたわけです。

日常生活の中で、あるいは緑や景物に触れつつ散策を楽しむ中で私たちの目にする桂坂の姿は、高々20年ほどの時を刻んだに過ぎません。しかし、桂坂の歴史は20年ほど前を「最古」とするような短いものとはいえ、この時間の推移からは先人の「まちづくり」に対する理念や寄せられた思いを読みとることができ、また、現在の桂坂の緑豊かな自然のありよう、恵まれた生活環境などが住む私たちの思考、行動の起点となって様々な活動を生み出していることも把握できました。

そこで私たちは、さして長くはない桂坂の「古」につき込まれた英智と^{おも}労力を推し量りながら、現在、あるいは将来に互る桂坂のコミュニティの形成に、そして後々、心の回帰しうる「ふるさと」形成に日頃尽力されている人たちの自治活動と共同への力強い動きをできるだけ幅広く多彩に述べていくことを心がけました。8つの柱を立て、各人いくつかのグループに所属して作成したものがこの記念誌です。身近に置いていただけたら幸いです。

桂坂学区創立20周年記念事業記念誌部会

発行
2009（平成21）年12月

発行者
桂坂学区創立20周年
記念事業実行委員会
委員長 菊池潤治

印刷
㈱北斗プリント社